

答 應化身(Nirmanakayas)とは涅槃及循環(休息)を得る權利は有れど、人間及此の世に生残つた人々に對する憐憫の爲に、此の涅槃状態を犠牲にする人々に附けた名稱で有ります。其の様な仙人(名は何と云ふても差支ないが)は無智より起る不幸の爲に、人間が苦んで居るにも拘はらず、祝福を受けて休息するのは、自己的事と信じて涅槃を犠牲にし、此の世に靈物と成つて目に觸れないで居ようとするので有ります。應化身(Nirmanakayas)は肉體を脱したものですから、物質的の體は具へて居ません。併し此の世に於て靈氣的存在の狀に在ても其のNirmanakayas は、他の本因を總て保つて居ります。而して其の様な者は、小數撰り抜の人と交通が出来、又するのです。併し乍ら尋常の媒介とは決して交通しません。

〔註45〕 Devachan ではない、如何となれば Devachan は吾等の意識の幻影、即ち祝福の夢で有つて、涅槃を得らるゝ人は此世の空華を得る願或は之を得らるべき望を全く棄てしまふ人でなければなりません。

問 Nirmanakayas の事に就て、私が貴君に質問した譯は、其の名は北方佛教に依ると、佛が此世に出現した體に附けた名稱で有ると云ふ事を、獨逸や他の國の或る書物で見たからで有ります。答 夫れは其の通りです、併し東洋學者は、此の現世出現の體を純粹の靈氣的主觀的のものとしなで、客觀的物質的のものと誤解して居るのです。

問 而して此の Nirmanakayas は此の世で何んな益をしますか。

答 個人には大した益はしません、如何となれば、其の Nirmanakayas は Karma に干渉する權利がなく、只生きて居る人間に一般の善をする様に勧め、之をして感奮せしむる事が出来る計りです。併し Nirmanakayas は、貴君の想像以上の慈悲を施すので有ります。

問 科學又は近世心理學でも、此の事は認めません。何となれば、科學及心理學では、如何なる智識も肉體の脳髓と共に消滅して仕舞ふのです。之に對する答を伺ひたい。

答 私は答などはないで、只 M. A. Oxon の言葉を借りて次ぎの様に言ひます、「智惠は肉體が死んでも永存する。之は脳髓計りの問題でないが、吾等の知つて居る丈の事から推して人間の精神は決して消滅しないと云ふ事は合理で有る」(註46)

〔註46〕 Spirit Identity と云ふ本の六十九頁を見よ。

問 併し M. A. Oxon は「魂論者でせやう」。

答 全く左様です。而して細小の問題に就ては、彼とは意見の違つた所が尙ほ随分有るが、私の知つて居る中で、眞の亡魂論者は彼計りです。此の點を除けば、彼よりも秘密的眞理を能く解して居る亡魂論者はありません。吾等の様に彼は結果を辨ないで、秘密教を行ふ所の

彼の素養のない淺薄の者が、之を弄ぶには危険が伴ふ事を絶へず唱て居ります(註47)。吾等が一致しない點は「靈魂精神同一論」(Spirit Identity)の問題丈です。他の點に於ては、私は彼と殆んど意見が一致して居ります。而して千八百八十四年の七月に彼がした講演中に含んで居る三つの提説を許容します。吾等の意見に反對を唱ふるは、寧ろ此の顯著なる亡魂論者で有つて、吾等の方は彼と意見が違ふのでありません。

(註47)「私が亡魂論に就て知つて居る事、又知つて居ない事」

問 其の三つの提説は何んなものですか。

答 夫れは次ぎの通りです。「第一」肉體の生に伴つて獨立の生が有ると云ふ事、「第二」必然の結果として、此の生は肉體の生よりも長く續く(吾々の教では其の生は Devachan 中續と言ふ)と云ふ事、「第三」其の狀態に居る人は、此の世に居る人と交通すると云ふ事。夫れで何事も之等の根本的提説の狭い見方に依ると云ふ事が分るでせう、即ち精神及び靈魂或は眞我及人我の見様に依るのです。亡魂論者は、此の二つを間違へて一つにします。併し吾々は此の二つを分けて以上に擧げた例外的場合の外、動物的靈魂は此の世に歸つても精神は決して歸へらないと言ひます。併し又吾等の問題即ち五蘊(Skandhas)に歸へりませう。

問 今では、段々能く分つて來ました。生まれ變る自我と結合して生き残り、自我の神聖の經驗を増すものは、其の最高貴の五蘊(Skandhas)の精です。而して再び生まれ變る迄、活動の舞臺から隠れて、次ぎの生まれ變りに當り償ふ可る Karma の果として再び現はれるものは物質的の五蘊(Skandhas)の屬性、即ち自己的的人我的の動機を有つて居る屬性で有ります。夫れ故に精神は Devachan を去りません。左様では有りませんか。

答 殆んど左様です、若し因果應報、即ち Karma の法則は Devachan に於ける最高、最靈精的屬性を賞し、再び此の世で發達せしめ、適當なる體を自我に與へて、必ず其の屬性を賞すると云ふ事を此事に附け加へたなら、貴君の言はるゝ事は全く正しいのです。

五蘊(Skandhas)に就て

問 肉體の死後人我の他の下位の Skandhas は何ふ成りますか、全く消滅して仕舞いますか。

答 消滅して然かも消滅しないのです。此の事は形而上學的及秘密的不可思議です、即ち Skandhas は人我に屬して居るものとしては無くなりませう。併し Karma の果として現世の大氣中に芽となり残りて自我の生まれ出るのを待つて居るのです、夫れは丁度執念深い惡魔の様

に、自我が生まれ変わる時、其の新しい人我に取り付かふとして居るのであります。

問 之は餘り六ヶしくて實際私には合點が行きません。

答 一旦詳細の點が悉皆分かつて仕舞ひさへすれば、合點のいかない事は有りません、其の譯は此の事が分かれれば、論理、合宜、奥義哲學、神的慈悲及公平の理から言へば、此の輪廻説は、此の世で匹敵するものが無いと云ふ事が分ります。其の教は生まれ変わる自我、即ち神的靈魂が永久に進歩して、外部的から内部的に、物質的から精神的に進化し、其の進化の階段毎に、神の本因と絶對に結合すると云ふ事を教へるのであります。力は段一段と加はり、進むに従て美は益々美完全は益々完全となり、循環期毎に新なる光榮、新なる智識新なる力を得ると云ふのが、總て自我の運命で有ります。而して其の自我は生まれ変わる度毎に其世界に於て、自から自己の救主と成るので有ります。

問 併し夫れは、耶蘇教の教ふる處と同じです。耶蘇教も進歩を教へて居ります。

答 左様です、但し耶蘇教は、又他の事をも教へて居ります、即ち不思議の教主の助がなければ、濟度を得る事が出来ないと言つて居ります。夫れのみならず、其の教を信じない者は、地獄に落ちると言つて居ります。之が即ち耶蘇教神學と靈智學とが違つて居る點です。前者は靈性

自我が下位の自己に降下すると云ふ事を信せしめ、後者は人間の自我を *Christos* 或は *Buddhi* の状態に高める様に努めなければならぬと云ふ事を教へ込むので有ります。

問 併し失敗した場合には、意識は消滅して仕舞ふと云ふ事を教へるのは、形而上學を知らぬ人の考では、自我が消滅して仕舞ふ事に成ると思ひはしませんか。

答 全く文字通りに、肉體は復活するものと信じ、又骨、筋、肉は總て具體的に「末日」に蘇へるものと言ふ人々の立場から見ると、無論左う成ります。若し貴君が不死の人間を組成するものが死すべき形體にして有限の性質の物で有ると言はるゝならば、貴君と私は互に意見を了解し難いのです。而して總ての自我が存在するのは此の世の一生涯丈で有ると限ることは「神」は梵語のインドラと云ふ何時も酔つて居る神や或は此の世で悪事を働きながら強て人に感謝をなさしむる殘酷なモロツクと云ふ神で有ると云ふことになります。それが分らなければ、此の話を早く止した方が宜いのです。

問 併しもう五蘊(*Skanhas*)の問題が解決したから、死後に生殘る意識の問題に歸へりませう。人が最も興味を持つのは此の問題です。吾々は此の世よりも *Devachan* に行つた方が智識を増すのですか。

答 或る意味では増すのです。音楽、繪、詩等の様な抽象的で理想的のものに關してならば、嘗て此の世の生存中に愛し、又求めた所の才能を發達せしむる事が出来るので有りませす。如何となれば Devachan は此の世に於ける生命が醇化した主観的繼續に過ぎないからで有りませす。

問 併し Devachan では精神に物質的性質が無いならば、何故に全知で無いのですか。

答 其の譯は前に述べた通り、自我は其の最後に此世に生まれて居た時の記憶に、言はい、結合して居るからで有りませす。夫れ故に、私の言つた事を熟考し、又總ての事實を總合して見たならば、Devachan の状態は、全知の状態ではなく、最後に經た人間生命の超絶的繼續で有ると云ふ事が本當に分るでせう、即ち Devachan の状態は靈魂が此の世の苦を逃れて休む所で有りませす。

問 併し乍ら、科學的唯物論者は、人間の死後には何も残らない、又人間の肉體は組成分子に還元分離するに過ぎない、又吾等の所謂「靈魂」は有機的活動の副産物として生じたる一時的の自己意識に過ぎないもので、蒸氣の様に發散して仕舞ふので有ると言つて居ります。彼等の考は變な考では有りませんか。

答 私の考では、決して變ではないと思ひませす。若し彼等が自己意識は肉體と共に消滅して仕舞ふと言ふなら、夫れは只知らず／＼に豫言をして居るのです。如何となれば、若し一度彼等が其自ら言ふ事を確信すれば、それが爲め死後の意識的生命は出來得べからざる事に成るのです。其の譯は何んな規則にでも例外が有るからで有りませす。

死後及生後の意識に就て (註48)

(註48) 本章及前章の或る部分に Theodor と云ふ雜誌の千八百八十九年の一月號に「死後の秘密に就ての對話」と云ふ題で公にせられた、其の論文には記名して無いが、實は本書の著者が書いたもので有る。

問 併し、若し人間の自己意識が死後一般に残るものならば、何故例外が有るのですか。

答 精神界の根本原則には、例外は出來得べからざる事です。併し悟る人に對する規則と、悟りたくない人に對する規則とが有ります。

問 全く左様です、分りました。夫れは丁度盲人が自分で見ないからとて太陽は無いと云ふ正理に反いた言に過ぎないのです。併し死後に成つて其盲人の靈性眼が必ず彼をして見せしむるに違ないのです。貴君の言はるゝは此の事ですか。

答 彼は見せられませす、又何物をも見ませすまい。如何となれば、死後生命が繼續する事を、生

存中に、固く否認して居たから、夫れを見る事が出来ないのです。其の譯は彼の靈性能力が生存中に阻碍されて居たから、死後に至つて發達する事が出来ないで、彼は盲人に成つて居るのです。彼は是非夫れを見るに遠ないと、貴君が主張なれば、貴君と私の言ふ所は、明かに違つて居ます。貴君の御説では宇宙精神と人間精神と、即ち Atma と人間靈魂なる Manas とが混同して居ます。貴君は私の言ふ事が御分ないのでから、少し説明して見ませう。即ち貴君の質問の要點は、純然たる唯物論者の場合で、死後に自己意識と自己知覚は全く消滅して仕舞ふ事が出来るか、出来ないか、と云ふ事を知るに有るのでは有りませんか。私は之に對して、出来るかと答へます。私は吾等の秘密教（即ち死後の期間或は二つの生まれ變りの間を只一時的の狀態と云ふ教）を固く信じて居るから、人生舞臺の二幕間の死後の狀態が一年續くにせよ百萬年續くにせよ、根本的法則は少しも之を犯さず其の期間は丁度人が氣絶した間の狀態と、詰り同じもので有ると私は言ひます。

問 併し貴君は、たつた今死後狀態の根本的法則には例外が無いと仰せられた、して見れば、何うして此の様な事が有りますか。

答 私は矢張り例外がないと言ひます。併し乍ら精神的相續不斷の法は、眞に實在する物のみ

に適用するのです。Mundaka Upanisad 及 Velanta Sarn と云ふ本を讀んで、之を理解した人には、此の事が悉く明瞭に成ります。私は尚ほ續けて言ひますが、唯物論者が何故死後自己の意識的存在を知らないかと云ふ事を明かに理解するには、Buddhi 及 Manas の兩性に就ての吾等の意味が分りさへすれば充分で有ります。Manas は其の下位の狀態に於ては「浮世心」の中心です、夫れ故に其の人に與ふる所の宇宙に對する知覚は其の心の證據のみに基いて居つて、靈性知覚を與へる事は出来ないのです。東洋派哲學では Mundaka と云ふ本に教へて有る通り、Buddhi と Manas、即ち「自我」或は Ishvara と Prajna (註49) との差は、實際に森と樹、或は湖と水との差と同様で有ると言つてあります。夫れ故に樹が一本枯ても百本枯ても又根から引き抜かれても、其の森は矢張り森たる事を失はないので有ります。

〔註49〕 Ishvara は發現したる神、即ち Brahma の集合的意識で有る、曾ひたれば The Secret Doctrine と云ふ本に於て有る Dhyān Chohans の集合的意識で有る。而して Prāna は彼等の個人的智慧である。

問 併し私の理解する所では、Buddhi は此の比喩に於て、森を代表し、Manas-Tajasa (註50) は樹を代表して居ります。而して若し Buddhi が不死で有るならば、夫れに均しいもの、即ち Manas-Tajasa は今度生まれ變る時迄、其の意識を全く失ふ筈は無いのです、私は夫れが分りま

せん。

〔註5〕「Ajasa は Buddhi との結合より來たる發光で有る、即ち神的靈魂の光に依つて、照されたる人間靈魂なる Manas で有る。夫れ故に Manas-Ajasa は「發光心」、即ち精神の光に依つて、照されたる人間の理性と云つても宜しい。而して Buddhi-Manas は神的智力及び人間智力と自己意識の現示で有る。

答 貴君の分らない譯は、貴君は全體を抽象的に表はしたものと、其形體の偶然的變化とを混同すからで有りませす。 Buddhi-Manas は無碍不死で有ると云ふ事は出来るけれども、下位の Manas も同様で有ると云ふ事は出来ないのを注意して下さい。而して只屬性に過ぎない「Ajasa」は、尙更ら不死で有ると云ふ事は出来ませせん。 Manas も「Ajasa」も、 Buddhi 即ち神的靈魂と分離して生存する事は出来ませせん。如何となれば Manas は、其の下位の状態に於ては、淨世に在る人我の定限的屬性で有つて、「Ajasa」は Manas と同一です。如何となれば、「Ajasa」は只 Buddhi の光が中に反映して居る同一の Manas で有ります。 Buddhi も又人間靈魂から借る所の此の原素がなければ只非人格的精神と成つて居るのです。其の原素は Buddhi をして、此の幻影的宇宙に於て、輪廻の全期間宇宙靈魂から恰も分離して居る様にせしむるのです。寧ろ Buddhi-Manas は、無窮に死する事も出来ず、又其の結合したる自己意識を失ふ事も出来ず、又

或は靈性魂及人間魂が、密接に結合して居た前生の記憶をも失ふ事が出来ないのです。併し唯物論者の場合では左様ではありませせん。彼の人間魂は神的靈魂から、何も受けないのみならず神的靈魂の存在すらも認ないので有ります。此の公理は人間靈魂の屬性及性質に適用する事が出来ませせん。如何となれば、夫れは丁度神的靈魂が不死で有るならば、頬の赤き色も又滅で有ると云ふのに均しいのです。然るに此の頬の赤き色は「Ajasa」の様に、只暫時の現象に過ぎないので有ります。

問 吾等は原因と結果とを、混同してはならないと言ふのですか。

答 左様です、而して重ねて申しますが、「Ajasa」其のものゝ發光は、Manas 或は人間靈魂計りに限られて居るから、只時間の問題に成るのです。其の譯は、不死と死後の意識は、人間の此世に於ける人我に取りては、只事情に制せられたる屬性と成るので有ります。如何となれば、其の屬性は、肉體の生存中、人間靈魂其のものに依つて作られたる事情及信仰に全然依るからです。 Karma は絶へず、活動して居るから吾等の蒔いた物の實を、所謂後生に於て刈り取るので有ります。

問 併し若し私の自我が肉體の死後に、全然無意識の状態に這入る事が出来るものとすれば、私

の過去の生存中に犯した罪の罰は、何所に有るのですか。

答 吾等の哲學の教ふる處に依ると、自我は今度生まれ變る迄、Karmaの罰を受けません。死せる後自我は其過去生に受けた不當の苦に對する報酬を受けるのみで有ります(註51)。夫れ故に唯物論者に取つても、死後の總ての罰は、只報酬を受けない事及祝福や休止の意識を全然失ふ事で有ります。Karmaは浮世的自我の子、即ち誰にでも見ゆる客觀的人我なる樹の行の結果で有ります。又靈性自我の總ての思想と動機との果で有ります。併しKarmaは又柔さしい母で有つて、新しい傷を附けて、自我を再び苦しめるに先だち、前生中に自分が附けた傷を癒すので有ります。人間生存中に受くる心又は身の苦は、前生中に犯した罪の直接の報で無いものは無いと言ふ事は出来るけれども、人間は此の世に在て其の前生の記憶を少しも留めて居ないから、其の様な罰を受ける譯が無いと思ひます。夫れ故に、苦を受けるのは自分の罪の爲では無いと思ひます。夫れが爲め死後に於て此の様に慰安、休息及び祝福を充分に受ける權利が有るのです。死は吾等の精神的自我の救助者として來るので有ります。物質主義を懷いて居ても、惡人ならぬ唯物論者に取つては、一つの生まれ變りと他の生れ變りとの間は子供の熟睡の間の様なもので全く夢を見ないか、或は判然と見えない物の想像を盡いて居るので有ります。然るに普

通の人間には、生きて居ると同様に歴然とした夢で有つて、現實的祝福と幻想が一杯満ちて居るので有ります。

〔註51〕 或る靈智學者は、此の句を非難して居る。併し此句の言葉は、或る一夫子の言ふた處で有る。而して「不當」と云ふ意味に前に述べた通りです。近頃出た小冊子に、夫れと同じ意味を傳へる積りで、或る句を用ゐて居るが、Luelierと云ふ雜誌で、後に攻撃を受けた。併し、其句の形から首へば拙劣で攻撃を受けるのは無理が無いが、實際の意味は人間は往々他人の行の結果、即ち正確に首へば、自分のKarmaに屬せぬ結果の爲に苦を受ける事が有る、而して其の苦の報酬を當然受く可きもので有ると云ふことです。

問 夫れでは人間は自我が招いた Karma の罰を何の爲とも知らずに始終受けなければならぬのですか。

答 全く左様でも有りません。誰でも人間が死ぬる瞬間には、例へば頓死する場合でも、自分の今迄送つた生涯を最後の點に至る迄も眼前に見るもので有ります。其の瞬間に、人我は全知的なる自我に結合します。併し此の短い瞬間にでも、人間は自分の生存中に活動して居た原因の連鎖全體を見る事が出来るのです。此の時に彼は他人にも諂らはれず、自分も欺かざる、有りの儘の己を見て理解致します。彼は自分が立ち去る舞臺を見下す見物人の位置に立つて、己の傳記を読み、自分の受けた苦は總て公平であると云ふ事を感じ悟るのです。

問 此の事は誰にでも有るのですか。

答 誰にでも有つて、例外が無いのです。吾等の教に依ると非常に善良で神聖な人々は、今去らんとする生涯を見、又今去らんとする生涯に於て彼等の性質を然せしめた原因の因て來れる五六度前の生涯をも見る事が出來ます。夫れ故に、其の人々は Karma の法則は壯嚴で公平なる事を認めるので有ります。

問 生まれ變りの前に、之と同様な事が有りますか。

答 有ります、死ぬる瞬間に於て、人間は今迄送つた命を回顧する如く、此の世に生まれ來る瞬間に自我は Devachin の状態から覺醒して、今度來る命の未來を見て、此所に至らしむる總ての原因を悟るので有ります。自我が其の原因を悟つて未來を見るは何故かと言ふに、自我が Karma の法則に従ひ初めて物質界に降り肉體の人間に生まれ變る前に、其の前の Manas 的意識を全く回復して、暫時の間又元の神に成るのは、Devachin の終りと生まれ變りとの間に於てするのです。即ち珠數の様な自我は、其の珠のあらゆる前生を見て、一つも見逃さないもので有ります。

消滅とは如何なる事を意味するか

問 或る靈智學者が自分の命は金糸に繋がつて居ると言ふのを聞きましたが、何んの事を言ふのですか。

答 印度の聖書に、期を定めて生まれ變りするものは、Sukritam 有つて、其の文字通りの意味は「糸魂」で有ると言つて有ります。其の糸魂と云ふ語は、生まれ變る自我と同意義で有ります。即ち Buddhi と結合したる Manas で有つて、總て吾等の前生の Manas 的記憶を吸収するものです。「金糸」と云ふ名を附けた譯は、珠を糸に連ねた様に、人間の命も長く連続して、其の一つの糸に連なつて居るからです。Panishad と云ふ本の或る卷には、之等の生まれ變りは、睡眠と覺醒との間に定期的に分かつて居る人間の命に比喻して有ります。

問 此の事は餘り明瞭で無いと言はなければなりません、即ち覺醒する人間には又新しい日が始ります、併し其の人間の精神も肉體も、其の以前の人間と同様です。然るに、人間は生まれ變る度毎に身體、男女性、人格のみならず心理的及心靈的能力が全く變化します。此の比喻は私から見ると、少し間違つて居る様に思ひます。如何となれば、睡眠から覺醒する人間は、

其の前日又は前々日、或は何ヶ月何ヶ年前にした事を明かに記憶して居ります。併し吾等は誰でも、前生或は前生に關する事實又は出來事を、少しも記憶して居るものはありません。私は前夜夢に見た事を朝になつて忘れるかも知れません。夫れでも矢張り私は眠り、而して眠つて居た間は生きて居たと云ふ事を慥に知つて居ります。併し私は所謂死に際迄前生の事に就ても記憶する事は出来ません。此の理窟を何うして付けますか。

答 此の世に生きて居る間に、前生の事を記憶する人も有ります。併し此んな人は、釋迦の様な人や仙人等です。此の事は Raja Yogis の所謂「三藐三菩提」(Samma Sambuddha) 即ち人間の連続せる前生の全體を知ると云ふ事で有ります。

問 併し其の正徧知 (Samma Sambuddha) に達しない吾等普通の人間は、何ふして此の事を理解する事が出来ますか。

答 之に付ての比喻を研究し、睡眠の三つの種類と特性を正しく理解せんと務むれば出来ます。睡眠は獸類にも人間にも一般不變の法則です。併し睡眠には種々異つた類が有ります、況して夢や幻想には尙更ら種々異つた種類が有ります。

問 併し之は問題が違ひます、唯物論者の問題に歸へりませう。唯物論者は夢を否認する事は出

来ないから、否認はしませんが、一般の不死及び自分の個性の残存を否認するのです。

答 其の唯物論者は、知らないで本當の事を言つて居るのです。吾が靈魂の主觀的知覺無く、又其の靈魂の不死を信せぬ人の靈魂は決して Buddhi-Tajasa になる事は出来ないので、只 Manas に成つて居る計りです。而して Manas 計りには不死が有る筈は無いのです。後の世に意識的生命を送る爲には、先づ第一に淨世の存在中に死後の生が有る事を信じなければなりません。死後の意識と靈魂不滅に付ての總ての哲理は秘密教の此の二つの理に基づいて居ります。自我は何時でも其の價値に従つて、報酬を受けるので有ります。肉體死して後自我は全く覺醒せる意識の状態か、渾沌たる夢の状態か、若くは消滅と殆んど區別し難い全然夢無き睡眠状態かに這入るのです、之が即ち睡眠の三つの種類です。若し世の生理學者が、夢や幻想の原因は、覺醒の間知らず、其の準備をするからで有ると言ふならば、死後の夢にも同様な原因が有る筈です。私は重さねて言ひますが、死後は即ち睡眠で有ります。死後に靈魂の眼前で、今迄吾等が覺へ、又往々知らず、に、拵らへて置いた番付の通り演劇が始まります。即ち言ひ更ふれば、吾等が作つた通りの信仰或は幻想を實地に行ふのです。各自に作つた想像的天國に於て兎に角一時はメンヂスト教徒はメンヂスト教徒と成り、回々教徒は

回々教徒と成るので、之は命の樹の死後の果で有ります。無論一旦事實が存在する上は、意識的不死の事實を吾等が信じても信じなくとも、其の事實其のものゝ無條件的實在に影響する事は出来ません。併し乍ら、人間は不死であると云ふ事を信じるか、信じないかに依つて其の死後の状態に必らず影響を及ぼすものであります。少し分つて来ましたか。

問 分つて来た様に思ひます。唯物論者は五官或は五官の證據計りに基いた科學的推理に依つて、證明の出来ないものは、其の五官の働が不充分なものにも拘はらず、之を否定し、又精神的現象は總て否認して、意識的存在は此の世の命のみで有ると信じて居ります。夫れ故に彼等の死後の生は自分の信する通りに成ります。彼等は自分の人我を失つて、今度生まれ變る迄、夢を見ない睡眠の状態に這入るので有ります。左様ですか。

答 殆んど左様です。現世的及靈性的の二種の意識的存在が、殆んど一般に教えられて居るのを忘れてはなりません。靈性存在は、無窮不變、不滅の元子(Monad)が其中に在ると云ふ事實から推しても、現實である者と思はなければなりません、然るに生まれ變る自我は其の以前の生まれ變りに、着て居た衣と全然異つた衣を着て居ります。而して其の衣を着て居ては自我の靈

性原形の外總てのものが根本的變化を受けて跡形を残さないもので有ります。

問 何ふして左様成りますか。私の意識ある浮世の自我は唯物論者の意識と同じく一時のみならず、全く跡形を残さない様に消滅して仕舞ふ事が出来ますか。

答 其の教に依ると、貴君の所謂自我は其の通り全く消滅して仕舞ふに違ひないのです。只残るものは元子(Monad)と結合し、夫れに依つて純然たる靈性不滅の本素となり、無窮に於て元子(Monad)と同一になる本因で有ります。併し人我に Buddhi が反映した事のない純然たる唯物論者の場合では、Buddhi が如何して其の浮世的人我を、少しでも無窮に持ち去る事が出来ませうか。貴君の靈性自我は不死で有ります。併し其の靈性自我は貴君の現在の自我から不死になる價值が有るものゝ外は、無窮に持ち去る事は出来ません。即ち枯れた花の薫計りで有ります。

問 夫れでは、浮世的自我の花は如何成りますか。

答 母枝糸魂(即ち Sutratma 或は Buddhi) に今迄咲き、又之から咲かなければならぬ總ての過去未來の花は皆な土に歸するのです。貴君の現在の自我は、貴君自ら知つて居らるゝ通り、今私の前に坐つて居る肉體ではありませぬ。又私の所謂 Manu's-Sutratma だもななくて Sutratma-

Buddhi でありませぬ。

問 併し死後の生は不死、無限、實在で有つて、浮世の生は只幻影で有るとの御説が未だ私には少しも分りません。如何となれば其の死後の生には、浮世の生の制限よりも幾ら廣いと言つても、矢張り制限が有るからです。

答 全く左様です。人間の靈性自我は、無窮に於て生と死との間、時計の振子の様に動くのです。併し若し此の間が、浮世の生と靈性の生との期間を記して其の持續を制限せられ、又睡眠と覺醒幻影と實在との間に無窮に於て、其の様な期間の數が制限されても、靈性巡拜は無窮で有りませぬ。夫れ故に人間の死後の生の時間丈が實現で有ると吾等は思ひます。即ち其の人間は肉體を離るゝ時は、一時的浮世存在の屋氣樓とでなく、眞理と向き合ふので有ります。併し其の様な期間が有つて、其の制限が有るにも拘はらず、自我は絶へず完全に達せんとするのは、徐々としてでは有るけれども、其の最後の變化に達する道を絶へず通つて行き、其目的に達して神に成るのです。之等の期間と階段とは自我が此の結果に到るのを妨ぐるのでは無く、却て之を助くるのです。而して其の様な制限の有る期間がなければ、神聖の自我は決して其の最終の目的に達する事は出来ないのです。前既に眞我を役者に譬へ、其の種々の生れ變りを

役者が務める役に譬へて、例證しました。貴君は之等の役及び其の衣裳を其の役者自身の個性と言ひますか。眞我は彼の役者と同じく、無餘涅槃の直入口迄繼續する必然の循環期中は自分で好まぬ役をも無理に務めさせられるので有ります。恰も蜜蜂が花から蜜を取つて其の残り物を俗蟲に残して置くが如く、吾等の所謂系魂 (Soulama) と云ひ或は自我と稱ふる吾等の個性も上の如くするので有ります。Karma が眞我をして生れ變らしむる浮世の人我から、眞我は靈性の性質と自己的意識と成る甘露計りを取り、總て之等を一つのものに結合し、其の蛹から光榮の有る Dhyān Chohan と成つて出て來るので有ります。眞我が何も取る事が出来なかつた浮世的人我こそ不幸なもので有ります。其の様な人我は、慥に自分の浮世的存在の死後に意識的存在がありません。

問 夫れでは浮世的人我(或は人格)に取て、不死と云ふ事は矢張り條件に制せられる様に思ひます。左すると不死其のものは無條件的で無いのですか。

答 決して左様では有りませぬ、併し死は外界に存在しないものに達する事は出来ませぬ。即ち SAT として存在し、或は SAT から出るものに取つては、總て不死及無窮は絶對で有ります。物質と精神は相反するもので有りながら、然も此の二つは一つで有ります。總て此のものの本素

即ち精神、力及物質、或は此の三つを一つにしたものは、始も無く、又終もありません。併し乍ら、此の三重唯一が、其の生れ變り、即ち其の外形に現はれて居る間の形體は、慥に吾等の五官の幻影に過ぎないので有ります。夫れ故吾等は涅槃及宇宙的生存のみを實在と言ひ、浮世の命は其の人我及び其の Devachan の生すらも、幻影的浮象であると思ひます。

問 左様ならば何故に、睡眠を實在と言ひ、覺醒を幻影と言ふのですか。

答 夫れは、只其の問題を理解するに、便利の爲に作つた比喻に過ぎないので、而して浮世的考から言ふと正しい比喻で有ります。

問 夫れでも、未來の生が、吾等浮世の苦の爲め正義にして當然の應報に基づいて居るとすれば、實際正直で慈悲深い多くの唯物論者の場合に於て、其人格より萎れた花の殘物計りが残ると言ふ譯が矢張り分りません。

答 其んな事は決して言つた事は有りません。何の位不信仰な唯物論者でも、其靈性の個人性を失ふ事は出来ません。前に言つた事は、唯物論者の場合に於て、其の人格的意識が少しも残らない様に、其の意識は全部或は一部分が消滅すると言つたので有ります。

問 併し之は慥かに消滅では有りませんか。

答 決して左様では有りません。人は長い鐵道旅行中に少しも記憶せずして、又熟睡して知らないで五六の停車場を過ぎ通り、次ぎの停車場で目が覺めて、旅行の終點、即ち目的地に達する迄他の無数の停車場を通過し、旅行を續ける事が出来ず。既に睡眠に三つの種類が有る事は貴君に言ひました、即ち夢を見ない睡眠、混沌の睡眠及非常に現實的で有る故に夢が睡眠者に全く現實となる睡眠、此の三つで有ります。若し貴君が後者を信せらるゝなら、何故に前者を信する事が出来ませんか。人間は此の世で信じ、豫期して居た通りの後生を得るのです。來生を豫期しなかつた人は、生れ變る迄の間は消滅に近い絶對空の生を得るので有ります。之は吾等が言つた次第書の通り丁度實行せられるのです。其の次第書は唯物論者が自ら拵へたので有ります。併し貴君の言はるゝ通り唯物論者には、種々の種類が有ります。吾身勝手に邪惡な利己主義者、即ち自ら不信仰で有るのみならず世界全體に對しては非常に冷淡で、他人の爲め泣いた事の無い者は、死の眞際に、己が人格を永久失なつて仕舞ふに違ひ有りません。此の人格は、周圍の世界に同情の蔓なく、從て己を糸魂(Sastrina)に結合して呉れるものが無から、死すると同時に Sastrina と己との關係は絶えて仕舞ふので有ります。其の様は唯物論者に Devachan は無いから、Sastrina は殆んど即時に生れ變りをします。併し乍ら、吾が不信仰と云ふ外過をせ

なんだ唯物論者は、只一つの停車場を寐過ごすので有ります。而して其の様な、前に唯物論で有つた者が無窮に於て何時か覺醒して、其無窮の生命中日一停車場を失つたことを、恐らく後悔する時が来るでせう。

問 夫れでも死と云ふ事は新しい生に這入り、即ち再び無窮に歸へる事で有ると云ふ方が正しいでは有りませんか。

答 左様言つても差支はありません。只覺えて居らねばならぬ事が有る、即ち生れる事は一樣でないといふ事と、死んで生れるものも有るが、夫れは自然の失錯で有ると云ふ事です。又物質的生命に就ての西洋普通の考では生きて居る事と存在して居る事と云ふ語は、死後生存の純粹主觀的狀態には全く適用が出来ません。書を著しても多くの人に讀まれず、又自分も判然と知らないから、明瞭の説明をする事の出来ない少數の哲學者を除けば、彼の生、死に就ての西洋の考は非常に意味が狭く成つたから、一方では粗漫なる唯物論者が出来、又一方では亡魂論者が「夏の國」(Summer-land)の想像的來生に就て尙一層烈しい唯物論的の考が生じたので有ります。其の Summerland はマホメット教で言ふよりも、哲理に乏しく、而かも之に優つた肉慾的の極樂で、人間の靈魂はそこで飲み食ひ結婚をして生き存へるので有ります。教育無

き耶蘇教信者大概の考も、之と同様で、彼等の考は、寧ろ一層物質的のです。奇妙な天使や、眞餘の喇叭や、金の琴や、燃える地獄の火や、何やら彼やらで、耶蘇教の天國は、全るで、滑稽芝居の様で有ります。理解するのが六ヶしいのは、此の狭い考を有つて居るからで有ります。東洋哲學者が、肉體から離れた靈魂の生を、睡眠中の現像に比喻して居るのは其の生が、或る夢で見る様に、質現的の有つて、物質的なる浮世的生が無いからで有ります。

定つた物に對する定つた語

問 此等の本因それの職分に就て、吾等の考が此の様に混亂するのは、人間の各本因を示す一定の語が無いからだと思ひませんか。

答 此の事は私も思つて居りました。全體此の混亂の起りは、吾等が本因を説明、議論するに梵語の名稱を用ゐる靈智學者の爲め、之れに對する英語の名稱を、直ちに作らなかつたからで有ります。吾等は今此の混亂を除かなければなりません。

問 左様すると、之から混亂がなく成るから、左様した方が宜いのです。此迄靈智學に關する著者は、同一の本因に同一の名稱を付けた者は無い様です。

答 併し、此の混亂は思つた程に、實際はひどく無いのです。私は或る靈智學者が之等の本因に關する論文を驚いて批評して居るのを聞いた事が有ります。併し宜く調べて見たら、其の論文には三本因に區別を附けないで、「靈魂」と云ふ語を用ゐて居たと言ふよりは外にひどい間違は有りませなんだ。「總て人間利害の中心に成る靈智學の根本的教の一つは、人間には誰でも天使と惡魔の性質が有ると云ふ事です。人間の性質は二つで、人は高尚のものと劣等のものとの間に立つて、自分の好きな方、何れでも擇び、何れにても結合する事が出来るのであります。此の浮世の人間は、通常の生に於ては、多少此の兩者の間を往復し、或る時は靈性が勝ち、又或る時は動物性、即ち劣等の性が勝ち、又或時は總て心の高尚の感應を離れた心狀が勝つ事が有ります。人間は劣等の生を送る事が多いから、肉體に吾が意識を集中し、感覺或は只の智力の生に成りがちで有ります。人は靈性生涯を多く送るに従つて、劣等の性質に卓越し、肉體的感覺に束縛せられず、動物的感情的の奴隷に成らなく成りまして肉體的、物質的の生に勢力より益々遠ざかるので有ります。

斯くして人間は三つの状態に現はれます、即ち「第一」は上位と下位との性質に依つて、代る代る支配を受ける状態即ち吾等が現在見る普通の人間状態、「第二」は此の状態の上に在る、比較的靈性的意識の状態「第三」は下位の動物的状态で有ります。吾等は此の三つの状態を、人間靈魂、靈性靈魂及動物靈魂と云ふ事が出来ます。併し此の三つよりも、尚ほ高尚な状態が有ります。人間は其性質が、最高の意味に於て靈性と成り、總て劣等の元素を脱して仕舞ふに随つて、其の状態に達するので有ります。而して其の状態は多數の人間には分らないが、彼等の最高感應の源で有ります。之を吾等は「上位の自己」と申しまして、言はゞ衆生の神的根元で有ります。而して Bhagavad-gita (と云ふ本)に言つて有る通り、「總て死すべきものに存在して不滅のもの」は此根元のみであります。而して又是は物質化し能はざるもので、甲乙の人間に依つて變らず、總ての人間に同一で、總ての生の基礎を爲す所の本質の神靈で有ります。」

「上位の自己」は Atma で有つて、無論物質化し能はざるものです。夫れのみならず「上位の自己」は何の位高尚な靈性感應に對しても、如何なる場合に於ても、決して客觀的に成る事は出来ないものです。如何となれば Atman 即ち「上位の自己」は實際 Brahma 即ち「絕對」で有つてそれと區別し得べからざるもので有ります。「三昧」の状態に居る間は、正受者の高尚な靈性意識は Atman なる單一の本素に全然吸収せられます。夫れ故に「全體」と同一で有る

から、其のものに取りて客観的のものは何も有る筈が無いので有ります。今或る靈智學者は「自己」(Self)と「自我」(Ego)とを同意義の言葉として用ひ、「自己」(Self)と云ふ語を、只人間の上位の個性的、或は人我自己 (Self) 又は自我 (Ego) と同一のものとする習慣が有ります。然るに此の語は唯一宇宙的「自己」(Self) を除けば、他に適用する事は出来ないので有ります。之が爲に混雜が起るので有ります。Manas 即ち「元由體」(Causalbody) を Buddhi の發光に結合する場合に於て、吾等は之を「上位の自我」(Higher Ego) と言ふ事を得れども、「上位の自己」(Higher Self) と云ふ事は決して出来ません。如何となれば、Buddhi 即ち靈性靈魂ですらも「自己」(SELF) でなくて、只其の機關に過ぎないので有ります。個性自己、及人我自己の如き總て他の「自己」(Selfes) は之を制限し又特徴を表はす形容詞を附けなければ、決して用ゐてはならないのです。或る人が第六本因、即ち Buddhi に適用して(無論 Manas と結合しては) 如何となれば、之と結合しなければ、「靈性靈魂」には思考する本因或は元素が無いからです(居る所の「上位の自己」(Higher Self) と云ふ言葉は大に誤解を招いて居ります。以後其の様な誤解をなくする爲に、秘密教に關する東洋の語を英譯して、其の譯語を之から次第の様に定めやうと思ひます。

「上位の自己」(THE HIGHER SELF) は Atma 即ち宇宙的「唯一自己」の分離し得べからざる光で有つて、吾等の内と言ふよりは寧ろ上に有る神で有ります。自分の「内部の自我」(inner Ego) に夫を満たす事が出来る人は實に幸福で有ります。

靈性的自我 (THE SPIRITUAL divine EGO) は Manas 即ち「心」(Mind) の本因と固く結合して居る「靈性的靈魂」即ち Buddhi で有ります。其の Manas がなければ、Buddhi は決して「自我」(EGO) でなくて、只 Atma の機關に過ぎないもので有ります。

「内部或は上位の自我」(THE INNER or HIGHER "EGO") は Manas 即ち Buddhi に關係せざる所謂第五の本因で有ります。「心」(Mind) の本因は Buddhi と結合した時のみに靈性的自我で有ります。物質的人間は、何の位偉らしい智力を有つて居ても、其の様な自我は具へて居な思はれて居ます。此の自我は無窮の個性、即ち生れ變る眞我で有ります。

「下位或は人我的自我」(THE LOWER or PERSONAL "EGO") は下位の「自己」(Self) 即ち獸的本能及び獸慾等を結合したる肉體的の人間で有ります。之は「虚偽の人格」と言つて、Kama Rupa と結合し、肉體及び其の浮象即ち複體に依つて、活動して居る下位の Manas から成り立つて居ります。残りの本因、即ち Prana 或は「生」(Life) は、嚴しく言へば、Atma の發光力、

即ち宇宙生命及唯一自我として、其の一層下位、否寧ろ（其の結果に於て發現する故に）一層物質的の状態であります。Prana 即ち「生」(Life)は客觀的宇宙に遍在して居ります。而して生きた人間の缺く可からざるもので有るが故に、本因と言はれて居ります。

問 此の分解法は、其の結合が單純で有るから、他のものよりも宜いと思ひます。他の法は餘り形而上學的で有ります。

答 若し靈智學者のみならず、局外者が之に賛成するならば、慥に問題が大に理解し易く成ります。

第十章 思考本因の性質に就て

自我の神秘

問 私は五蘊即ち Skandhas (記憶を含む)は生れ變る度毎に變化すると云ふことを聞きました。然るに五蘊(Skandhas)から全く出來て居ると云ふ前生の反影は、殘存するに違ひないと確定されて居ります。併し今の處では其の殘存するものは慥に何で有るかと思ふ事に就て私は能く分

りませんから、説明して戴きたいのです。夫れは何ですか、只其の反影ですか、或は其の Skandhas ですか、又或は何時でも彼の同一なる自我即ち Manas で有りますか。

答 生れ變る本因、即ち吾等の所謂「神的人間」は生の循環期中不滅で有る、即ち思考する實體、又は精氣體としても不滅で有ると云ふ事を只今説明しました。彼の反影は Devachan の期間中、前人格即ち田中氏或は伊藤夫人の靈性化したる記憶に過ぎないもので有ります。而して其の期間中に自我が其の人格と同一に成るので有ります。Devachan の期間は、言はれ浮世の生の繼續、即ち前生に於ける短い幸福の時の精で有るから、眞我は其の浮世の生を少しで

も殘すには、其の人我的意識と同一に成らなければならぬので有ります。

問 此の説に依ると「自我」は神的性質が有るにも拘はらず、二つの生れ變りの間に其の様な期間を悉く狂氣の状態で過すと云ふのですか。

答 夫れは貴君の考に任じます、併し唯一實在 (The One Reality) 以外に如何なるものも(全世帯を含む)一時の幻影に過ぎないもので有ると信じて居るから、吾々は之を狂氣とは思はないで、浮世の必然の結果、即ち發現で有ると思ふのです。生とは如何なるものですか、生は種々様々の經驗及び日々變り行く考や情や意見の集合で有ります。吾々は青年の時代に其の理想とする

もの、又は崇拜する英雄に往々熱中する事があります。而して數年後に至つて、青年の血氣が衰へ、眞面目に成つた時に、吾々は第一に其の理想を笑ふので有ります。併し吾々が心中理想として居た者（殊に生きて居る者なら）の人格と自分の人格とを全然同一にして居た時代が有つたから、其の人格は全く吾等の理想中に浸入して失せて仕舞ふたので有ります。五十歳の人、二十歳の時と性質が同じで有ると言ふ事が出来ませうか。其の自我は同一で有るけれども、其の外部の人格は全然變化して居るのです。貴君は此の人間の心の状態の變化を又狂氣と言ひますか。

問 此の二つに何んな名を附けますか、又特に前者の不滅及後者の消滅を如何して説明なさいますか。

答 吾等の教では定まつて居りますから之を説明するに困難は有りません。其の説明の緒は吾等の心の二重意識と、又心の本因の二重性に在るのです。靈性意識即ち *Prudhi* の光に照されたる *Manas* の心が有ります。之は抽象的のものを、主觀的に感ずる力であります。而して吾等の物質脳髓及五官から離る可からざる今一つの有情意識（即ち下位の *Manas* の光）が有ります。後者の意識は脳髓及五官の支配を受け、而して又自分も其の脳髓と五官と同じく依頼して居

るから、終には其の脳髓や五官がなくなると共に消滅して仕舞ふので有ります。永久に残存して居るから不死と看做され得るものは、靈性意識のみで、其根元は無窮に存在します。その他ものは總て一時の幻影です。

問 此の場合で、幻影とは實際何んなものと思ひますか。

答 「其の幻影とは永久で無いもの、即ち一時的のもの、消滅す可き現象です。夫れ故に吾等の過ぎ去り行く浮世の生は、此の種類に屬するの言は、無窮に根元の生を有するもの、花の様なものです。眞實の世界は原因の世界、不可知實體の世界です。恰も自然界で地中に根を有つて居る植物が、定つた季節に芽を出し、夫れから花を開き、終に枯れて仕舞ふのと同じ様に、靈界に根を有つて居る靈魂も、物質界に芽を出し、花を開いて、現はれるので有ります。之等の花は其の一時的の生を経、夫れから萎れて枯れ、而して其の生の本素が丁度植物の様に、又再び生れ出る季節が来る迄は、根の中に引き込まれて居るのです。此の二つの状態を悟つて居る者は、此の浮世の一時的の花は幻影で有り、此の精神界に有るもの才が、眞實の生で有ると云ふ資格が有ります。」

私の云ふのは次の如くです、眞の永久的世界は一時的の人格の花が咲く世界ではなくて、意識の

根元、即ち幻影以上の根元が無窮に宿る世界であります。

問 無窮に宿る根元とは何う言ふものですか。

答 此の根元は思考する實體、即ち生れ變る眞我を言ふので有つて、「天使」、「精靈」或は「力」と言ふも同じ事です、吾等の五官に觸れるもの、中で、此の見得べからざる根元から直接に生じ、或は之に附いて居るもの丈が、此の不死の生を受ける事が出来るので有ります。夫れ故に、其の眞我が支配する人格の總て貴き思想、觀念及希望は此の根元から出でもし、又供給もされるので有るから、永久に残るに違ひ無いのです、物質的意識は有情で有るけれども、下位本因(即ち下位の Manas の反影なる靈魂に依つて照されたる Kama Rupa 即ち動物的本能)の性で有るから、消滅して仕舞ふに違ひ無いのです。肉體が睡眠或は痲痺して居る間に活動するのは上位の意識です。併し吾等の記憶は自動的であるから、其の様な経験を只僅に記し、又往々其の印象を少しも留めない事が有るのです。

問 併し貴君は Manas を Nous 即ち「神」と言はるゝが、其の Manas が此の世に居る間は、非

常に薄弱で、其の肉體の爲め實際打ち負かされ、束縛せられるのは、何う云ふ譯ですか。

答 私は夫れと同じ質問を仕返へす事が出来ず、即ち貴君が「最高の神」及び唯一の神と看做さ

れるものが非常に弱くて、天に居る間も、又此の世に現れて居る間も、總て己が造つたものと同様に己も悪魔に打負かされるのは如何なる譯で有りますか。貴君は必ず之は神祕で有つて、吾等は神の秘密に立ち入る事は禁せられて居ると御答なさるでせう。併し吾等の宗教哲學では、此の事は禁せられて居ないから、私は所謂神が大偉人と成つて天降らなければ如何なる神の本因も、亂れたる動物質に依て拘束せられ、痲痺せられざるを得ないと答へます。此の幻影の世に於て、異種性は純一性を何時も抑制するもので有ります。而して本素が其の根本因、即ち根元の純一性に近ければ近い程、純一性が此の世に活動する事は益々困難で有ります。靈性にして神的力量が人間には伏在して居ります。而して其の人間の神的觀界が廣ければ廣い程、自分の中に於て有る神の力が益々強く成るのです。併し乍ら、其の神を感じる事が出来る人は少數です。大概神と云ふ觀念は吾等の幼稚の觀念、即ち子供の時から教へ込まれた思想に依つて、常に制限されて居ります。夫れ故吾等の哲學を理解する事は、貴君に取つては非常に困難で有ります。

問 而して吾等の神と云ふのは、吾等の此の「自我」の事ですか。

答 決して左様で有りません。一つの「神」は宇宙的の神でなくて、大なる一つの神的火から發する火の子に過ぎないのです。吾等の中に有る神、即ち吾等の「隠れたる神」(Father in Secret)

は吾等の所謂「上位の自己」即ち Atma で有ります。吾等の生れ變る真我の根原は「一つの神」で有つて、丁度單一不可知本因から出た原始の發現で有ります。併し真我は物質界に這入つた時から、循環期中始めから終り迄、續けて生れ變りをせねばならぬから、最早自由、幸福な神ではなく、自分の失なつたものを取り返へしに行く憐な巡禮者の様なもので有ります。Isis Unveiled(第二卷五百九十三頁)と云ふ本に「内部の人間」(INNER MAN)の事が書いて有るのを次に引用してもつと精しい返辭を致します。「太古より一般人類は人格的肉體人間の中には靈性的のものが存在して居ると云ふ事を確信して居る。此の内部のものが「頂」(Crown)に接近する程度に従つて、多少神的に成ると思はれて居た。其の結合が密接で有れば有る程、人間の運命は安全で有つて、外部の状態に益々危険がなくなるので有る。此の信仰は迷信でもなく、又迷信でもなくて、只他の靈性にして、見る可からざる世界に接近して居ると云ふ事を、絶えず本能的に知る感覺に過ぎないので有る。此の世界は、外部人間の五官には主觀的の有るけれども内部の自我には、全く客觀的の有る。夫れのみならず、人々は吾が行を左右する吾が意思の決定に影響を及ぼす外界及内界の状態が有ると云ふ事を信じて居た。彼等は宿命論を信じなかつた、如何となれば宿命論は一層無意識なる力の無意識の働きを意味するから有る。併し

彼等は運命、即ち Karma を信じて居つた。其の運命は誰でも人間が生れてから死ぬる迄、丁度蜘蛛が巣を作る様に、段々と作つて居るので有る。而して其の運命は或る人の所謂守護の天使か或は吾等の一層親密な靈氣的内部の人間の支配を受けて居るが、其のものは肉體人間(即ち人我)の悪魔と成る事が多い。此の二つのものは共に人間を導く。併し何れか一方が勝たねばならぬ。而して其の眼に見えぬ争の始めから、嚴格な因果應報の法則が之れに入り込み、此の争を始終忠實に追隨して其處置をする。此の巢が出来あがり、人間が己れの作つた網の中に包つまれて居る様に思ふ時に人間は全く吾が作つた運命の支配を受けて居るので有る、夫れから其の運命は人間を恰も自動力無き貝の如く、不動の岩に固着せしむるか、或は己が起した旋風に依て、毛の如く吹き飛ばされるので有る。人間—即ち眞の自我、併し自我と稱せらるゝ自動人形或は「殻」(即ち人格)に非ず—の運命は此の様なものです。物質に打勝つのは此の「人間」がすべき事で有ります。

Manas の複雑性

問 併し貴君は、Manas の本質及肉體的人間の Skandhas と、其の本質との關係を説明したいと

仰せでした。

答 此の本質は不可思議、多様で捕へ所がなく、又他の本因との連關に於ても、殆んど漠然として居るから、之を眞に理解する事は非常に六かしく、從て之を説明する事は尙更難いので有ります。Manas は本因で有るけれども矢張り「一實體」で個性或は自我で有ります。Manas は一つの神で有るけれども、矢張り生れ變りの無極の循環期を廻らなければならぬのです。而して其の生れ變りには、一々責任が有り、又其の生れ變りの爲に、一々苦を受けるので有ります。總て此の事は紛らはしくもあり、又矛盾して居る様に思はれます。併し西洋にですら、之を眞に理解する人は幾百人も有ります。如何となれば、其の人々は自我を全體の上よりのみならず、又其の多くの状態の上よりも理解して居るからです。併し私の言ふ事を理解し易い様にしやうと思へば、先づ根本から始め、此の自我の系統を手短かく説明しなければなりません。

問 説明を願ひます。

答 本質は神的で有りながら「遍一切」(the All)と同一に成る程に純粹でない爲め、其の目的に達するには、其の性質を純化せねばならぬ「精神」、即ち天國のもの(名は何れにしても)を想像して御覽なさい。此の「精神」が其の目的を達するには、是非共多様の宇宙に有るあらゆる

る經驗及感情を眞我又人我として、即ち精神的及肉體的に經過しなければ出来ないので有ります。夫れ故下界に於て經驗を得、生の階段を一つ宛昇るに従ひ益々高きに至つた後ち人間界に於けるあらゆる經驗を経なければならぬのです。此の「精神」は其の眞の本質に於ては「思想」(THOUGHT)で有る、夫れ故其の複性に於ては、Manasa-puras 即ち「宇宙心(Mind)の子」と云ふので有ります。此の個性に成つた「思想」とは吾等靈智學者の所謂眞の人間自我で、即ち骨肉の殻中に閉ぢ籠められた思考する實體で有ります。これは全く靈性實體で、物質ではありませぬ。さう言ふ實體は生れ變る眞我で有りまして、人類と稱する動物的物質に宿つて之に理性を與へます。其れを名づけて Manasa 即「心」(Minds)と云ふのです。併し一旦閉ぢ籠められ即ち肉體に宿ると、其の本素は二重性に成ります。即ち無窮神の心の光は個性實體として二重の屬性を表はします。「第一」は自我の本質的特性なる向上心で即ち上位の Manas。第二は人間の脳髓が優れて居る爲め合理的にされたる思想力或は動物的思想力の人間性質、言ひ換ふれば、Kama に向ふ下位の Manas で有ります。第一のものは、Buddhi に向上し、第二のものは動物的情慾の中心に向つて下降します。後者は、Devahan に入る餘地がなく、又唯一となつて心の祝福へ這入る神的三位一體と、結合する事が出来ません。併しながら、劣等の屬性が犯した

罪の責任を問はるゝのは眞我、即ちマナス的實體であります。夫れは丁度責任の無い子供が犯した罪は、其の親に掛つて來ると同じことです。

問 此の子供が即ち人我でありますか。

答 左様です。併し人我が肉體と共に死すると云ふては、未だ不充分であります。例令ば、田中氏、伊藤夫人の客觀的符號に過ぎない肉體は、總ての物質的五蘊(Skandhas)と共に消滅して仕舞ひます。而して其の Skandhas と云ふは肉體の發現で有ります。併し生存中、田中氏、伊藤夫人の靈性的經驗の集合、最高の希望、變らざる愛情及び利己心なき性質を組成して居たものは、總て皆 Devachan の期間中、眞我に結合してゐます。而して其の眞我は浮世的人我の靈性的部分と同一に成ります。無論、其の浮世的人我は今では見えなく成つて居るのです。眞我は役者の様に、今迄務めた役が、宜く染込んで居るから、Devachan の夜中、其の役の事を夢に見ます。而してこの夢中の幻象は、其の役者が更に他の役を務むる爲め、此の世の舞臺に歸へる時の來る迄繼續するのて有ります。

問 併し理性の人間が出來てから以來傳はつて居ると云ふ此の教が例令ば耶蘇教神學に這入て居ないと云ふのは如何なる譯ですか。

答 貴君の言はるゝ事は間違つて居ます。夫れは這入て居りますが、只神學が多くの他の教理を分らなくしたと同様に此事をも見分けのつかない事にして仕舞ふたのです。神學では自我は吾等の生れる時、靈魂を守る爲め神が呉れた天使で有ると、言つて居ります。神學の論理では吾等の頼みなき靈魂が、犯した罪の責任を天使に着せないで、肉體が犯した罪の罰を悉く靈魂に被らせるので有ります。神學の奇怪なる教に依ると物質的地獄の中で焼いても決して焼けて仕舞はない(註5)運命に成つて居るといふのは靈魂即ち神の無形の氣、或は神が造つたと云ふもので有ります。然るに天使は、只少し後悔をする許りで、何の罰も受けず逃がれて仕舞ひます。耶蘇教ではこう言ふ天使が所謂吾等を救ふ靈物で有り、慈悲のお使で有るのです。此の天使に就て僧正マント(Bishop Mant)が言ふたことに「吾等に善を施しに來るので有つて、吾等が罪を犯せば、吾等の爲に悲しみ、吾等が悔い改むれば吾等の爲に悦び」とあります。併しながら若しも世界中の僧正達に靈魂と其の官能とは如何なる事を言ふので有るか明瞭に説明して呉れと言つたならば、彼等は教會の教に少しでも論理に適ふ所が有る事を示す事が出來ない如く其の説明が出來ないのは明かて有ります。

(註5) 或る近代英國の一神學者の能辯な文辭に依ると、靈魂は「石綿の様な性質」で有つて、燃ら焼いたとて

焼けて仕舞はないと云ふてある。

此の教は聖書の約翰傳に教へてある

問 之れに對して、耶穌教信者は答へて申しましよう、自分の教では後悔せぬ罪人や唯物論者にあまり現實的な地獄で、罰を與へる様に言つて有るけれども、又一方では死に至る迄も悔い改める機會を與へて居ります。夫れのみならず耶穌教では人我の消滅を教へて居りませんと。

答 教會では其の様な事は教へなくても、耶穌が教へて居ります。此の事は、兎に角教會の教よりも耶穌の教を重んずる人に取つては肝要なことであります。

問 耶穌は其の様な事を教へて居りますか。

答 教へて居ります。何事にも明るい秘密學者(Occultist)や又カバラ教徒でも問へば皆左様言ひます。耶穌(兎に角約翰傳では)は、只死文字的の意味でなく、其奥義から言へば。輪廻説及び人我の消滅をも教へて居ります。約翰傳第十五章第一及び二節を御覽なさい、其の中の譬話は、人間上位の三本位の事を言つて居るではありませんか。其の譬話では、Atma は農夫で靈性自我或は Buddhi (Christos) は葡萄蔓です。而して動物的靈魂、即ち人我は蔓の枝で

す。余は眞の蔓で有つて、余の父は農夫で有る。父は實を結ばぬ余が枝を悉く取り去る。枝は蔓に宿らなければ獨りでに實を結ぶ事が出来ないと同じく、汝等は余に宿らなければ實を結ぶ事は出来ない。余は蔓で有つて、汝等は枝で有る。人若し余に宿らなければ、枝の様に投げ捨てられて枯れて仕舞ふ、而して火の中に投げ込まれて焼かれる。扱今吾等は之れを次ぎの通りに説明します。吾等は神學で枝に對する威嚇で有ると言ふ地獄の火を信せずして彼の農夫とは Atma の事即ち無限の無人我本因(註3)の記號を言ひ、蔓とは靈性魂の事を言ひ、又枝とは各々の新しい生れ變りを表したもので有ると申します。

〔註3〕 神秘行(Mysteries)中に蔓を植ゐた者は祭司(Hierophant)即ち「父」(The Father)で有る。記號にはそれ／＼七つの解釋法が有る。Pleroma を識する者は、時と「父」であると言はれた。

問 併し何様な證據が有つて其の様な勝手な解釋をするのですか。

答 この説明は正しく有つて、決して勝手なものではないと云ふ事を一般の表號學が證明して居ります。Hermas と云ふ人は、神は葡萄園へ蔓を植ゐた即ち神は人間を造つたので有ると言つて居ります。Kabalah には「老人中の老人」(the Aged of the Aged) 或は「長顔」(the Long Face)は葡萄園に蔓を植ゐると云ひ、葡萄園を人間に又蔓を生に譬へて有ります。夫れ故「教

世主 (King Messiah) の精神は世界が始つて (註54) 以来自分の衣を天の葡萄酒で洗つて居る様に書いて有ります。而して彼は自分の衣即ち生れ變りの人我を天の葡萄酒即ち Buddhi で洗つて純化したる真我で有ります。Adam 即ち A-Dam は「血」の事を言ふのです。肉體の生は血 (Nephesh) (Lev, xvii) に在るのです。而して Adam Kadmon は「獨り子」であります。Noni も亦葡萄酒に蔓を植ゑます。夫は比喩的に未來人間の「温床」を示して居るのです。其の比喩を採用した爲めそれが又 Codex Nazareus にも出て居ります。七つの蔓即ち七つの人種と、其の七つの教主、或は佛 (Buddhas) が出來ます。此等七つの蔓は Jukabar Zivo から生れ、Abel Zivo が夫れを培養 (註55) します。祝福を受けた者が天に昇り「光の子」の仲間になつた時には、Javar Zivo、即ち生の神及び「最初の葡萄酒」 (the first vine) (註56) が見入ります。此等の Kabalah の比喩は約翰傳の福音に繰返して有るのは當然です。

[註54] Zohar と云ふ本の第四十章の第十節を見よ。

[註55] Codex Nazareus, Liber Adami Appellatus-a Matli. Norberg, iii, 60, 61.

[註56] 註55の ii, 281.

吾等の七本因區分法を否認する哲學ですら、人間組織中自我、即ち思考する人間は、Logos 即

ち靈魂及び精神の子で有ると言つて居るのを忘れてはなりません。Manas は某王某女王(秘密教では Atma 及 Buddhi と云ふ)の貫ひ子で有ると、或る秘密教の本に言つて有ります。Manas は、プレートに云ふ男神で有つて、物質を取り戻す爲め空間 (the space) に於て或は生の循環期中に、自分を犠牲にするのです。之れは Manas が幾度も生れ變つて爲るので、人間を完全に向せしめ、之れに依つて下等のものに向上の餘地を與へ己を進め、又物質的天然の進歩を助ける事は、只一つの生の間も止めないので有ります。Manas が其人我の一つを失ふ事が偶々有つても(其人我に靈性が少しも無い場合に)自分の進歩の助けに成るのです。

問 併し若し人我が犯した罪の責任が自我に有るならば、又其人我の一つが消滅する責を儘に負はねばなりません。

答 此の恐しい運命を避けんと努めて怠らなければ、其の責任は決して無いのです。併し若し骨を折つたにも拘はらず、其の聲、即ち吾等の良心が物質の妨に打ち勝つ事が出來なかつたらば、其の物質の性質が不完全なる爲に生ずる頑固な妨は自然界の他の失錯と同じ部類に入れます。自我は Devchan の状態を失ひ又殊に殆んど即時に生れ變らねばならぬから、充分に罰せられて居るのです。

問 人が靈魂(人我)と貴君は仰せですが)を失ふ事が有ると云ふ此の教は Swedenborg が其所謂 精神的の死に幾分か用ゐて居るけれども耶蘇教信者や亡魂論者の理想的理論に反對して居ります 耶蘇教信者や亡魂論者は決して此の教を信じないでせう。

答 彼等が信じても信じなくても、自然の事實を變更し、又其の様な事實が時々起ることを防ぐ事は出来ません。宇宙と其中の一切の物事は平均と調和の完全なる法則に基いて出来て居ります。前に Isis Unveiled と云ふ本に言つて有つた如く求心力は遠心力がなければ天體の調和せる運行に現はれる事が出来ません。而して總ての物及び其の進行は、自然に於ける此の二性の力の産物で有ります。今ま精神即ち Buddhi は遠心力で、靈魂即ち Manas は求心的精神力です。而して或る結果を生ずるには、此の二つの力は完全に結合し調和しなければなりません。引き付けんとする中心に向つて行かんとする浮世的靈魂の求心運動を妨げ、又堪え得ぬ(即ち Devachin)の状態に適應せぬ)重荷を負はせて其の進行を止めるならば、全體の調和は亂されて仕舞ひます。人我的生、或は寧ろ其理想的反影は、此の二重の力(即ち總ての生れ變り、或は人我生に於ける Buddhi と Manas の結合)に依つて支へられなければ繼續する事は出来ないのです。少しでも調和を失へば、夫れを損ひ、又取り返しの付かぬ程亂されたならば、其の二

性の力は死すると同時に分離して仕舞ひます。少しの間人間の形(Kama rupa)又は Mayavi rupa)とも云ふ)は Kamaloka に行つて留まり段々に消滅して仕舞ひます。其の人我の靈性空華は、自我に結合して、Devachin に附て這入つて永久的真我に其の人我的状態を(言はゞ一時的に)與へるので有ります。最も肝心の時は、救ふ事の出来ない程に腐敗し邪惡の者が死んでから後ちで有ります。即ち若し生存中に「内部の自己」(Manas)が人我の幾分を己と神的 Buddhi の光とに結合せんとする非常な努力を妨げられたらば、又若し此の光が益々凝固し行く肉體の腦髓に這入る事が出来なければ、一旦肉體から離れた靈性自己、即ち Manas は人我の精氣的遺物から全然分離して仕舞ひます。而して後者即ち Kama Rupa は其の浮世的引誘のまんに吾等の所謂 Kamaloka なる冥途(Hades)に引き込まれ、其の中に留まることとなるのです。之は耶蘇の所謂墓から切り放された「枯れ枝」で有ります。併し消滅は決して即時的でなく、時として幾世紀もかゝる事が有ります。併し其の人格は他の人我と共に Kamaloka に留まり彼等と共に「殼」と Elementary に成りませぬ。Isis Unveiled と云ふ本に言つて有る如く、亡魂論者の「幽魂出現」に出て来る重なるものは此の二つの亡魂、即ち「殼」と Elementaries で有ります。而して生れ變る者は儘に此等の者ではありませぬ。夫れ故此等の者には生れ變りの事を

知つて居る者が少ないから亡魂論者を誤まらすので有ります。

問 併し Isis Unveiled と云ふ本の著者は、輪廻説に反対したと、非難されて居るでは有りませぬか。

答 其の本に書いて有る事を、誤解した人々には非難されて居ます。其の本が出た時に輪廻説は英米の亡魂論者に信じられて居なかつたのです。其の本に輪廻説の事を言つて有るのはフランシスの亡魂論者(Spiritists)を駁して居るのです。彼等の理論は非常に不哲理、不合理で有るが、之れに反して東洋の哲學は其の説が合理的で明かであります。 Allan Kardec 派の輪廻論者は、無理な即時の生れ變りを信じて居ります。彼等の説に依ると、死んだ親は未だ生まれな吾娘に生れ變る事が出来る等と教へて居ります。彼等の説には Devachan や Karma もなく、又生れ變りが繼續せねばならぬことを説明する哲學的理論も有りません。併し此信仰が佛教信者や印度教信者の根本的信仰で有りながら、千年乃至千五百年の長い期間を隔て、カルマの爲に起る生れ變りを何うして Isis Unveiled の著者は駁する事が出来ますか。

問 夫れではフランシスの亡魂論者及び英米の亡魂論者の理論を全然否認なさりますか。

答 全然ではなく只其の各々の根本的信仰を否認します。兩者共其の「亡魂」(Spirits) が言ふ事を當に致します。併し吾等靈智學者が兩者と一致しないと同じく、彼等は互に一致して居ません。眞理は一つです。

フランシスの亡魂論者達は輪廻説を唱へ、又英米の亡魂論者達は之を非難反駁して居る、それ故に兩方共何の事を云つて居るか自分では分らないと吾等は云ふのです。吾等は兩亡魂論者と同じく、亡魂、即ち多少智力を有つて居る眼に見えぬものゝ存在を信じて居ります。併し吾等の教では、其の種類が無数で有ると言ふけれども吾等の反對論者は、人間の肉體を離れた亡魂の外に何者も認めないので有ります。彼等の言ふ「亡魂」(Spirits)は大概 Kamaloka の「殻」(SHELLS)で有ると吾々は言ひます。

問 貴君は「亡魂」(Spirits)に非常に反対なさる様に思はれます。貴君は肉體を離れた靈魂、即ち死んだ人の靈魂の實現及び魂降しの會座で之れと直接の交通をしようと云ふ事を否認する理由をお述べになりましたが、今一つ事實を私に説明して下さいませんか。即ち或る靈智學者は、亡魂との交通や、亡魂を呼出す媒介となるは危険で有ると云ふ事を何故絶えず仰せですか。之れには何か特別の理由が有りませんか。

答 理由が有りとせねばなりません。私は理由の有ことを自ら知つて居ります。此等は眼には見えぬ

と餘り明かて否認し得べからざるもので有つて、意識ある氣鬼 (Elementals) や半意識的「殻」より全く無知覺にして名狀すべからざる幽魂に到る迄、五十年以上も前から私は善く知つて居ますから意見を主張する一種の權利が有ります。

問 此等の降魂術の應用は何故危険であるかと云ふ理由を實例に依つて證明する事が出来ますか。

答 これを證明するには、時間が長く掛りますから出来ません。原因は悉く其の生じた結果に依つて判断せねばなりません。降魂術が今世紀亞米利加に再顯して以來過去五十年間の其の歴史を御覽なさい。而して其の信者に利益を與へたか將た害を與へたか自分で判断して御覽なさい。私が反對を唱えるのは、眞の降魂術 (Spiritualism) でなくて、其の名の許に行はれて居る近世の亡魂論と其の現象を説明する爲に作られた所謂哲學で有ります。

問 貴君は此等の現象を少しも信じませんか。

答 私が全力を盡して其の現象に反對するのは明かな理由が有り、又其の存在を信じ(或る詐偽の場合を除けば)、慥かに之れは事實で有るのを知つて居るから有ります。繰り返して申し上げますが、私は只物質的現象の事を言ふので有つて精神的或は心靈的現象の事を言ふので有ります。

では有りません。所謂類を以つて集るので有つて私の知つて居る人で、肉體から離れた靈魂でも又は遊星の靈魂から直接に指導又は保護を受け、幾年間も生活した高尚潔白な心を有てる善人が數人有ります。併し此等の智慧 (Intelligences) は魂降しの會座で出て來る "John King" や "Ernest" と自稱するものゝ種類では有りません。之れ等の智慧 (Intelligences) は人間を指導もし支配も致します。併しそれは、個人の Karma の過去に依つて引き付けらるゝ稀な例外の場合のみで有ります。彼等を引き付けるには、媒介者に成つて呼ぶ丈ではなかく出來ません。只夫れ丈では種々様々の幽魔を招き寄せる計りで有つて、媒介者は生涯彼等の奴隷に成るのです。私が反對を唱へるのは、其の様な雜駁な媒介者や、其の様な幽靈と交通する事に對して有つて、精神的秘密義に對しては有りません。後者は高尚神聖で有つて、前者は丁度二世紀前に現はされた現象と同性質のもので、其の現象を起したが爲め、魔法使が非常に澤山罰せられたのです。妖術の問題を論じて居る "Gibson" や他の著者の書いた本を讀んで見ると大概は十九世紀に於ける降魂術の物質的現象と同様なものが書いて有ります。

問 それは只妖術に過ぎないものであると言ふ積りですか。

答 知つても知らずでも、死んだ人と此の様に交通する事は巫術 (Necromancy) で有つて、非常

に危険な事であると私は申すのです。Moses より幾世紀も以前から、死んだ人の靈魂を其の様に呼び起すは、其當時に於ける總ての文明國民に依つて罪深い邪惡で有ると看做されて居たので有ります。如何となれば之れは靈魂が休息し又高尚な状態に進化發達するのを妨げるからです。昔から積み來つた經驗に依り其の様な術は非常に非難す可きもので有るとされて居ります。終りに私は十五年の間、口や筆で常に繰り返して來た通り、所謂亡魂 (Spirits) の中で、或るものは何の事を言つて居るのか自分では知らないで、只媒介者や、他の人の思つて居る事を丁度鸚鵡の様に真似をして居るので有ります。又或るものは非常に危険で人を誤まらして墮落せしむるのみで有ると私は申します。之れは二つの自明の事實で有ります。Allan Kardec 派に屬する亡魂論者の社會に這入つて見ると、亡魂 (Spirits) は輪廻説を固守し、又恰も生れ付きの羅馬教徒の様な事を言つて居ります。英國や米國の亡魂論者等の所へ行つて見ると、輪廻説を徹頭徹尾否認し、又之を教へる者を非難し、耶穌新敎の敎を固守して居ります。例の媒介者等は何の位善くても、又何の位有力でも、皆身體や精神の健康を害して居るものです。Charles Foster の憐なる最後を考へて御覽なさい。彼は謔妄を言ふ狂人に成つて、風癲病院で死んだので有ります。其の他癲癩病みの Sledge 或は矢張り同病に惱める今英國最上の媒介者なる Eslington

の事を考へて御覽なさい。又 D. D. Home の生涯を顧みて御覽なさい。彼の心は僻んで居つて心靈力有りと思しき者を非常に貶稱して、自分以外の媒介者を極端に絶言したので有ります。降魂術の此の首領は亡魂と交通した爲に、脊髓病を引き起し多年病らひ、全く身體を毀はして死んだので有ります。又 Washington Irving Bishop の憐なる最後を考へて御覽なさい。私は紐育で彼が十四歳の時知つて居りましたが、彼は全くの媒介者で有りました。彼は亡魂に魁をして、之れを「無意識の筋肉活動」と稱し、物識りの學者衆を喜ばして、又自分の懷を肥したので有ります。併し、死んだ人を悪く言ふものではありませんが、彼の最後は憐なものでも有りました。彼れは眞の媒介者たる可き最も慥かな證據なる自分の癲癩病を努めて隠して居つたが、彼れの死體を解剖して見た時に彼れは果して死んで居たか、又は失魂の状態に居たので有つたかは誰も知る者は無かつたのです。若しルーテル電報に信を措かば、彼れの親族共が彼れは生きて居たので有ると言ひ張つて居るさうです。終りに近世魂降術の元祖なる Fox 姉妹を御覽なさい。四十年以上も亡魂と交通したから、彼等は不治の沉醉漢に成つて仕舞ひました。而して彼等は自分の生涯の事業と其哲理は詐偽で有ると今は公然言つて居ります。彼等を教唆した亡魂は何んなもので有つたでせうか。

問 併し貴君の推論に間違はありませんか。

答 或る唱歌學校の最良の生徒が無理をして咽を痛め倒れたと假定すれば、貴君は何う云ふ推論をなさりますか。其の教授法が悪かつたのだと、推定なさるでせう。降魂術の場合でも、若し最上の媒介者が其れと同様な運命に逢ふならば私の推論は間違つて居ないと思ひます。此の問題に興味を有つて居る人々は、降魂術の根本を、其の生じた結果に依つて判断し其の教訓を宜く考へて御覽なさいと吾等は申すので有ります。吾等靈智學者は亡魂論者を吾等と同じく神秘的に傾いて居る同僚の如く常に看做して居るので有ります。併し亡魂論者は吾等を常に敵視して居るのです。吾等は一層古い教を有つて居るから、彼等を教へ戒めやうと、努めて居たので有ります。併し、彼等は其の報として。あらゆる方法を採り、吾等と吾等の厚意を誹謗譏致しました。併しながら英國最上の亡魂論者等は自分の信仰を眞面目に論ずる場合には何時でも吾等の説と一致して居ります。M. A. Oxon が次ぎの様に眞實を白状して居るのを聞いて御覽なさい。『亡魂論者は人間體外の亡魂(Spirits)の干渉にのみ餘り熱中して、人間體内の精神(Spirit)の力を無視する傾きが有る』と云つて居ります。

〔註57〕「透視(Second Sight)と云ふ本の緒言。」

然しに彼等は夫れと同じ説を唱ふる吾々を何故に罵るのでせうか。以來は最早亡魂論のことを彼是申しますまい。之れから輪廻説に歸りませう。

第十一章 輪廻説の奥義に就いて

定期の生れ變り

問 夫れでは、吾等は此の世で過去に幾度も生れ變り又未來でも其の通り生れ變るのだと仰せですか。

答 左様です。生の循環期或は寧ろ意識的生命の循環期は肉體的人間男女の分離せるに始り、人間の第七「回」(round)第七「種族」(race)に於ける最後の時代に終るので有ります。吾等は今漸く第四「回」(round)第五「種族」(race)に居ると考ふれば、其の生の循環期の永きことは、説明するよりも想像した方が宜いので有ります。

問 然らば、吾等は始終新しい人我と成つて、生れ變ることを續けるのですか。

答 無論左様です。如何となれば此の生の循環期、即ち生れ變りの期間をば、人間の命に譬

へると一番宜く分ります。人間の命は各活動の晝と、睡眠や休息の夜との二つから成り立って居る如く生れ變りの循環期に於ても、活動的生活の次には、Devachanの休息が來るので有ります。

問 普通輪廻説と言ふのは此の生れ變りの繼續を言ふのですか。

答 左様です。無量無數の自我が、最後の完全圓滿なる域に向つて絶えず進歩をつづけ、最終の休息(活動の期間と同じ長さ)の時期に達するには、之れ等の生れ變りを経なければならぬので有ります。

問 然らば、此等生れ變りの長さ、或は性質を支配するものは何ですか。

答 夫れは Karma です、即ち應報を公平にする宇宙的法則です。

問 其の法則は有智の法則ですか。

答 總てのもの、指導を司る所の定期性の法則と他の總ての天然の法則とを盲力と呼び、機械的の法則と稱ふる彼の唯物論者は Karma は疑なく偶然の法則に過ぎないと説くでせう。併し只一般的動作の法則に過ぎないものは、吾等には如何なる形容法を以てするも之れを説明する事は出來ないので有ります。若し、其の法則中の萬事を起こす智力に就いてお

問ひなさるならば私は知らないと答ふるより外はないのです。併し其の結果は如何なるもので有るか、又吾等の教では如何なるものと信じて居るか、お問ひなさらば吾等は幾千年代の經驗に照し、其の結果は絶對的に慥かな公平と大智と智慧とであることを證明することが出來ます。何故なれば、Karma は其の結果に於ては、人間の不公平と總て自然の失策を過なく改めて、不正を厳しく調理し、賞罰を公平ならしむる應報の法則で有るからです。Karma は最も嚴格に云へば人を論じません。併し又一方に於ては祈つても之を宥めたり逃れたりする事も出來ません。之れは Karma を信じて居る印度教徒や佛教信者が、共に信じて居る事であります。

問 此の點に於ては、耶穌教會は此等の兩教に反對して居ります。而して耶穌教信者に此の教を信する者が有るか無いか疑はしいのです。

答 信する者は有りますまい。而して Inman と云ふ人は其の理由を多年前に説明した事が有ります。彼れは次ぎの様に言つて居ります、「耶穌教信者は若しも教會が信仰箇條として傳布したならば、如何なる不合理な事でも信じます。これに反して、佛教信者は如何なる事でも健全なる道理に反した事は釋迦の眞の教では無と信じて居る」と。佛教信者は悪行惡念をすれば、未

來の生れ變りに於て充分公平な罰を受けて、其の害を受けた人に相當の償をした後でなければ、自分の犯した罪は赦されないものだと言ふ事を信じて居ります。

問 何に其の様な事が言つて有りますか。

答 佛敎の經典には大概左様書いて有ります。「法輪」(The Wheel of the Law)と云ふ本の五十七頁に次ぎの様な靈智學の敎が書いて有ります。「佛敎信者は言語、行爲、思想には悉く其の結果が伴ひ現在か未來の世に早晚現はれると云ふ事を信じ、悪行は悪い結果を生じ、又善行は善い結果を生じて、此の世に於ては榮へ、未來に於ては極樂(即ち Devachan)へ行けるのである」と。

問 耶蘇敎信者も其れと同じ事を信じては居りませんか。

答 決して信じて居りません。彼等は總て罪は赦さるゝものと思つて居ります。彼等は若し耶蘇(無罪の性)の血、即ち耶蘇が人間全體の罪を贖ふ爲に命を捧げたと言ふ事を信じさへすれば、人間の罪は悉く償はれるものであると云ふ事を教へられて居ります。罪は代理で償ひ得られるものではなく、又如何なる神でも之を赦免する事は出來ないと吾等は信じて居ります。又所謂人我的「絶對」や「無限」と云ふ様なものが存在すると假定しても、之に依つて罪

を消す事は出來ないと信じて居ります。吾等が信ずる所のものは嚴格で公平な正義で有ります。Karma が代表して居る、不可知の宇宙的神は決して間違をせぬ。夫れ故に怒もしなければ、又赦免もしない只絶對的公平なる力(Power)で有ると信じて居ります。故に事の大小に關はらずあらゆる原因には公平な結果が伴ひます。「己の爲す事は己に歸へる」と言つた耶蘇の言には未來に於て、赦又は救を代償し得らるゝと云ふことは言葉にも意味にも有りません。故に吾等は此耶蘇の敎の公平を認めて居りますから慈悲を施し、又相互の罪を赦す事を他く迄勸めるので有ります。「惡に逆ふこと勿れ」又「惡に報ゆるに善を以てせよ」と釋迦も教へて居ります。Karma の法則は避け得べからざるものであるから、之を初めに教へました。人間が如何なる場合にでも其の法則を自分で用ゐるのは神聖を犯す行で有ります。人間の法律は制限的方法を用ゆべきもので、決して刑罰的方法を用ゆべきではありません。併し Karma を信ずるとても、矢張り自分の讐に報いたり、恨みに報ゆるに恨みを以てしたり、己れの受けた害を悉く赦すことの出來ない人間は罪人たるのみならず、しかも自分を害するので有ります。Karma は他人に害を加へた者を必ず罰するので、其の罰を Karma の大法に任かざる自ら敵を討つ人は、其がため未來では己が敵には賞を與へ、吾に罰を招く原因を作るので有ります。生れ變る

度毎に誤らず處置をする支配者は其の次ぎに生れ變る者の性質に影響を及ぼし、其の前の生れ變りの善惡の差引勘定に依つて、次ぎに来る生れ變りを決定するので有ります。

問 然らば、吾等は人間の過去を其現在から推定するのですか。

答 夫れは、只過去の罪を償ふ爲め人間の現在生活は當然の結果で有ると云ふ事を信する計りでは有りません。無論(達觀者や大仙人を除けば)吾等凡人は其の過去の罪は如何なるもので有つたか之を知る事は出来ません。吾等は論量が不足であるから一老人の青年時代は如何なるもので有つたかと云ふ事ですら推定する事は出来ません。又夫れと同一理由で、吾等は人の現在の生活を見た計りでは、其過去の生活は如何で有つたかと云ふ事を斷定する事は出来ません。

Karma とは如何なるものか

問 Karma とは何なるものですか。

答 私が前に言つた通り Karma は宇宙終極の法則、即ち自然界に遍在する他の總ての法則の本源で有ると吾等は思つて居ります。Karma は物質界と精神界に於いて、原因結果を誤なく調

和する法則です。一つの原因は其最大のものより最少のものに至るまで、即ち宇宙的變動の大小より人の一擧手の小に到る迄、必ず其の結果が伴ひます。例令は蒔いた種子が生ずるが如く、Karma は或る原因には必ず其結果を生ぜしめ、此兩つを公平に調和せしむる不可見不可知の法則で有ります。Karma 其のものは知り得べからざるもので有るが、其の働は知覺し得べきもので有ります。

問 夫れでは Karma は例の「絶對」或は「知り得べからざるもの」で有つて、生の問題を解釋するには餘り價値の有るものではありません。

答 いや價値が有ります、如何となれば吾等は Karma 其のものと其の本素とは如何なるもので有るか知りませんが、Karma が如何に働くかは慥かに知つて居ります。而して其の活動の法は、正確に説明する事が出来ません。吾等は只其の至極の原因だけを知らないのであります。夫れは丁度近世哲學で物の至極の原因は、知るべからざるものと言つて居ると同様で有ります。

問 靈智學は人間の一層實地的必要問題の解決に關しては、如何なる事を言ひますか。所謂下層社會に多き、恐ろしい苦と貧に就て、靈智學は如何に説明致しますか。

答 簡單に言へば、社會に於ける階級の區別、人事に於ける男女の區別及び資本と勞働との不平等な割當——此等の社會的害悪は皆吾等の救では、所謂 Karma に歸因するので有ります。

問 併し一般の人間が、多少無差別に受ける此等の害悪は、儘に個人が招いた當然の Karma では無いでせうか。

答 左様です。各人の周圍や各人の生活境遇は其の個人が前世に作つた應報の Karma に過ぎないと云ふ事を證明する程に結果を正確に説明する事は出来ません。吾等は悉く原子は其の屬する體を擧げて支配する一般の法則に従ふと云ふ事を忘れてはなりません。之れは Karma の法則の一層廣い意味です。個人的 Karma の聚合が國民的 Karma の聚合と成り、國民的 Karma の聚合が世界的 Karma の聚合となる。云ふ事が分りませう。貴君の仰せの害悪は個人或は國民さへも特有するものではなく、多少遍在性で有りませう。而して Karma の法則が正當で平等なる果を得るは人間が此の様に廣く互に依從するからで有ります。

問 夫れでは Karma の法則は必ずしも個人の法則でないと云ふのですか。

答 私の言ふ事は其の通りで有ります。Karma は廣くして全般に亘れる活動範圍を有たねば人間界の生に於ける力の平均を調理して、進歩する事は出来ないので有ります。人間が互に依從する

事は所謂一般的 Karma の原因で有り、又一般の苦痛と其の救助の大問題を解決するのは、此の法則で有ると云ふ事は、靈智學者間に眞理と思はれて居ります。又人間は自分の缺點に打勝てば必ず吾も其の一部分と成つて居る全體を幾らか、向上させたので有ります。夫れと同様に、誰でも罪を犯せば他人に影響し、又其の罪の罰を受ければ、他人に影響するので有ります。實際に於て、「單獨」(Solitaries)と云ふ様なことは無いのです。生の法則が許す所の此の利己の狀態に最も近いものは、只人間の意志に有るのであります。

問 一般的 Karma 或は國民的 Karma は、言はゞ集合して此の長い苦を受けないで其の自然的正當の結果を得る方法は無いですか。

答 通則としては又吾等の時代を限る範圍内で Karma の法則は其の結果を緩急する事は出来ないのであります。併し其の緩急し得る程度は未だ曾て計つた事が無いと云ふ事は儘かで有ります。

問 夫れでは地震か何か其の様な一般の災害より外には何等救済を得る即坐の望が無い様です。人間の半數が他の半數の受けて居る貧苦を直に救ふ事が出来るのに如何して吾等は左様考へる事が出来ませうか。個人が悉く自分の出来る丈の金錢や勞力や貴き思想を社會公益の爲に貢いで、初めて國民の Karma の平均が定まるので有つて、夫れ迄は自然が地球上に養ひ得ら

れぬ程、生物が居ると云ふ事を言ふ権利は吾等にないで有ります。Karmaの此の不均壓迫の原因を發見し、大なる努力に依つて力の平均を調理し、又道德の墮落から人間を救ひ出す事は、偉大の勇者、即ち人間の救主が爲るので有ります。此の道德の墮落は、貴君が此の積つた不幸を救ふ唯一の道で有ると思はるゝ物質的災害よりも遙かに不幸で、其の害毒を長く残すので有ります。

問 夫れでは、貴君は此の Karma の法則は大體如何なるもので有ると仰せですか。

答 Karma は物質界の不均と、道德界の不調和を絶へず回復しやうとする調理の法則で有ります。又其の活動する方法は常に一定して居ないけれども、常に調和を回復し、平均を保つ様に活動して居ります。夫れが爲に宇宙は存在するので有ると吾等は言ふのです。

問 其の例を一つ挙げて下さい。

答 最少し先で委しく例證を挙げませう。今は池を譬にしてお話しませう。石が水の中に落ち込んで、水面に波動を起します。此の波動は前後に揺り、終に物理學者の所謂勢力消散法に依つて静まり、元の平穩の状態に復ります。夫れと同じ理由で何界に於ても總て活動は宇宙の調和を亂すので有ります。而して其の起つた波動が前後に轉々して、若し其の範圍が定まつて居れば、終に平均が回復するので有ります。併し其の様な波動は各或る定まつた點から發するので有るから、平均と調和は總て力が發した元の點に復歸しなければ、回復する事は出来ないといふ事が明かです。夫れで人間の行、思想等の結果は總て之を行つた時と同じ程度で自分に歸ると云ふ事が分るでせう。

問 併し此の法則には道德的の性質は何も無いと思ひます。此の法則は只活動と反動の度は齊しといふ云ふ單純な物質的の法則の様に思はれます。

答 貴君が左様言はるゝのは尤です。西洋の人は正邪、善悪は人が作つた法律、或は人間の委せる神が人間に被らせた不條理な法律で極めた事の様に思ふ習慣が有ります。併し吾等靈智學者は「善」と「調和」と「惡」と「不調和」とは同意義で有ると言ひます。總て苦痛及び艱難は調和を缺いた結果で有つて、調和を損ふ恐しい唯一の原因は必ず何か利己主義より起るので有ります。夫れ故 Karma は何人へも其行の結果を善惡に係らず現實的に報ゆるので有ります。併し人間は何事をしても、其の報を受けるので有るから、自分が引き起した總ての苦を償はせらるゝのは明かです。夫れは丁度自分が他人に與へた幸福と調和の結果を收めて、幸を得ると同様で有ります。之れを貴君に説明するには Karma の正確な觀念を有つて居る靈智學

者の説を引用するが一番宜いと思ひます。

問 靈智學者の書物には此の問題は餘り出て居ない様に思ひますから、左様して戴きたいのです。

答 夫れは吾等の教の中で一番六ヶしいからです。

近頃耶蘇教信者の手から次ぎの様な反對論が出来ました。「靈智學の教は間違つて居ないものと
し又人間は己れの靈魂を救ふ爲には自ら吾身の救主となり、己れに打ち勝ち己れの二重性の惡
を制せねばならぬと云ふ事を是認しても、人間が幾分邪惡から覺醒せられ又改心した後に、如何
なる事をしなければならぬか、又如何にして人間は既に自ら犯した罪惡の赦を得、又は之を拭
ひ去る事が出来るのですか」と。之れに對する或る靈智學著者の答は實に適切で有ります、其言
葉は次の通です、「神學の軌道に靈智學の機關車を運轉せしむる事」は到底望む可からざる事
有りますとて、彼は次ぎの如く言つて居ます、「個人の責任を避ける事が出来る」と云ふ事は靈智
學の概念中には無い。此教には既に爲したる罪惡を赦し、或は之れを拭ひ去ると云ふが如き事
は無いので有つて、必ず罪人を充分に罰し、又其の惡行に依つて亂されたる宇宙の調和を回復
しなければならぬ。罪惡は自分が犯し、而して其の結果は他人が受けなければならぬことに
なるから己より以外の人が夫を償ふ事は出来ないのです。人が幾分か罪惡から目が醒めて心

を改むる状態は、自分の行は罪惡で有つて、罰は當然自分が受く可きもので有ると云ふ事を自覺
する状態をいふのです。斯く悟るには個人の責任と云ふ觀念は離る可からざるもので、其の覺醒
し心を改める度合に應じ其の責任の重大なる觀念が伴ふのです。而して其の觀念を強く感じて
居る間に耶蘇教では例の代償の教を信せしむるので、又人間は悔いなければならぬと云ふ事を
教へられて居ります。併し後悔する事程容易い事は無いのです。吾等が罪惡を犯し、氣が
付いて之が爲めに苦しめらるゝ時に、其の犯した事を直ちに後悔するのは人間の常で有り
ます。恐らくは此の後悔の念を細かく分解して見れば、吾々が後悔するのは罪惡其のもの
よりも、寧ろ吾等の利己の目的を達する爲に罪惡を犯さねばならぬ事であると知られませ
う。

吾等の罪の重荷を十字架に掛けて救はるゝと思ふ事は、普通の人に取つては望しう有まじよ
うが靈智學を研究する者は、これが心に稱ひません。罪人は自ら犯した罪を認めれば過去の罪
は赦され、又拭ひ去らるゝ事が何故出来るか、又後悔して未來に正義の生活を送れば、何故原
因結果の關係で罰を受けずに済むかと云ふ理由を靈智學者は了解出来ません。如何となれば、
吾が惡行の結果は依然として繼續し、吾が罪惡に依つて、他人に與へた苦は拭ひ去られませぬ。

彼は罪なき者に及ぼす罪惡の結果を考へます、即ち罪人のみならず其の犠牲に成る人の事を考へるので有ります。

罪惡は宇宙を支配する調和法則の違反で有ります。而して其の違反の刑罰は、其の法則違反者に被らさねばならぬのです。耶蘇は「最早罪を犯す勿れ、汝の罰は之よりも大なるべし」と戒め、又ポールは「汝自ら身を救ふ可し」、「人は蒔きたる物を收む可し」と言つて居ります。夫れは彼より遙か以前に出た Pythagoras と云ふ本に「人は自分の行の結果を收める」と言つて有るのを巧みに比喻としたもので有ります。之は靈智學が教へて居る Karma の法則の原理です。Karma は道徳的發動の法則であります。併しブラッヅキーが云つて居る如く其の意味は「應報の法則」と云ふ方が優つて居ます。「Karma は實に不可思議なもので、人の知らぬ道を誤りなく罪より罰に人を導く力で有ります」。併しただ夫れ以上のもので、Karma は過無く充分惡を罰する如く又善を賞します。Karma は悉くの行爲、思想、言語から出て、人間は此の法則に依り其性質と生活の状態を作るので有ります。東洋哲學では、生まれた赤子が各新しい靈魂を作つて貰ふと云ふ事は信せず元子(Monad)の數は制限されて居つて、繼續する多くの人我を同化し、段々完全に達すると云ふ事を信じて居ります。此等の人我は Karma の産物で有

つて、人間の元子(Monad)が終に其の源、即ち絶對の神に歸するのは、Karma と生れ變りの法則とに依るので有ります。』
 Dr. Walker と云ふ人は其「輪廻說」と云ふ本に次ぎの様な解釋を下して居ります。『簡單に言へば、Karma の教に依ると、吾々は前世の行に依つて現世の吾々を作り、現世の行に依つて來世の運命を作りつゝ有るのであります。運命には吾々の作るものより外には無い。救も罰も吾々が自ら招くものより外には無いので有ります。Karma の教は間違つた行を庇護せず、眞に男らしく罰を受けしむるのであります。懦弱の人間は彼の耶蘇教の代償、代請、赦、臨終改心等の容易なる教の様に此の教を悦ばないのです。無窮正義の領域に於いては、罪と罰とは同じ出來事と看做されて、離る可からざる關係を有つて居ります。如何となれば實際、行と其の結果とは眞に區別が無いからです。吾等を浮世の生に引き戻すものは、Karma 即ち吾等の前生の行です。自我の居り所は其の Karma に従つて變りがある、又此の Karma は絶へず變つて居るから、同じ状態で長く繼續する事を赦しません。人の行が物質的で利己的の動機に支配されて居る間は、物質的の生れ變りをしなければならぬのです。眞に利己心の無い人間でなければ物質的生の引力を逃れる事は出來ません。之を遂げる人は少ないけれども、それは人間最終の目

的で有ります。』

夫れから其の著者は The Secret Doctrine と云ふ本から引用して次ぎの様に言つて居ります。『Karma を信じて居る人は運命を信じなければならぬ。其の運命は誰れでも人間が生れてから死ぬ迄、丁度蜘蛛が巣を作る様に、段々と作つて居るので有る。而して其の運命は或人の所謂「守護の天使」(Guardian Angel)か或は吾等の一層親密な「靈氣的内部の人間」(Astral inner man) に依つて支配されて居る。其のものは肉體の人間(即ち人我)の悪魔で有る場合が多いので有る。此の二つのものは共に人間を導く、併し乍ら何れか一方が勝らなければならぬ。而して其の見得可からざる争の始めから、此の厳格な因果應報の法則が這入り、此の争の成り行きに従つて、處置を取る。此の巢が出来上つて、人間が自分の作つた網の中に包まれて居る様に思はれる時に、人間は全く自分の作つた運命の支配を受けて居るのです。秘密學者や哲學者は、天道の是非を論じないが、之は Karma Nemesis と同一のもので有つて、現生のみならず來生に於ても、善人を護り、悪人を一第七の生れ變り迄、即ち人が調和の無限の世界を少しでも亂した結果が回復しない間は罰すると云ふ事を教へる。如何となれば Karma の唯一の勅命、即ち無窮不變の勅命は精神界のみならず、物質界に於ける絶對の調和で有る。夫れ故

に賞罰をするものは Karma でなくて、調和の法則を守り、自然と共に活動するか、又之れに逆らふかに従つて、吾等を賞罰するものは吾等自身で有る。又實際 Karma の法則は、若し人間が奮争しないで、結合し調和して活動するならば、量り得可からざるものではない。如何となれば、若し吾等が其の法則には正しい原因が有ると云ふ事を認めざるれば、吾等の其の法則を知らない所が、自然明瞭に成つて來るので有る。併し其の法則を或る一部分の人間は、神秘不可解の天道で有ると言ひ、又或る一部分の人間は之を闇の宿命で有ると言ひ、又或る一部分の人間は之を支配する神も悪魔も無い只の運で有ると言つて居る。吾等は自ら作つた秘密や、自ら解けば解ける謎を不思議に思ひながらの Phenomena が吾等を食ふのを咎めるので有る。併し實際吾等の生活の如何なる出来事、又如何なる不幸と雖も其の原因は皆今生か或は前生に自ら作つたもので無いものは一つも無いので有る…… Karma の法則は生れ變りの法則と入交ざつて離る可からざるもので有る……善惡の不思議な問題を吾等に説明し、一見不公平と思はるゝ恐しい生活の苦に人間を服従せしむる事が出来るものは、此の Karma の教のみで有る。其の様な確實なものでなければ、何ものでも吾等の正義を犯されたと云ふ觀念を鎮める事は出来ないもので有る。如何となれば此の高尙な教を知らない人が己が周囲を見て

出生や位置や財産や智力や技能が不公平に與へられて有るのを知り、又馬鹿や放蕩者でも生れの貴い御蔭で巨大の富を有つて居る者には名譽を與へられ、智力高德を具へて居つて、何の點から見ても遙かに優れて居るにも拘はらず、貧の爲め、又同情のない爲めに飢渴に類して居る隣人を見、又總て此等の不幸を見、周囲の苦痛の聲で耳は鳴り、心は痛んでも、此の故なき苦難を救ふ事が出来ないで、顔を背けなければならぬ時に、幸に Karma の事を知つて居ればこそ、人間は神のみならず、同胞をも怨まないのて有る。

此の法則は意識的なるにせよ、無意識的なるにせよ、何物も又何人も其の運命を前以て定めぬ。此の法則は眞に無窮から無窮に存在する。如何となれば此法則は無窮其のもので有る。而して如何なる働でも無窮に繼續する事は出来ないから、此法則は活動するものと言はれぬ。何故なれば此法則は活動其のもので有るからです。人を溺らせるものは波ではなくて彼の大洋の運動を支配する法則の人意無き働に身を任す所の憐な人の人意的働で有る。Karma は何物も作らず、又工夫もしない。原因たる種を蒔き、之れを作る者は人間で有つて、Karma の法則は其の結果を調理する。而して其の調理するのは働でなく、宇宙的調和で有つて元の位置に絶へず歸へらうとして居るので有る。夫れは丁度枝を強く曲ぐれば、其の力に應じ

て彈き反へると同様で有る。其の枝を曲げて、其の自然の位置から離さうとした腕の骨が外れたならば、其の腕を外したのは枝で有ると言へませうか、又自分の恐で招いた罰で有ると言へませうか。唯神信者が發明した神の様に、Karma は智力的及個人的自由を阻碍せんとした事は決して無いので有る。Karma は人間を迷はさんとて、態と其の法則を秘密にして置くのでは無い。又其の秘密を探らうとする人を罰しませぬ。却つて研究と静思とに依つて其の秘密を伺ひ知り、又迷路を知らない爲に多くの人間が死する彼の複雑な岐路に光明を與へる人は、同胞の利益を計つて居るので有る。Karma は發現界に於て絶對無窮の法則で有る。而して無窮不滅の原因は一つで有る如く、絶對は一つより外に有る筈は無いから、Karma を信する人を無神論者、或は唯物論者と云ふ事は出来ない、況して宿命論者と云ふ事は尙更出来ないのて有る。如何となれば Karma は「知り得可からざるもの」(The Unknowable)と同一で有つて、其の結

果は現象界に於ける其の一つの状態で有る。』
The Path と云ふ雑誌の第一巻に匿名で書いた Karma の論文が出て居る。今次きに其の抜萃を載せませう。『Karma は廣く言へば、働の本性繼續と言つても差支が無い。而して働は各其の中に過去と未來とを包んで居る。働から来る缺點は、悉く働其のものに包まれて居るに違

ひ無い。然らざれば決して顯はれる事は出来ない。結果は働の本性に過ぎないので、其の原因から離れて存在する事は出来ぬ。Karmaは既に存在するものを發現するのみで有つて、働で有るから早晚活動する。夫れ故に Karma は違つた時から見ても同じ働と云ふ事が出来る。尙ほ原因と結果とは關係が有るのみならず、原因と其の結果を受ける人にも關係が有るに違無いと云ふ事は明かである。然らざれば誰が誰の働の結果を受けるか知れないことになる。吾等は時として他人の働の結果を受ける様に見える事が有るかも知れぬが、之は只外見丈である。實際に於て其の働は吾等が自分でした働である。人が死ぬるも生きるも、他人がさせるものではない。夫れ故に Karma の性質と、其個人に對する關係とを理解するには、働のあらゆる状態を考る必要がある。働は悉く心から生ずる。心以外には働はなく、従つて Karma も無い。總て働の根元は欲望である。欲望或は利己心の状態は働であつて、總ての働の胎である。此の状態は無發現のものと看做す事が出来る。併しながら矢張り所謂原因結果、即ち働と其の果とに於いて二重性の發現をする。實際は働と其の果とは結果で有つて、原因は欲望の状態に在るので有る。夫れ故に欲望は物質の状態に於ける其の第一發現に於ては、働の根元である。而して欲望は個人に對する Karma の關係に於て、働の繼續を決定するもので有る。

人間が如何なる働の Karma の結果を脱するにも、其の働が宿り得る根元を最早生せぬ状態に移つて居なければならぬ筈である。石を投げ込むと水中に起る波紋は、其の水面の極端迄擴がるけれども、夫れ以外には擴がらない。それは岸が其の波紋を限るからである。波紋が起る事の出来る根元、即ち適當の媒介が最早なくなれば、其の進行は終はるので有る。如何となれば波紋は自分の力を用ひ盡して終になくなるからである。夫れ故に Karma が現在の人我に其の實行を依頼するのは丁度前の人我に最初の働を依頼して居つたのと同様である。之を説明するに便利なる例證を擧げる事が出来る。譬へば芥子の種は芥子より他の木にはなりませぬ。併し其の芥子の木が生ずるには土と培養とが必要である。種がなければ土を何の位耕し又培養しても芥子を生ずる事は出来ません。併し種は土と培養とがなければ同じく木を生じませぬ。』

初めに言つた著者が次ぎの様に言つて居る。「輪廻説の教に基づいて居る宗教を信する人は、人の運命は一つの短い浮世の生存中に生ずる出来事に依つて定められると云ふ教と自分の教とを好んで比較します。前者の教に依れば、人が自分の罪を覺つた時、唯一の望は代償の教である。而して又長老會の信仰告白の教によれば、其の望ですらも充分の望ではない。其告白

に依れば、神の命令に依つて、神の光榮を表す爲め、或人と天使とは運命に依つて、永久の生を得る様に定つて居る。又或者は永久の死を得る様に定つて居る。此の様に前から運命で定まつて居る者は特に不變に仕組まれる。而して其の數は定まつて居つて、増減する事は出来ない……神が前者にのみ光榮を與へたから、耶蘇に依つて救はるゝ者の中に以上の外光榮を得る人は無いので有る。神は其の量り知るべからざる心に依つて、隨意に慈悲を施し或は施さずに打棄置き、吾造つた者へ吾が權能を示す爲め、他の人間の罪を罰する爲め、又吾が正義を崇めさせる爲に、彼等へ不名譽と怒を與へたので有る。』と云つて居ります。之れは即ち其の著者の云ふ所で有ります。而して實際此の問題を結ぶには、彼れの如く雄大の一詩を引用する外は無いと思ひます。彼は次ぎの如くに言つて居ります。「亞細亞の光」と云ふ詩の中エドキン、アーンハドの Karma の記述が非常に優美で有るから、此處に引用しませう。併し餘り長過ぎて、全部を出す事は出来ないが、其の一部分は次ぎの通りです。

Karma—all that total of a soul

Which is the things it did, the thoughts it had,

The "self" it wove with woof of viewless time

Crossed on the warp invisible of acts.

Before beginning and without an end,

As space eternal and as surety sure,

Is fixed a Power divine which moves to good,

Only its laws endure.

It will not be contemned of any one;

Who thwarts it loses, and who serves it gains;

The hidden good it pays with peace and bliss,

The hidden ill with pains.

It seeth everywhere and marketh all;

Do right—it recompenseth! Do one wrong—

The equal retribution must be made,

Though Dharma tarry long.

It Knows not wrath nor pardon; utter-true,

Its measures mete, its faultless balance weighs;

Times are as naught—to-morrow it will judge—

Or after many days.

*

*

*

*

*

Such is the law which moves to righteousness,
Which none at last can turn aside or stay;
The heart of it is love, the end of it
Is peace and consummation sweet. Obey.

今此の詩と靈智學で言ふ Karma、即ち「應報の法則」に就て吾等が懐く意見とを比較して御覽なさい、而して神を無情の惡魔とする殘忍愚癡な教（即ち特選せられた人のみ救はれて、他の者は永久の罰を受けると云ふ教）よりも、此の兩者の方が哲理に適つて正當で有るか無いかを判断して御覽なさい。

問 貴君の云はるゝ事は大體分りました。併し何か具體の例證を擧げて、Karma の働を説明して頂きたいのです。

答 具體の例證は擧げられません。前に言つた通り、吾等は今の生と境遇とは、前生の行や思想の直接の結果で有ると云ふ事を慥かに感じ知る事が出来る計りです。併し達觀者や得道者で無い吾等は Karma の法則の働に就て、精しい事を知る事は出来ないのです。

問 仙人や達觀者は Karma の働を精細に知る事が出来ますか。

答 無論出来ます。「悟る人」(Those who know) は人の中に潜んで居る力を使つて、之を知る事が出来ます。

「悟る人」とは如何なる人か

問 吾等も同様にそれが出来ますか。

答 出来ます。今言つた通り、總て人間の眼通力は等しく限ぎられて居ります。併し現在の生れ變りに於て、妙觀力及天眼力の頂上に達した人は例外です。若し吾等の境遇が今遭遇して居るものと違ふべき筈で有つたならば左様成つたに相違無い、即ち吾等は自ら造つた通りの者で有つて、自ら得たものより外には無いと云ふ事計りは知れます。

問 其の様な考は、人を悲觀させる計りで有ると思ひます。

答 私は決して左様でないと思ひます。因果應報の公平な法則を信じなければ、却つて人は怨みの情を起すもので有ります。子供は大人と同じく、當然の罰よりも自分が不當然と思ふ罰や非難を尙更ら怨むもので有ります。Karma を信ずると云ふ事は、此の浮世に於ける吾運命に従ふ最善の動機で有つて、又次ぎの生れ變りを善くせんとする最も強い刺激で有ります。若し吾等の

運は厳しい法則以外の結果で有るとか、又運命は吾以外の者が造るので有ると思つたならば右に言ふ動機と刺激とは破壊されて仕舞ふので有ります。

問 只今貴君は Karma の法則で支配されて居る此生れ變りの法則は理性、正義及道徳心に適つて居ると仰せでした。併し若し左様ならば、夫れは同情や慈悲の温和な性質を幾らか犠牲にし、人情精美の本能を無情のものにするものでは有りませんか。

答 夫れは只外面的で、實際には左様では有りません。人が自分の當然受く可きものより多く、或は少なく受くれば、必ず夫れ丈他人に不公平を及ぼすもので有ります。而して同情に依て逃れる事の出来る法則は、之れが爲めに減するよりも猶多くの不幸、又感謝よりも寧ろ怒や怨を招ぐもので有ります。又吾等は其法則の結果を起す原因を造るけれども、吾等は其の法則を司るのでは無く、其の法則は自から働くので有ります。又公平な同情と慈悲を顯す充分の餘地が Devachan の状態に在ると云ふ事を忘れては成りません。

問 仙人(Adepts)は吾々一般の者より智が優れて居ると貴君は仰せですが、實際彼等は生れ變りと其後の状態に就ては吾等よりも、善く知つて居りますか。

答 儘に知つて居ります。吾等には未だ完全に發達させる事の出来ない人間のあらゆる官能を修

練して、彼等は吾等が今迄論じて居た種々の状態へ精神的に這入つて居るのです。昔から仙人(Adepts)は生死及び生れ變りの秘密を研究して、覺つた事を幾分か傳へて居ります。

問 仙人(Adepts)を造る事が靈智學の目的で有りませんか。

答 靈智學では人間は靈性の状態から出て、再び之れに歸へる途に在る者と考へます。幾度も生れ變りをして、不斷努め段々進歩する人が終に仙人(Adepts)に成るのです。併し秘密科學の仙人に只一生の中に成つた者はありません。仙人に成らうと目的を定め、之れに必要な修練を始め、それからそれに達するには、多くの生れ變りを経なければ出来ないと云ふ事を忘れてはなりません。吾等靈智學會の會員中にでも、五六度前の生れ變りに於て仙人たらんとする此の困難な修練を始めたけれども、今生の幻影の爲に之れを知らぬか、又今生の間で進歩をする機會を失つて居る者が澤山有るかも知れません。此の様な人は秘密教や「上位の生」に強く引き附けられるけれども、餘り利慾的で利己の考が強く浮世の果敢ない誘惑や快樂に耽つて、之を止めないから、終に今生に於て機會を失なふので有ります。併し普通の人間に取り、又日常生活の實用に取りては其の様な遠い結果は目的とするには不適當で又動機としても効果が無いので有ります。

問 夫れでは如何なる目的が有つて、彼等は靈智學會に這入るのですか。

答 多くの人は吾等の教に興味を有つて居る、而して他の宗教の教よりも正しいと自ら思ふので、又他の人は人間の義務の最高の理想に達しようとして決心して居るのです。

信仰と智識との差、即ち盲信と合理信との差

問 其の人々は靈智學の教を信じて居ると貴君は仰せでしたが、彼等は今言はれた様な仙人 (Adepts) で無いから、貴君の教を盲信して居るに違ひありません。之は如何なる點が普通の宗教と異なるのですか。

答 夫れは殆んど總て他の點が異なる如く、此の點に於いても異なるのです。耶蘇教の教に就いて、貴君の所謂信仰、實は盲信なるものは、吾等から云ふと智識、即ち自然に於ける事實に就いて吾等が知つて居る物の論理的結果であります。貴君の教は解釋を計り基礎として居りますから、間接の證據に基いて居るのであります。併し吾等の教は達觀者の直接不變の證據に基いて居ります、例へば普通の耶蘇教神學では、人間は神が造つた者で肉體、靈魂、精神の三つから組成されて居る。此の三つは浮世の肉體的生存に於ても、又復活後精化したる生

存に於ても、人間を永久に組成するに必要で、人間は各他の人からも「神」からも永久に獨立した生存を得るもので有ると言つて居ります。然るに靈智學では、人間は不可知にして然かも無窮無限の「神的本素」(Divine Essence)から發現した者で有つて、其の肉體及他の總ての物は一時的で有る、故に幻影で有る、而して人間の無窮に續くものは其の魂(Spirit) 丈で有つて其れすらも宇宙魂(Spirit)と全く結合すれば、其の分離した個性は無くなります。

問 若し吾等が個性を失へば、只消滅して仕舞ひますか。

答 私は消滅しないと言ふのです。其の譯は私が言ふのは只個性の分離したもので有つて、宇宙的個性では有りません。此の個性は實際全體に成るのです。譬へば露は蒸發せずして海と成る。肉體の人間が胎兒から老人に成れば消滅して仕舞ひますか。若し吾等が吾等の極小の意識と個性を宇宙的無限なる意識以上のものとするは、餘り傲慢過ぎるでは有りませんか。

問 夫れでは實際人間と云ふものはなくて、總てが魂(Spirit)で有ると云ふ事に成るのですか。

答 夫れは間違つて居ります。只魂(Spirit)が物質(Matter)と結合するのは、一時丈で有ると云ふ事に成ります。尙一層明瞭に言へば魂 (Spirit) と物質 (matter) とは同一です。而して此の二つは宇宙的に發現したものの、兩極ですから魂 (Spirit) は其の發現する最小分子が如何

なる體形にでも附着する間は之に魂(Spirit)と云ふ名稱を與へる事は出来ないもので有りませぬ。出来ると思ふのは即ち盲信で有りませぬ。

問 貴君が永久の本因、即ち魂(Spirit)が物質(Matter)を只經過すると云ふのは、信仰の上からでなく、智識の上から言はるゝのですか。

答 私は左様は言ひませぬ。私の言ふのは、永久で單一の本因、即ち魂(Spirit)の現出は物質(Matter)としては一時的です。夫れ故に只幻影に過ぎないもので有ると言ふのです。

問 なるほど、夫れでは此の事は智識に依つて言ふので有つて、信仰に依つてでは有りませぬか。

答 左様です。併し貴君の言はれんとする事は、宜く分つて居ります。貴君が言はるゝ様な信仰は一種病的の心で有るが、眞の信仰(即ち希臘哲學者が言ふ Pious)は智識に基いた信仰で有ると、吾等は言ひませぬ。之は肉體的或は精神的の感覺の證據に基いて居るものです。

問 何の事を言はるゝのですか。

答 貴君の知りたい事が此の兩者の違ひで有るならば、教會の教に基いた信仰と自分の精神的直覺(Spiritual intuition)に基いた信仰とは非常に異つて居ると云ふのです。

問 其は如何異つて居るのですか。

答 一方は人間の輕信と迷信で有り、他の一方は人間の信仰と直覺で有ります。此の事に就てウイルダール博士はエルシニア秘密教(Eleusinian Mysteries)と云ふ本の序文に次ぎの如く言つて居ります。『聖物を襲すは無智から生ずるので有る。人間は己れに能く分らない事を嘲るもので有る。…此の世の暗潮は一つの目的に向つて進んで居る。而して人間の輕信の中には…殆んど無限の力、即ち總て生存の最高眞理を理解し得る神聖の力が含まつて居る。』此「輕信」と云ふことを人間の獨断にのみ限る人は其の力を量り知る事も出来ず、又之れを吾心中に認める事も出来ませぬ。其の力は今外界に密着して居つて之れを支配する本素(Essence)を活動させる事は出来ないのです。如何となれば之れをするには其の様な人々は自ら判断する権利を用ひなければならぬけれども、彼等は決して之れを爲しません。

問 貴君が神(God)を人間の形せる宇宙の父或は支配者として信じなさらぬのは此の直覺の爲めですか。

答 全く左様です。吾等は永久不可知本因の存在を信じて居ります。如何となれば宇宙と思考する人間と物質界に含まれて居る總ての不思議は宇宙萬物を巧妙に調和すべき、何か智恵ある力が無くても出来ると思ふ事を主張するのは、只愚説に過ぎないのです。自然は其の外面的物質

の發現に於て、過ちが無いとも限らない併し其の内部の原因結果には決して過ちがありません。昔しの所謂「異教徒」は此の問題に就て、近世哲學者(不可思議論者、唯物論者或は耶穌教信者)よりも遙に哲理的な意見を有つて居ました。而して如何なる「異教徒」の著者でも、殘忍と慈悲とは有限感情では無いから之を無限の神の屬性とする事が出来ると主張した者はありません。夫れ故に、彼等の神は皆有限的で有りました。「法輪」(The Wheel of the Law)と云ふ本を著した暹羅人は、貴君の云はるゝ人間の様な神に就いては吾等と同じ考を有し、次ぎの如くに言つて居ります(同書二十五頁を見よ)。

『佛教信者は、總て人間の性質と屬性を脱した崇高な神、即ち愛、憎、嫉妬を離れて如何なるものにも妨げられない靜穩の状態に靜休する神の存在を信じて居るかも知れません、而して彼は其の様な神を汚しません。夫れは其の神を悦ばせたいと云ふ望、或は其の怒を招く恐の爲めではなくて、自然の尊敬の念からするので有ります。併し彼は人間の屬性や性質を具へた神、又愛し、憎み、怒る神、又耶穌教の宣教師、回々教徒、婆羅門教徒(註58)或は猶太人が言ふ様な神でも、普通の善人の標準以下の神を信する事は出来ません。』

(註58) 此處では宗派的なマタ教徒の事を言ふので有る。Vedantin 派の言ふ Parabrahman は吾等も信じて居る神(Daity)である。

て居る神(Daity)である。

問 信仰を比較して見れば人間の頼み無き有様と謙遜の心から來る耶穌教信者の信仰(Faith)即ち、人を誘惑から救ひ、生を助け、罪を赦して呉れる慈悲深い神が天に居ると云ふ信仰は佛教信者やヴェダンチン派や靈智學者の冷淡で、傲慢で、殆んど宿命論的の信仰に優つては居ませんか。

答 吾等の教を「信仰」(Faith)と強ひて言ひ度くば言ひなされ、併し此の度々出る問題が再び出て居るから、今度は私が質問致します——「信仰」を比較して見れば、論理と理性とに基いた「信仰」は只人間の獨斷即ち盲從心に基いた信仰に優りはしませんか。吾等の「信仰」は二と二を合すれば四と成ると云ふ數理的明白の理を有つて居ります。然るに貴君の言はるゝ信仰は感情に走る婦女子の議論の様で有ります。此の種の婦女子を評してツルゲネフ氏が言ふには、二と二を合すれば五と成ると言ふものです。尙ほ貴君の信仰は正義及び論理と相容れないのみならず、分解して見れば、人間を道徳的に亡ぼし、人間の進歩を妨げ、而して權力を正義とし、人をして互に憎惡せしむるもので有ります。

神は罪を赦す権利有るか

問 何の事を仰せですか。

答 代償の教の事を言ふのです。私は貴君が信せらるゝ危険な獨斷教に就て申すのです。其教では神や人間の法則に違反する吾等の罪が何の位重くても、人間を救ふ爲め耶穌が自分の身を犠牲にしたと云ふ事を信じさへすれば、耶穌は血を以つてあらゆる穢を淨めて呉ると説いて居ます。私は二十年の間此様な教には反對を唱て居ますから、千八百七十五年に出た *Isis Unveiled* と云ふ本の一節を貴君に紹介致します。次ぎに掲ぐる處は耶穌教會で教へて居る事ですが、吾等には之に反對するのです。『神の慈悲は限りなくて測り知ることが出来ぬ、人間が何の位恐しい罪を犯すとも、其の罪人を救はんが爲め前以て拂つて置いた償で之を償ふ事が出来ぬ程悪い罪は無い。且つは又悔ゆるにおそいと云ふ事は無い。罪人が臨終の一分前に、初めて耶穌教を信すると言ひさへすれば、矢張り天國へ行けるので有る。耶穌と共に十字架に懸けられた盗人は其通りに成りましたから他の罪人も左様する事が出来ます。此の様な事は教會や牧師の假説で有つて、然かも第十九世紀(此の最も奇妙な時代)の文明の世に英國の牧師が自國民の腦髓に

押し込まふとした愚説で有る。』扱て此の教は如何なる影響を世に及ぼしますか。

問 其の教を信すれば耶穌教信者は佛教徒或は婆羅門教徒よりも幸福になりますか。

答 幸福になりません、兎に角教育の有る人は幸福になりません。如何となれば彼等の大多數は、長い前から此の殘酷なる教の信仰を全く失つて居るからです。併し今に之を信する人は如何なる人よりも容易く罪の淵へ誘はれるもので有ります。再び *Isis Unveiled* と云ふ本を引用しませう(第二卷の 542, 543 頁を見よ)、『若し吾等が教條の小範圍を脱して、宇宙を巧妙な調理の法則に依つて各部の平均を保つて居る全體として考へて見るならば、總て健全の論理も或は聊かの正義も、此の代償の理とは相容れないで有らう。若し罪人が己れに對してのみ罪を犯し、他人に仇をしないならば、又若し眞の後悔により、過去の罪を滅ぼす事が出来るならば、詳しく言へば人の記憶からのみならず、又如何なる神(最上の神)と雖も滅ぼし能はぬ不滅の記録から過去の罪を取り去る事が出来るならば、初めて此の教は合理的に成るかも知れぬ。併し人間は同胞に仇を爲し一社會の平均及物事の自然の秩序を亂して、然かも一人が血を流せば、他人の流した血は洗ひ去らるゝと云ふ事を信するならば、卑怯、希望、或は如何な動機から爲たにせよ、其の罪が赦されると云ふ事を主張するなどは、實に没理的で有る。罪其ものが赦さるとしても、

罪の結果は消滅せられませうか。原因の結果は原因の範囲に限る事は出来ぬ、又罪の結果も之を犯した人と其の犠牲に成つた人との限る事が出来ない。悪行のみならず、善行も悉く其の結果を生ずる。夫れは丁度静水に石を投ずれば、波動を起すのと同様である。此の比喻は陳腐では有るが、今迄有る内で最も適切で有るから之を探りませう。波紋は投げ込んだ物の大小に応じて大きく、又進行の度も速いのである。併し非常に小さい小石、否な細い砂でも、夫れ相應の細波を起す。而して此の波動は表面的に見ゆる許りで無く、水の下あらゆる方向、即ち上の方にも下の方にも、側や底が其の方に觸れて終に水は一滴も残らず動揺するので有る。夫れのみならず、水上の空氣も震動する。而して其の動亂は物理學者の言ふ如く永久に續いて空間に移り出る、即ち衝動を物質に與へたので有つて、其は決して消滅せず、又取り返へす事も出来ない……悪行も善行も其の通りで有る。行爲は一時で有つても其の結果は永久で有る、一たび石を池中に投じた後に其の石を手に取り返し、波動を元に戻し、使つた力を消滅して、精氣の波動を其の元の無の状態に返し、而して何時迄経つても分らぬ様に、其の石を投げた働を悉く打消して仕舞ふ事が出来るならば、其の時こそ初めて耶蘇教信者が、此の代償の効能を述べたてるのに耳を貸すしやう……』左すれば Karma の法則を信じない様に成れま

す。併し今の所では、二つの教の内何れが神の公平を重んじ、又只の人間の證據や論理に依つて何れが理に適つて居るか、吾々は世の人に其の判断を求めるので有ります。

問

併し幾百萬の人が此教を信じて幸福を得て居ります。

答

彼等は感情の爲め思考力を全く支配されて居るが、眞の博愛家或は利他主義者は決して之を信じませぬ。之は利己の夢にも及ばぬ、寧ろ人智の歴で有ります。其及ばず影響を御覽なさい、而して耶蘇教國よりも罪を容易く犯し又犯罪の數が多い所の異教國は何處に有りますか。歐洲諸國で犯した罪の恐しい長い年表を御覽なさい。而して耶蘇新教國なる亞米利加を御覽なさい。入獄中に改宗した人は牧師の説教を聞いて改宗した人よりも多數で有ります。所謂耶蘇教正義の元帳に附けてある貸借は如何に成つて居るか御覽なさい。殘酷なる人殺は色慾、復讐、欲望、狂信、或は只血を見たさの悪魔に馳られて、大概の場合では、悔い改める暇も耶蘇に祈る暇も與へられないで、其犠牲に成る者を殺すので有ります。此等の者は多分罪を逃がれないで死ぬるのである。それ故に無論神學の論理に従つて、自分の犯した罪の報を受けるので有る。併し人殺は人間の正義に捕らはれて、獄に入れられ、感情家に歎かれ、祈禱をしてもらひ、改宗の定り文句を口にし、耶蘇に救はれた子と成つて死刑場に行くので有る。若し彼が人殺をし

なかつたならば、此様に祈られもせず、救はれもせず、又赦されもしなかつたので有る。慥かに此人は人殺をした方が宜かつた。如何となれば、彼は之が爲めに永久の幸福を得たので有る。併し彼の犠牲と成つた人、其の家族、親族、頼り人或は關係者は如何で有るか、又彼等は正義に依つて償を受けないのか、又彼等に仇をした者は、天國へ往つて永久に祝福を受けて居るのに、其犠牲と成つた者は此世にも後の世にも苦を受けねばならぬので有るか。牧師は此の問題に就て用心をして口をきかない(註59)』。

〔註59〕 Isis Unveiled と云ふ本より取る。

扱て靈智學者は Karma を信じ、而して其根本的信仰と希望とは天國に於ても此世に於ても、悉くの人間は正義の報を受けると云ふ事で有ります。夫れで彼等は此獨斷的教を信じない譯が分るでせう。

問 然れば人間最終の運命は、神の支配する天國へ行くのでなく、物質が徐々に其の根本元素、即ち靈に歸する事で有りますか。

答 自然界に總ての物が向つて進行する所は、其の最終の目的で有ります。

問 貴君方の中で、此の結合、即ち靈と物質との結合を不幸と思ひ、又生れ變りを苦と思ふ者は

有りませんか。

答 左様思ふ人も有ります。夫故に彼等は此世の苦しみの期間を短縮しやうと務めます。併しそれは不幸許りではありません。如何となれば此世に居る事は智識と智慧とを作る經驗を得ることとなる。私の言ふのは精神的本性の需要は精神的幸福より外の物に依つて満たす事が出来なると云ふ事を教へる經驗を言ふので有ります。吾等は肉體内に居る間は苦痛、困難及生存中に起る總ての失望に遭遇するので有ります。夫れ故に之を免かれる爲に、吾々は一層優る未來の安心と希望とを與へる唯一の智識を終に得るので有ります。

第十二章 實用的靈智學とは如何なるものか

義務

問 幾度生れ變りましても、永久の安心を得る事が出来ないとすれば、夫れでは何故に生れ變りの必要が有りますか。

答 其の譯は、生存の經驗に依らねば最終の目的に達する事は決して出来ぬ、而して此經驗の大

部分は苦痛と艱難とで有るからです。又吾等は此苦痛艱難をしなければ、智識を得る事が出来ないで有ります。吾等の悦や樂は、一時的のもので終には飽きるものです。然のみならず吾等の高尚なる本性の要求を満たす永久の樂を此世の生存中に得る事は出来ないと言ふ事を見れば、其要求は其状態 即ち精靈性態以外に満たす事は出来ないと言ふ事が明かです。

問 此自然の結果は如何かして、此世を去りたいと言ふ希望には成りませんか。

答 其希望とは自殺の事有ると言ふのならば、私は断じて左様でないと云ひます。其様な結果は決して自然の結果でなく、病的或は甚しい唯物論的の考に基くのです。自殺は最悪の罪で、其結果は恐しいものです。併し貴君の希望と云ふのが、只靈性的存在 (Spiritual Existence) に達せんとする熱望で有つて、世を去らんと希望で無いならば、夫れは非常に自然な希望で有ると私は申します。自殺は吾等に懸る義務を抛棄し、又 Karma の責任を逃れる事有つて、之が爲め新しい Karma を作る事に成るのです。

問 併し此物質的世の中に於ける働が吾等を満足させねば、矢張り働に過ぎない義務を何故せねばなりませんか。

答 其譯は、第一に吾等の哲學では吾等の義務を先づ他人に盡して次に己に盡す目的は、吾幸福を得るのではなく、他人に幸福を與へるにあるので、正義を行ふは正義の爲にし、報酬の爲に行ふので無いと云ふ事を教へて居ます。幸福或は寧ろ満足は義務を果すによつて續き來るので、併し満足を得るの動機としてはならないのです。

問 靈智學で云ふ「義務」とは、正確には何う云ふ意になりますか。貴君は耶蘇をも亦其弟子をも御認めなさる様ですか、貴君の所謂義務は耶蘇教で教へる義務ではありませぬ。

答 左様言ふのも又間違です。貴君の所謂耶蘇教の義務なるものは、耶蘇が生れぬ久しい以前から道德や宗教の大先導者に依つて教へられて居たので有ります。偉大、博愛、英雄的の事は太古では、近世に於ける様に只口先で説教する而已で無く、一般の人が之を實行した事が有るので、佛敎の歴史には、非常に高尚で、大なる犠牲的の働が澤山有ります。互に憐を加へて心を一つにせよ、兄弟の如くに愛し、慈悲深く、禮を厚くせよ。怨に報ゆるに怨を以てせず、嘲ける者を嘲けらさずして之に恵を垂れよ。』と云ふ事は Peter より數世紀前の佛敎信者が實行した事で有ります。耶蘇の倫理は、慥かに立派ですが、又慥かに新しいものでなく、元は所謂異教で教へた義務で有ります。

問 貴君が理解なさる所では、一體義務と云ふ語に如何なる定義を下しますか。

答

義務と云ふ事は、人間、即ち同胞、隣人、家族に對して當然盡す可き事、殊に吾等よりも貧しくて、頼み少ない人々に負ふて居る事を言ふので有ります。此負債は若し此の世で消却せず置けば、吾等は來生に於て精神的に仕拂不能と成り、又道徳的に破産するので有ります。靈智學は義務の粹で有ります。

二八〇

問

耶蘇教も正當に解釋し、又實行すれば其通りです。

答 夫れは其の通りです。併し若し耶蘇教が實際に於て口先ばかりの宗教でないならば、靈智學を耶蘇教信者に説く必要は無いのです。併し不幸にして耶蘇教は口先の倫理に過ぎないので有ります。人に對して義務を盡し、又義務其のものゝ爲めに義務を盡す者は少數です。況して其義務を盡し、吾良心丈を満足させる者は、尙更少數です。世界に有名な博愛家の心中に第一浮ぶものは「徳義を敬重し之を賞へる世の中の聲」です。近世の倫理は、之を讀み、之を論ずるのを聞けば立派で有ります。併し如何なる言葉でも、之を實行しなければ何の役に立ちませうか。最後に吾等は靈智學に教ふる義務を實際に、又 Karma の點から如何に、解して居るかと問はれたならば、吾等は次ぎの如くに答へます。即ち吾等の義務は吾生の益に如何なるものが這入て居ても、不平を言はずに之を飲み乾し、命の薔薇を手折は人に其薔を與へる爲めにし、又若し吾等が其薔を得れば、人は之を得る事が出来ない時に自は残つた薔計りで満足すると云ふ事で有ります。

問

之は皆漠然として居ります。貴君は耶蘇教信者以上に何んな事をなさるのですか、

答 夫れは吾等靈智學會員がする事を云ふのではなく、(吾等の中には全力を盡すものもあれど)靈智學が及ぼす善の影響は、近世耶蘇教よりも、何の位優つて居るか云ふ問題で有ります。私の言ふのは實行で有つて、只だ志や口先計ではありません。最も凡俗で、利己的で、殘酷な者も又或は最悪の人で有つても自ら耶蘇教信者と稱へることもするし、又他人も左様思ひもする。併し靈智學者はカーライルの所謂「人間の盡す可き事は實行で有つて、何の位高尚でも思想計では無い。」と云ふ眞理が正確に染み込んで居つて、日常の生活を之に基き行なはねば靈智學者と云ふ名を附ける事は出来ません。眞理を唱へてもそれは未だ實行にはなつて居ません。而して其眞理が立派に聞こゆれば聞こゆる程、又道徳や義務を實行せずして之を口にする事が喧しければ喧しい程尙更ら中味が無いので有ります。教義や眞理を氣取る口癖は總ての罪惡中、最も憎む可きもので有つて、之は現世紀に於ける新教の最大國なる英吉利の最も著しい特徴で有ります。

二八一

問 一般人間の當然盡すべき事は如何なるもので有ると思ひますか。

答 人種、血色などに差別を附けないで、人は皆同等の権利と特権とを有つて居ると云ふ事を充分に認める事で有ります。

問 何の様な場合に、人は此権利特権を犯すとお考ですか。

答 一個人にせよ、一國民にせよ、他の者の権利を少しでも侵害した場合、又己の爲めに希望すると同じ正義、親切、考慮、慈悲を他人に施さない場合で有ります。今の政策は、總て其様な権利を無視し、自國の利己を飽く迄も主張して、之を行つて居るので有ります。佛蘭西の諺に「僕は主人に倣ふ」と言ひますが「人民は國是に倣ふ」の一言を加へて然るべきです。

問 貴君方は政治に關係なさりますか。

答 會として吾等は政治に關係する事を注意して避けます。其の譯は次ぎの通りです。即ち人間の性質を改革しない内に、政治の改革を遂げやうとするのは無益な事です。總て他人に對する吾誠の義務は、如何なるもので有るか云ふ事を人の心の底に感せしめ、且つ之を認めしむるならば、昔から有るあらゆる權力の濫用、又利己主義を基とする國民政策の不公平なる法律は、悉く自然に消滅して仕舞ふので有ります。花壇の惡草を去るに、根より抜き取らず只だ其

葉を刈り取る園丁こそ恐なる者です。政治の改革は同じ利己主義の政治家が何時迄も居ては決して遂げ得らる可きものではありません。

政治的の改革と靈智學會との關係

問 それでは靈智學會は政治的團體では有りませんか。

答 無論左様では有りません。靈智學會は最も廣い意味に於ける世界的のもので有ります、即ち其の會員はあらゆる人種、信仰、思想の男女から成り立つて居て、人道改良と云ふ一つの目的に向つて協力するもので有ります。併し會としては國民的、或は黨派的政治に決して關係しません。

問 夫れは何う云ふ譯ですか。

答 其の譯は既に私が述べました。又政治的運動は時勢と人民の性癖に従つて必ず變るものです。靈智學者は靈智學者たる事の本性よりして、其の會の主義に一致して居るもので有ります。若し左様でなければ、初めから其の會に入らないのです。それで有るからとて會員は、悉く他の問題に就て一致するとは限りません。會としては會員全體に共通する事柄、即ち靈智學其の

ものに於てのみ協力する事が出来るので、個人としては其主義に反せず、又其會を害せざる限りは、各自随意の政治的思想を抱き、又運動を爲す事は全く自由で有ります。

問 併し、まさか靈智學會は現今頻りに起つて居る社會問題に全く構はずに居るのでは無いでせう。

答 靈智學會の主義が其會 否寧ろ其會員の多數は神はずに居ないと云ふ事を證據立て、居ります。若し人間が先づ第一に、最も健全なる且つ科學的なる生理の法則を實行し、心意的及精神的に發達する事が出来るならば、此法則を一般に實行せしむるに全力を盡す可き事は、此の發達の爲に努力する總ての人々の義務で有ります。殊に西洋諸國に於て、人民の大多數は社會的境遇の爲に其の身心の發達を適當に計る事が出来ず、夫れ故其の發達は妨げられて居ると云ふ事を靈智學者は充分に知り貫いて居るので有ります。此の訓練と發達は靈智學の主要の目的の一つですから、會は之が爲めに盡して居る誠意の努力者には全く同情一致して居ります。

問 併し誠意の努力とは如何なる事を言ふのですか。社會改良者は皆夫々萬能藥が有つて、人間を發達せしめ救ひ得るものは吾藥より他には無いと思つて居ります。

答 全く左様です、満足な社會的事業が遂げられないと云ふ眞の理由は、之が爲めで有ります。

所謂此萬能藥の多くは實際に指導する原則がありません。而して慥かに凡てを結合する定つた原則も無いのです。貴重な時と精力は、斯様にして浪費されます。如何となれば人間は己が中心懐くと告白する大主義の爲めよりは、寧ろ名譽と報酬の爲めに互に競争をして、協力しないからです。

問 夫れでは社會的 協力を増進せしめ、又社會改良を實行せしむる様に靈智學の主義を適用するには、如何したら宜しいのですか。

答 今其の主義を簡単に述べませう、即ち宇宙的唯一(Universal Unity)と原動(Causation)、人間一致(Human Solidarity)、Karma の法則及生れ變りの教で有ります。之等のものは、人間を一族、即ち世界的同胞に結合するもので有ります。

問 如何してですか。

答 現今の社會状態に於て、殊に所謂文明の諸國に於ては、多數の人間は不幸、貧苦、病氣の爲めに苦んで居ると云ふ事實を絶えず吾等は見居るので有ります。彼等の健康は衰へ、又彼等の心意と精神官能は殆んど痲痺して居る事が有ります。然るに社會の上流に立つ人は、多く安樂の生活を送り、美衣美食して肉慾に耽つて居ります。此貧富に差別ある生存は何れも只偶

然の事ではありません。兩方共其生存をする人々の周囲の境遇が然らしむるので、富者の方で社會的義務を怠ると云ふことが、直接の影響を貧者に及ぼし、其の發達を妨害するので有ります。

社會學に於ても、總て眞の科學に於ける如く、宇宙原動の法則は適用せられます。併し此原則には必然彼の靈智學が主張する人間の一致と云ふ事が含まれるのです。一人の行が總て他人の生活に影響するならば（之は眞の科學的考で有る）、總ての男子は兄弟となり總ての女子が姉妹と成り、而して日常の生活に眞の兄弟姉妹たる可き義務を實行して、初めて向上の根元たる眞の人間一致と云ふ事が遂げられるのです。此の相互の行、即ち兄弟姉妹たる可き義務に於て、人は各總ての人の爲めに生き、又總ての人は各の爲めに生きるのので有ります。此の事は各靈智學者たる者が他人に只教へるのみならず、又各自の日常生活に於て實行す可き靈智學の根本的法則の一つで有ります。

問 總て此等は一般の元則としては立派で有るが、之を如何にして實際に適用しますか。

答 貴君の所謂人間社會の實際の事實を御覽なさい。下等社會のみならず中流及上流社會の生活が、若し正義と、親切と愛とに最も重きを置き、現今跋扈する利己、無情、殘酷と云ふもの

が無かつたならば、如何で有るか云ふ事を考へて御覽なさい。人間社會に於ける總ての善惡は人間の性質に起原するもので有ります。而して此人間の性質は原因結果の無極の連鎖に依つて支配されて居ります。而し此支配は現在及過去のみならず、未來にも適用されるのです。利己、無情、殘酷は人類自然の状態ではありません。之を自然と思ふのは人間に就ては絶望するもので有つて之は靈智學者の爲し能はざる處です。進歩は高尚なる性質を發達させて、初めて得られるもので有ります。今ま有機物の境遇を變化すれば能く之を變化し發達せしむる事が出来ること云ふ事は眞の進化の教へる處です。而して其正確の意味から言へば、人間も亦た其通りになるのです。夫故に靈智學者は皆全力を盡して、貧人の境遇を改良する目的を有する總ての賢明にして思慮深き社會的努力を補助す可きもので有ります。其の様な努力は彼等貧民をして終に其自由を得せしめ、又社會の義務を怠る人々に義務の觀念を起させる様にしなければならぬので有ります。

問 夫れは左様ですが、社會を改良する努力の善惡は誰が判断致しますか。

答 一個人や又一つの會としても、此の點に就いて定つた規則を作る事は出来ません。夫れ故に個人の判断に任せて置く可き必要が大に有ります。併し乍ら之を試験するに一般の方法が有り

ます、即ち其の爲さんとする努力は靈智學の目的たる眞の同胞主義を増進せしむるや否やと云ふ事の有ります。眞の靈智學者は誰でも其様な試験法を容易く應用する事が出来るのです。一旦此の事を確むれば其次の彼の義務は輿論を喚起す事有ります。而して此事は、總て精神的及物質的發達の根源なる公私の義務の一層高尚な觀念を人に教へて、初めて遂げ得可もので有ります。如何なる場合に於ても、靈智學者は自分で精神的働の中心と成らねばなりません。而て自分の日常生活より同胞を改良する高尚な精神的感化力が出ねばなりません。

問 併し何故に靈智學者は之を爲ねばならぬのですか。彼も總ての人も、貴君が教へらるゝ通り、自分の Karma に依つて支配されて居るでは有りませんか。而して Karma は或る方面に於て其結果を現はさねばならぬでは有りませんか。

答 私が今迄言つた事を一層強めるものは Karma の法則で有ります。個人は其の種族から分離する事が出来ないし又、種族も個人から分離する事は出来ません。總ての人は一様に發達はせぬけれども、Karma の法則は總ての人に一樣に適用せられます。靈智學者は他人の發達を助けるに當り、他人が其の Karma に従ふことを助るのみならず、正確に言へば己も又己の Karma に従つて居ると云ふ事を信じて居ます。靈智學者は己と他の人々とが一部分となつて居る人間

一般の發達を常に忘れないので有ります。而して自から彼の最高の理想に従はなければ、己のみならず他人の進歩をも妨げるもので有ると云ふ事を知つて居ります。靈智學者は吾行に依つて、人間が次ぎの高等な生存の状態に達することを六かしく又容易くする事が出来るので有ります。

問 此事は貴君が言はれた第四の原則、即ち生れ變りに何の様な關係が有りますか。

答 其の關係は最も密接で、若し吾等の現生が前生に残つた原子が生じた某本因の發顯に依るものならば、其の法則は未來にも其通りになります。宇宙原動は現在のみならず過去、現在、未來で有ると云ふ觀念が得らるれば、此世に於ける働は自づから容易く夫々の顯るべき所に顯れ、吾等及他人に對する關係が明瞭に成るので有ります。賤しい利己的の行をする度毎に、吾等は進歩はせずして退歩するので有るが、高尚な思想、利己心の無い行は、一層高尚で光榮有る生存の状態に達する階段で有ります。若し生存が一時的で未來に無いものとすれば、それこそ多くの點から見て實に憐な賤いものです。併し次ぎの一層高尚な生存の状態に這入る準備として見れば、今の生涯は次ぎの金殿に（利己的で己計りで無く、同胞と共に）這入る門として用ゐる事が出来るので有ります。

ます、即ち其の爲さんとする努力は靈智學の目的たる眞の同胞主義を増進せしむるや否やと云ふ事でありませぬ。眞の靈智學者は誰でも其様な試験法を容易く應用する事が出来るのです。一旦此の事を確むれば其次の彼の義務は輿論を喚起す事でありませぬ。而して此事は、總て精神的及物質的發達の根源なる公私の義務の一層高尚な觀念を人に教へて、初めて遂げ得可もので有りませぬ。如何なる場合に於ても、靈智學者は自分で精神的働の中心と成らねばなりません。而して自分の日常生活より同胞を改良する高尚な精神的感化力が出ねばなりません。

問 併し何故に靈智學者は之を爲ねばならぬのですか。彼も總ての人も、貴君が教へらるゝ通り、自分の Karma に依つて支配されて居るでは有りませぬか。而して Karma は或る方面に於て其結果を現はさねばならぬでは有りませぬか。

答 私が今迄言つた事を一層強めるものは Karma の法則で有りませぬ。個人は其の種族から分離する事が出来ないし又、種族も個人から分離する事は出来ませぬ。總ての人は一様に發達はせぬけれども、Karma の法則は總ての人に一樣に適用せられます。靈智學者は他人の發達を助けるに當り、他人が其の Karma に従ふことを助るのみならず、正確に言へば己も又己の Karma に従つて居ると云ふ事を信じて居ます。靈智學者は己と他の人々とが一部分となつて居る人間

一般の發達を常に忘れないので有りませぬ。而して自から彼の最高の理想に従はなければ、己のみならず他人の進歩をも妨げるもので有ると云ふ事を知つて居ります。靈智學者は吾行に依つて、人間が次ぎの高等な生存の状態に達することを六かしく又容易くする事が出来るので有りませぬ。

問 此事は貴君が言はれた第四の原則、即ち生れ變りに何の様な關係が有りませぬか。

答 其の關係は最も密接で、若し吾等の現生が前生に残つた原子が生じた某本因の發顯に依るものならば、其の法則は未來にも其通りになります。宇宙原動は現在のみならず過去、現在、未來で有ると云ふ觀念が得らるれば、此世に於ける働は自づから容易く夫々の顯るべき所に顯れ、吾等及他人に對する關係が明瞭に成るので有りませぬ。賤しい利己的の行をする度毎に、吾等は進歩はせずして退歩するので有るが、高尚な思想、利己心の無い行は、一層高尚で光榮有る生存の状態に達する階段で有りませぬ。若し生存が一時的で未來に無いものとすれば、それこそ多くの點から見て實に憐な賤いものです。併し次ぎの一層高尚な生存の状態に這入る準備として見れば、今の生涯は次ぎの金殿に（利己的で己計りで無く、同胞と共に）這入る門として用ゐる事が出来るので有りませぬ。

犠牲に就て

問 總ての人に對する公平な正義と總ての動物に對する愛とは靈智學の最高標準で有りますか。

答 左様では有りません。夫れよりも遙かに高尚な標準が有ります。

問 夫れは何ですか。

答 夫れは己よりも、他人に多く施す事、即ち犠牲で有ります。歴史に於ける釋迦佛及聖書に言へる耶蘇の如き人間の大先導者に著しく顯はれて居た標準は其の犠牲と云ふ事で有ります。此特性計りでも、彼等より後に生れた世々の人間をして無窮の尊敬と感謝とを起さしむるに足るので有ります。併し犠牲も分別をして行ふ事が必要であります。而して其の様な犠牲は若し正義を缺き其結果を顧みず、無闇に行へば其効果が無いのみならず、却つて有害に成る事が往々有ります。靈智學の根本的規則の一つは、一個人としていはなく、集合的人間の一人として、己に對し正義を行ふ事で有ります。併し一個人を犠牲にして多くの人に利益を與へる事が出来るに非ざれば己に對しては他人に對するよりも多からず少からざる正義を行ふので有ります。問 例を擧げて貴君の言はるゝ事を一層明瞭に説明する事が出来ませんか。

答 之を例證する實例は歴史に澤山有ります、多人或は數人の眞實の利益の爲め、己を犠牲にする事は靈智學では譬へば「異教徒が地獄へ行くのを救ふ」が如き宗派の教の爲めに自分を犠牲にするよりも遙に高尚なものとして居ります。吾等の考では、彼の布哇の Molokai に於ける癩病 患者の苦痛を慰め、其の利益を計るが爲めに三十歳の時、吾一生を犠牲に捧げ、其の患者と共に十八年間も衣食し、終に其の厭ふ可き病を得て死んだ僧 Damien は死して尙ほ餘榮が有ると思ふので有ります。彼は幾千の憐れな人々に安心と比較的幸福を與へました。彼は其の人々に精神と肉體との慰安を與へたのです。彼は人間の苦難中比類なき暗黒絶望の生活に一條の光明を與へたので有ります。彼こそ眞の靈智學者と云ふ可き人で、彼の事蹟は長へに吾等の歴史に記憶せられましよう。吾等の目から見ると此の憐れな白耳義の僧侶は譬へば南洋諸島或は支那に在て一生を犠牲にし、眞誠ながらも虚榮に驅らるゝ宣教師等よりも遙に高尚で有ります。抑も彼等は何んな善い事をしましたか、彼等は一方では未だ眞理を悟り得ない野蠻人を教へん爲南洋諸島に行き又他方では、孔子や他の聖人の教へ通りに行ひさへすれば、少しも劣らぬ立派な宗教哲學を有つて居る國民を傳道せん爲支那へ行つたので有ります。彼等は獰猛な野蠻人や又俗間の狂信や憎惡の爲めに倒れたので有ります。然るに若し彼等が倫敦の貧民窟或は文明

國の野蠻人が居る所、即ち耶蘇教の野蠻人や道德の廢れた人が居る所へ行つたならば、眞の利益を與へ、一層價値の有る事業が出来たので有りませう。

問 併し耶蘇教信者は左様思ひませんか。

答 無論左様思ひません。如何となれば彼等は無責任な野蠻人に洗禮を施して、其の靈魂を救ふ事が出来ると思ふからで有りませう。一方の教會は其の殉教者を忘れ、又他方の教會は自分の體に發生した寄生蟲計りの爲に四十年間も自分の體を犠牲にした所の「Ladies」の様な人を神に祭つて其像を立てるので有ります。吾等は若し出来るならば眞の實際的聖人なる僧「Damen」の爲めに像を立て、靈智學の英雄及釋迦や耶蘇の様な慈悲及犠牲の生きた例として彼を永久に祭るので有ります。

問 夫れでは犠牲は義務と思ふのですか。

答 左様思ひます。而して自分を進歩させるのには利他主義が必要で有ると云ふ事を示して之を説明するので有ります。併し分別をする必要が有ります。他人を助けて自分の身を犠牲にして多くの人に一層利益を與へる事が出来なければ、他人に食物を與へる爲めに自分で餓死する必要は無いのです。併し乍ら、若し他人が自分で働く事が出来なければ、自分の安樂を犠牲にし、

他人の爲めに働く事は自分の義務で有ります。自分獨り有つて居て他の人に利益とならぬものならば之を他人に與へるのは義務で有ります。靈智學では犠牲を教へて居るけれども無益の犠牲は教へません、又狂信に反對します。

問 併し如何して吾等は其の様な高尚な状態に達する事が出来ますか。

答 吾等の教を正しく應用し、又吾等の高尚な理性、精神的直覺及道義の感情を以て、又吾等の所謂良心の聲が指導する所に従つて、之に達するので有ります。其の良心の聲とは、吾等の眞我の聲で有つて、彼の「神のな」 Jehovah の地震や雷よりも吾等の心中には大きく響くので有ります。

問 若し其の様なもの、一般の人間に對する吾等の義務であるとするれば、吾等の直接周囲の者に對する義務は、如何なるもので有りますか。

答 夫れは丁度同じもので有つて、家族の關係に就て、特別な責任から生ずる義務を加へたもので有ります。

問 夫れでは、誰でも靈智學會へ這入れれば、自分の妻子及家族に對する義務から、段々遠ざかり始めると云ふ事は、眞實では有りませんか。

答 夫れは例の無根の讒誣で有ります。靈智學の義務は第一は總ての人、殊に特別の責任を當然盡す可き人に對して、自分の義務を盡す可き事で有ります。如何となれば、其の義務は、例へば結婚の關係に依つて自分で引き受けた義務や或は兩親又は近親に對する義務の如く、運命に依つて關係したもので有ります。

問 而して靈智學者の自分に對する義務は何う云ふものですか。

答 上位の自我に依つて下位の自我を制御して之に打ち勝ち、精神的及道德的に己を淨め、吾良心の聲の外は何人も又何物も恐す、又物事を決て等閑にせぬ事で有ります。委しく申せば爲す可きことと思はれ、堂々と之をなし、若し悪いと思はれ、少しも之に手を觸れない事で有ります。靈智學者の義務は Epictetus の名言を考へて、自分の重荷を軽くすること有ります。其言とは次の如くです、「愚かな世間が汝を非難するからとて、汝の義務の道を踏み迷ふ勿れ。如何となれば世間の非難は汝の支配し能ざるものなり、夫れ故に少しも之を意とする勿れ。」

問 併し若し靈智學會員が「慈善は近親より始まる」と云ふ理由で、或は忙しさが爲め又は貧しさが爲めに、他人を利用する事が出来ないと訴るならば、其様な場合には如何しますか。

答 如何なる理由の許にも、他人の爲に何事も盡す事が出来ないと、何人も云ふ事は出来ませ

ん。「適所に適當の義務を行へば、人間は世間一般を利用する事が出来る」と或る英國の學者が言つて居ります。渴する旅人に適當の時に與へた一杯の水は、不適當の時に金の有る人に與へた數度の馳走よりも一層貴いもので有ります。此の如き性質無き人は、決して眞の靈智學者には成れぬけれども、矢張り會員と成つて居る事は出来ます。望まぬ人を無理に實際の靈智學者とする方法は無いのです。

問 夫れでは何故に其の様な人は靈智學會に這入るのですか。

答 夫れは這入る人が一番宜く知つて居るのです。如何となれば、又此の場合でも、譬へ全社會の聲が其人に反對して居ても、人を勝手に判斷する權利は吾等に無いので有ります。其の理由を述べませう。現今では世間の聲は最早神の聲ではなくて偏見、利己、又往々不人望の聲で有ります。吾等の義務は、未來の爲めに善い種を廣く蒔いて、蒔く理由を問はず、又何故に吾等は其の勞を取る必要が有るかを問はない事で有ります。如何となれば、未來に其の收穫を取る人々は吾等では無いからです。

慈善に就て

問 貴君方靈智學者は、耶蘇教で言ふ慈善の義務を何ふ思召しますか。

答 何んな慈善の事を仰せですか、心の慈善か、將又實用的慈善の事ですか。

問 私は實用的慈善の事を言ふのです。貴君の世界同胞の觀念には、無論心の慈善も含んで居るでせうから。

答 夫れでは山上の訓で、耶蘇が與へた教を實際に實行する事を言ふのですか。
問 左様です。

答 夫れでは、何故に其の教を「耶蘇教の」と言ひますか。耶蘇が其の教を唱へて自分で實行したけれども、現今の耶蘇教信者は決して之を實行しません。

問 夫れでも慈善を施して一生を過す者は澤山有ります。

答 左様、併し夫れは金満家が餘裕の中から施すので有ります。併し乍ら、如何なる博愛的の耶蘇教信者でも、憐な盗人が着物を盗めば外套も與へ、右の頬を打つ人に左の頬を向け、決して腹を立てない者が有りますか。

問 併し此耶蘇の教は、文字通りに解釋してはならぬと云ふ事を忘れてはいけません。今日の時勢は耶蘇の時代とは違つて居るのみならず、耶蘇は比喩を以て教へたので有ります。

答 夫れでは、耶蘇教會は地獄の火などの教も比喩的に解す可きもので有ると云ふ事を何故に教へませんか。耶蘇教の最も名高い牧師は、耶蘇の教へた比喩を貴君の解釋する通りに解釋して居り乍ら、地獄の火や「石綿の様な靈魂」の物質的苦惱を何故に文字通りに解釋するのですか。若し前者が比喩ならば、後者も比喩で有ります。若し地獄の火が文字通りに實際で有るならば耶蘇の山上の訓も文字通りに實行しなければなりません。而して「Robots」伯や、或る靈智學者の様に耶蘇は神で有ると云ふ事を信じない人々でも、此高尚な一般の教を文字通りに實行して居る人が多く有るのです。而して若し其様な行をしても、必ず瘋癲病院へ入れられる恐は無いと知らば此教を實行する善男善女が一層多く成るでせう。貴君の法則は非常に耶蘇教的で立派です。

問 併し幾千萬圓の金が年々公私の慈善事業に費される事は誰でも知つて居るでせう。

答 無論知つて居ります。而して其の金が貧民の手に這入らない中に、其の半分は之を取扱ふ人に取られ、又其残りの大部分は實際に困つて居る人には何の利益もしないで、惰けて働かない乞食を職業とする人の手に這入るので有ります。倫敦の貧民窟に慈善を大に施した第一の結果は、其の貧民窟の家賃を二割も引き上げたといふ事を聞きませんか。

問 夫れでは貴君方は如何せんと思召すのですか。

答 集会的でなく、個人的に慈善を施すのです。而して北方佛教の教に従ふのです。其教は次ぎの如くです。

『他人の手を借りて餓えた者の口に食物を入れる勿れ。人に物を施すには、汝自ら直接にして第三者の手を借る勿れ。人の泪は乾く間を待たず、直ちに拭ひ去る可し。戸口に立つ貧人に錢を與へ、又僧に食物を與へるには、決して僕の手を借る勿れ。如何となれば汝の與へる錢に對する感謝は減じ、又汝の與へる食物は美味を失ふ可し。』

問 併し如何して之を實際に應用する事が出来ますか。

答 靈智學で言ふ慈善は、他人に對する吾身自の努力、吾身自の慈悲と親切、苦んで居る人の一身上に關する吾身自の世話、吾身自の同情、先慮及其人々の困難又は必要に對する助力を言ふので有ります。靈智學者は金錢を施すに、他人或は會の手を借るのは宜く無いと思ひます。吾等は困つて居る人々に、吾身親しく接して同情を寄れば、其の與へた金に幾千倍の効力を増す事が出来ると思ふので有ります。吾等は、胃の空虚を満のみならず、又靈魂の飢餓をも救ふ事を宜いと思ふので有ります。如何となれば感謝は之を表せらるゝ人よりも、之を表する人が利益を得るのです。幾百萬圓の金を與へた爲め人が表する感謝、又は之に對する好意は何處に有りますか。其感謝は貧民窟の人々の金持に對する憎悪や無政府黨の増長に表れて居るのですか。又は彼の過勞に堪へず町で人の袖を引いて迄も糊口の途を求めん爲め、日々出なければならぬ幾千の不幸なる女工が、其感謝を表して居るのですか。彼の糊口の道なき老男女は、養育院を有難いと思つて居りますか。又彼の貧民は不健康なる家に住んで病毒の染込んだ子供を育て、飽く事を知らぬ家主の懐を肥やす計りで有るのを感謝して居りますか。善良で慈善家に成らうとする人々が寄附した幾百萬圓の金が、救ふ可き貧民に祝福を與へないで、却つて怨の種と成るので有ります。吾等は之を國民的 Karma を造ると稱へ、其結果は何時か恐る可きものに成ると思ひます。

庶人に對する靈智學

問 靈智學を應用すれば、近世の生活の現實的逆境に存する此等の害悪を救ふ事が出来ると思ひますか。

答 吾等にもつと金が有つて、多數の靈智學者が只糊口の爲めに働く必要がなかつたらば、急度

出来ると思ひます。

問 如何して出来ますか、貴君の教は隠微で六ヶしいから、教育有る人でも理解し兼ねるに、無教育の庶人に分ると思ひますか。

答 貴方は一つの事をお忘れです。即ち靈智學を理解するに六ヶしく成るのは、例の自惚の近世教育を受けるからで有ります。貴君方の脳髓には細かい六ヶしい思想が一杯這入て居るから眞理を理解する自然の直覺が働かないので有ります。Karma や輪廻説の廣い眞理を人に理解させるには形而上學や教育は必要でありませぬ。例へば貧乏で、無教育の或る佛教徒や印度教徒が幾百萬人も Karma や輪廻説を能く理解して居るのを御覽なさい。彼等の脳髓は不自然な教を無理に注ぎ込んで曲つて居ないからで有ります。彼等は他人が吾の爲めに犠牲にされたお蔭で吾罪は赦されると云ふ事を教へられ、それが爲め人間天賦の正義の觀念を曲られて居ないのです。而して佛教徒は Karma、即ち公平の罰と思ふものに對して、不平を言はずに自分の信じて居る事を實行します。然るに耶蘇教國の人々は、其の道德的理想を實行せず、又其の境遇に満足もしないので有ります。夫れ故に、西洋諸國に於ては、不平、不満足及生存競争が烈しいのです。

問 併し貴君が其の様に譽める此の満足心は、奮發心や進歩を止めて仕舞ひます。

答 吾々は靈智學から言ふと貴君が誇る進歩や文明は毒氣の満ちたる沼地の上に掛かる鬼火の様なものに過ぎないので有ります。其の譯は利己心や、罪惡や、不道德、又不幸な人間を苦しめ、あらゆる醜惡は貴君の所謂進歩の時代に生づるので有つて、例の物質的文明の進歩に従ふもので有ります。進歩が此の様な結果を生づるならば、寧ろ佛教國の進歩しない状態の方が勝つて居ります。其の進歩しないのは只幾百年間も、政治的壓制の結果に過ぎないので有ります。

問 夫れでは、貴君が主張して居る此の形而上學や神秘學は、役に立ちませんか。

答 實用的指導及補助のみを要する庶人には、左程必要でありませぬ。併し乍ら、教育の有る人、即ち庶人の指導者には非常に必要です。如何となれば、其の指導者の思想及行爲は早晚其の庶人が眞似るからで有ります。智識や教育の有る人が、哲學を學んで始めて盲信に依頼せず自信を得る事が出来るので有ります。秘密教でなくとも、東洋哲學は合理的で有ると云ふ事を宜く覺つて、始めて、其の教の眞理を理解する事が出来るので有ります。確信すれば熱心が生じ、而して Bulwer Lytton の言ふ如く「熱心は眞誠の精神で有る。眞理が有つても熱心がなければ勝利を得る事が出来ない」。又 Emerson の金言の如く「世界の歴史に於ける、あらゆる偉大なる

運動は皆な熱心の勝利で有る。而して又吾等の東洋哲學の如く合理、包括的で偉大なる哲學の外に、其の熱心を引き起す可きものが何所に有りませうか。

問 併し靈智學の敵は多く有つて、日々反對者は増加しつゝあります。

答 夫れは、即ち靈智學の眞の長所及價値を證明するので有ります。人は自分の恐るゝものを嫌ひ、而して平凡で危険のないものは、之を打ち破らうとする者が無いのです。

問 貴君は何時か此の熱心を庶人に起させる事が出来ると思ひますか。

答 出来ないと云ふ譯は有りません。歴史に依ると、庶人が熱心に佛教を信じて、而して前に述べた通り佛教が彼等に及ぼした實際的効果は、其の教徒間に犯罪の割合が他の宗教徒よりも比較的少ないと云ふ事に依つて、今に證明されて居ります。最も必要な事は總て罪惡、不道德の大根源、即ち人間は自分の行の結果を逃れる事が出来ると云ふ信仰を、根絶する事で有ります。最大の法則、即ち Karma と生れ變りとの法則を一旦教へれば、彼等は人間性質の眞の威嚴を自分に感じて、罪惡は恰も物質的の危険の如くに之を避るので有ります。

如何にせば會員は會を助け得るか

問 如何にしたら靈智學會が會の事業を助ける事が出来ると思ひますか。

答 第一に他人、殊に若い人を教へる事が出来る様に靈智學の教を研究して之を理解し、第二に他人に話をするあらゆる機會を利用して、靈智學は如何なるもので有るかを、人に説明し又靈智學に對する、世人の誤解を晴らし、趣味を弘め、第三に財政の許す限りは、靈智學に關する書物を買ひ、之を人に貸し、或は與へ、友人にも同様の事を勧め、靈智學文學の普及を計り、第四に最も肝要な事は、自ら實踐躬行して其の事業を補助する事で有ります。

問 併し私の思ふ所では、貴君が其の様に普及が大事で有ると云ふ此の文學は、人間の利益を計るのに餘り實用に成らない様に思ひます。之は實用的の慈善では有りません。

答 吾々の意見は違ひます。吾等は人の思想を涵養し、精神を堅固にし、又漠然と感じて居ても、實際的に解する事が出来ない眞理を、人に悟らせる事が出来る様な書物は、實際の利益に成ると思ふので有ります。貴君の所謂實用的慈善の行に就て、吾同胞の物質的利益を計る爲めには、吾等は出來得る限りの事をするので有ります。併し、已に述べた通り、吾等の多くは貧乏で有つて、靈智學會も人を儲ふ金さへ無いので有ります。吾々が會の爲めに働くのは、皆無報酬のみならず又多くの場合には金も出すので有ります。普通に所謂慈善事業をする餘裕有

る少数の人々は、佛敎の敎を守り、人を代りに立てず、又慈善事業の資金を公けに寄附する代りに其の事業を自分でするので有ります。靈智學者が何よりも、先にしなければならぬ事は己を忘れる事で有ります。

靈智學者の爲す可からざる事

問 貴君の會では會員に對する何か禁制が有りますか。

答 澤山有りますけれども、残念乍ら之を勵行する事が出来ません。其禁制は我が會の理想を表はして居るけれども、夫れを實際に適用する事は、靈智學會員の分別に任すより外に仕方が無いので有ります。遺憾乍ら、現今の人心は其の様な禁制を、言はゞ廢らして置かなければ、何人も靈智學會に這入る者が無い様な有様で有ります。夫れ故に眞の靈智學、及び之を傳布するのに(動機は善で有るけれども)不完全なる機關、即ち靈智學會との區別が大いに必要で有ると私は思ひます。

問 靈智學の大海に有る、此の危険な暗礁は、如何なるものですか、説明して下さい。

答 之を暗礁に譬へるのは、穿つて居ります。他の點では誠實の靈智學會員が、自分の船を此等

の暗礁に乗り上げて碎いた者は一人のみではありません。併し或る物は、いと容易く避けられると思ひます。例へば靈智學の積極的義務を裏面に含んで居る消極的法則、即ち「靈智學者は、會員、非會員を問はず、他人に關して惡評又は醜聞を耳にする時は、之を黙過す可からず」と云ふ事でありませぬ。

問 併し其の耳にした事が事實で有るか、又事實で有つても、之を知らない場合には、如何しますか。

答 其の様な場合には、其の事實を確かめて双方の言ふ事を公平に聞き分けて後ちに其評判の眞否を判断しなければ、ならないので有ります。其の評判は間違つて居ないと云ふ、健全な證據を得なければ、人を罪してはなりません。

問 もし事實の場合には如何す可きものですか。

答 慈悲、寛容、慈善及忍耐を以て、罪を犯す吾等の同胞を常に赦し、罪人の處罰を成るべく軽くしなければならぬのです。靈智學者は人間には弱點が多いもので有ると云ふ事を忘れてはならないのです。

問 其の様な場合に、靈智學者は全然罪を赦す可きものですか。

答 如何なる場合にも、特に犯罪の犠牲になる人は之を赦さなければなりません。

問 併し若し罪を赦せば、他人を害し、又他人が害せらるゝ恐れが有る場合には、如何しなればなりませんか。

答 自分の義務、即ち自分の良心及高尚の性質が命ずる處に従はなければなりません。併し夫れも能く考へなければなりません。正義とは生物に對して、害を加へないと云ふ事であります。併し又正義は罪人を放任して罪なき多くの人、又其の一人にでも害を加へしむる事を許さないものであります。

問 其の他の消極的の規則は如何なるものですか。

答 靈智學者は自分、況して他人に對して眞の利益を計らないで、無益の生活に甘んじて居てはなりません。靈智學者は若し人類の爲めに働く事が出来ず、従つて靈智學の事業の爲めに盡す事が出来ないならば、自分が助力すべき人丈けにでも、利益を計らなければなりません。

問 之を爲すには特別の資格がなければ出来ません。而して或る人には少しく六ヶしいでせう。

答 其の様な人は外面に善を飾らないで、靈智學會に這入らない方が宜いのです。獻身的の事にせよ、時間、勞力又金錢にせよ、自分の力以上に盡せと吾々は言はないのです。

問 夫れから如何ですか。

答 會の爲に働く會員は、靈智學を研究するに自分計りの進歩或は上達を除き計らないで、寧ろ自分の力の及ぶ限り他人の利益を計る覺悟でなければなりません。會員は靈智學事業の重荷及責任を熱心な小數の會員丈けに掛けてはならないのです。會員は一般の事業に各自出來得る限りの力を盡し、又自分の力に及ぶ方法で、之を補助する事を自分の義務と思はなければなりません。

問 之は當然の事です、夫れから如何ですか。

答 靈智學者は會の名譽を自己の虚榮心と感情との犠牲にしてはならないのです。他人の名譽を自己の虚榮、利益の爲めに犠牲に供する人は、會員にして置いてはならないのです。一本の病肢は全身を病ますものであります。

問 靈智學を他人に教へ之を説くのは會員各自の義務ですか。

答 全く左様です、會員は何人と言へども靈智學を知らないから之を教へる事が出来ないと云ふ口實を設けて、手を虚しくして居てはならないのです。如何となれば、自分よりまだ知らない人が必ず有るものです。而して又人は他人に教へて見て、初めて自分の無知を悟り、智識を求

めやうとするものです。併し之は第二の要點であります。

問 夫れでは、靈智學之等消極的義務の第一の要點は何でありますか。

答 夫れは常に自分の缺點を認め、之を自狀する覺悟で居り、又他人の盡力を賞しなと言ふよりも、寧ろ之を賞し過ぎて誤り、又他人に對し不平が有れば面前で之を打ち明け、又他人の惡事を聞いても、決して之を人に告げず、又偶々自分を迫害する人が有つても之を遺恨に思はない様にする事で有ります。

問 併し面前で人を批評するのは、往々危険な事が有ります、左様では有りませんか。私がつて居る會員は只厭な事を面前で言はれて、非難されたからとて脱會し會の大敵と成つた事が有ります。

答 其の様な人は澤山有ります。如何なる人でも脱會した會員は必ず會に對して遺恨を有つて居ります。

問 其の譯は如何云ふものですか。

答 其の譯は單純です、即ち大概の場合では始めは會に非常に熱心に成つて居つて、之を譽め過ぎたものだから、其の様な脱會者が其の會を非難し、前には其の真相を知らなかつたと云ふ口

實を設けるには自分は愚で欺されて居たのだと言ふより外に仕方が無いので有ります。而して自分の罪を其の會一般、殊に其の指導者に歸するのです。其の様な人は丁度顔の曲つた人が鏡を見て、自分の曲つた顔が映るのは鏡が悪いからと言つて之を打ち毀す人と同様で有ります。

問 併し何故に此の人々が會の敵と成るのでですか。

答 殆んど何の場合でも、彼等の傲慢心から來るので有ります。一般の場合では、彼等の云ふ事や忠告は、自分の欲する程に重んぜられないからです。然らざれば彼等は天國で僕と成るよりも、地獄で王と成る事を欲する連中で有ります。即ち一言に言へば、彼等は何事にも、人より先に立ちたいからで有ります。例へば、或る會員(自分で偉がつて居る人)が會員は悉く非靈智學的で有ると云ふ口實の許に、自分でも同じ事をして居り乍ら、彼等を非難し或は誹り終に會を脱しました。其の理由は吾々(特に會の創立者)は皆な詐欺者で有るからだと言つて居ります。又他の一人は、會の或る重要な位置を得んとて、あらゆる奸策を用ひ、自分に利が無いと云ふ事を知つて、靈智學會の創立者に反抗し其の大敵と成りました。而して會員の一人が自分を重要な位置に任じて呉れないからとて、常に創立者を非難しました。之は只だ甚しき傲慢の一例で有ります。又他の一人は惡魔法を使つたので有ります。即ち自分

では靈智學を信仰し、其の徳義を守ると見せ掛けて、或る會員に一種の催眠術を掛けたので有ります。而して之を禁せられた時に、其の會員は靈智學を打ち捨て、今では會の先導者に非常な害毒を及ぼし、自分が欺き損つた人々の名譽を毀損して、會を破壊しやうと努めて居ります。

問 其の様な人物は如何しますか。

答 彼等の Karma に任して置きます。只一人が悪事をするからとて、他人もしなければならぬと云ふ理由は有りません。

問 併し讒言の事を云へば、陰の悪口と正當の非難との區別は如何して付けますか。友人や隣人の交つて居る人が危険の人物で有ると云ふ事が分れば彼等を警告するのは人の義務では有りませんか。

答 若し其の様な人を放任して置いて、他人に害を及ぼすならば、密かに彼等に警告して、其の危険を避ける事は、儘に人の義務で有ります。併し眞偽に拘はらず、他人に對する非難を、世間に弘めてはなりません。若し其の非難が事實で有つて、其の悪行が他人に及ばないならば、其の罪人を自分の Karma に任せて置く方が宜いのです。而して事實でなかつたならば、世の

中の不公平を夫れ丈増さない事に成ります。夫れ故に、直接に關係しない人には、誰にも其の様な事を言はない方が宜いのです。併し若し、言はないで居るが爲めに、他人に危害を及ぼす恐れが有るならば、如何なる事が有つても、事實を言ふ方が宜いのです。而して Annesley 氏の言ふ如く、「事情よりも義務の方を重んぜよ」と私は附言します。用心をする爲に義務が果されなければ、寧ろ用心しない方が宜い場合があります。

問 私の考へでは、若し之等の箴言を實行するならば随分困つた事が起ると思ひます。

答 随分起ります。今吾々は昔の耶穌教信者と同じ誹を招いて居ります。彼等が互に愛する様を見よ」と吾々が評されても、仕方が無いので有ります。

問 兎に角靈智學會には(科學に關する會は無論)耶穌教會に劣らず悪口や争が有るならば、之を如何して同胞會と云はれませうか。

答 現今の所では實につまらないものです。而して宜く改革して組織を變更しなければ(註6)他の會と選ぶ所がないので有ります。併し人間の性質は靈智學會の内外を問はず、同様で有ると云ふ事を忘れてはならないのです。其の會員は決して聖人ではなくて、只行を改めやうとして居る人で有ります。而して矢張り人間の弱點が有つて悪い事を爲がちな者で有ります。吾々

の云ふ同胞會は世間に認められて、人望の有る團體でなく、言はば除けものの様です。夫れのみならず此の會は未だ渾沌の状態に有つて、他の會よりも多く不公平な非難を受けて居ります。夫れ故に此會の理想を實行し得ない會員が、脱會後に吾々の敵に同情と保護を求め、自分の怨を彼等の待ち受けて居る耳に注ぎ込まふとするのは、敢て怪しむに足らないので有ります。彼等は如何に不合理でも吾が會を攻撃するならば、必ず補助と同情とを得て直ちに信せられると云ふ事を知つて居るから、直ちに攻撃します。而して彼等の真相を照らす吾が會に向つて、怨を洩らすので有ります。人は自分が害した人を決して赦しません。人は恩に仇を以て報ひるならば、世間及自分の良心に對して、其の言譯を飽く迄もしなければなりません。世人は自分が嫌ふ會の攻撃は何でも直ぐ信ずるもので有ります。良心は……併しもう言ひますまい、既に言ひ過ぎましたから。

〔註60〕 靈智學會は一八九五年に始めて組織を變更せられた。其の時に William Q. Judge と云ふ人が終生會長に選ばれ而して第一の大改革が起つたので有る。段々事業が膨脹するに従つて、更に改革が必要に成つて來た。而して其の事業及靈智學運動が益々進むのを補助する爲に、一層保護的手段を取らなければならなかつた。此の目的を以つてカセリン、チングリ女史は、會の組織を變更し、現在實施して居る其の憲法は一八九八年二月十八日に米國のシカゴ市で制定せられたのである。其の時に靈智學會は其の年會に於て、
「同胞及靈智學會」

(The Universal Brotherhood and Theosophical Society) の憲法を採用した。而して其の決議に依つて靈智學は此の會の一部と成つたので有る。
利己の爲めに靈智學及其の會の名を用ひ、又世間の注意を引いて公衆の補助を得んが爲めに、創立者 H. P. Blavatsky の名を用ひる人が多く有るのは、實に遺憾な事である。此の様な事は公開演説の席及新聞雜誌等、或は巡回演説に依つて行はれて居る。世界同胞及靈智學會に少しも關係しないで多くの場合は、關係の有る様に言ひ聞らして、公衆を欺き、H. P. Blavatsky 或其の後継者 W. Q. Judge 及 Katherine Tingley が人道の爲めに盡す事業に於て、實際例證して居る靈智學の眞理から多くの眞誠の人々を遠ざけて迷はして居るので有る。

世界同胞及靈智學會は他に靈智學と云ふ名を有する會、或は團體を認めないと云ふ事、又其の會員は會名を靈智學會と言ひ乍ら世界的靈智學運動の主導者及其の會長として Katherine Tingley を戴いて居ない會には、少しも關係して居ないと云ふ事を、能く承知して置かなければならない。世界同胞及靈智學會の本部は米國加州の Point Loma と云ふ所に有る。

問

貴君の境遇は餘り羨ましくは無い様です。

答

羨ましく有りません。併し靈智學會の主導者や創立者が、今に其の會の爲めに全力を盡して居る事を考へて見れば、其の會及其の教には何所か高尚な眞理の所が有るに違ひ無いと思ひませんか。彼等は其の會の爲めに、總て世俗の安樂、富、成功又自分の名譽迄も犠牲にして、

其の報酬として受ける所は絶へず罵詈、非道の迫害、忘恩、誤解を受けて居るのであります。即ち四面楚歌の聲で有ります。而して然かも彼等は其の事業を抛棄しさへすれば、總ての責任を免かれ、攻撃を逃がれるので有ります。

問 其の様な忍耐は、實に驚く可きもので有ると言はなければなりません。而して何故に貴君方は其んな事をするのかと不思議に思ひます。

答 夫れは實際、自分の道樂の爲めではなくて、小數の人は創立者が死んで居なくなつても、人道の爲めに吾等の事業を元來の目的通りに、繼續する事が出来る様に訓練したいと、希望して居る計りで有ります。而して既に創立者の後継者と成る可き高尚な熱心家が出来て居ります。是等少數の人のお蔭で未來の人間は今迄よりも平和の道に一層容易く達し、又其の道も一層樂に成ります。而して彼等少數の人の苦は、善い結果を残すから其の犠牲は無益に成りません。現今に於ける靈智學會の第一根本的の目的は、人の心に種を蒔いて置いて、夫が段々成長し、時勢の改良に従つて、今迄よりも一層庶人に幸福を與へる様な、健全な改革を起す事有ります。

第十三章 靈智學會に對する誤解に就て

(註61)註60を見よ。

靈智學と禁慾主義

問 貴會では、會員に非肉食論者、獨身主義者、又禁慾主義者たる可しと要求する様に聞きました。が未だ貴君から何も其の様な事を聞けませんから、此の事に就て事實を聞きたいものです。

答 事實を云へば、吾が會の規則では何も其の様なことを要求して居りません。靈智學會は何れの會員でも、決して禁慾主義に成ると思はず、況して之を要求は爲ないので有ります。只だ其の要求する所は(若し之を禁慾主義と言ふならば)自分の利益よりも他人の利益を計れと言ふ丈で有ります。

問 併し夫れでも、貴會員中に嚴しい非肉食主義や又飽く迄も獨身主義を主張して居る人が澤山有ります。而して此の様な人は、貴會に重要な關係を有つて居る人に最も多いので有ります。

答 夫れは敢て怪むに足らないのです。如何となれば、吾等の事業に實際に熱心な人は、大概會の與義部の會員で有ります。其部の事に就ては既に述べました。

問 夫れでは奥義部では禁慾主義の實行を要求して居るのですか。

答 否や其部に於ても、其んな事を要求も命令も爲ないので有ります。併し一般の禁慾主義の問題に就て、吾等の意見を説明した方が宜いと思ひます。左様すれば非肉食論等の事が宜く分るでせう。

問 何卒説明して下さい。

答 既に述べた通り、靈智學を實際熱心に研究し、吾が會の爲めに活動する會員等は、大概吾等が教へる眞理を理論的に研究した丈では満足しません。彼等は其の眞理を自分直接の經驗に依つて知り、又他人を實際に助る爲めに、必要な智慧と力とを得る目的を以つて、秘密教を研究したので有ります。夫れ故に、早晚彼等は奥義部に這入るので有ります。

問 併し禁慾主義の實行は、奥義部でも、義務的で無いと貴君は言ひました。

答 義務的では有りません。併し奥義部で會員が、一番先きに覺なければならぬ事は、外部即ち肉體の人間と、内部即ち眞の人間との關係を實際に理解する事で有ります。人間性質の之等二つの關係及相互の作用は、彼等に教へます。夫れ故に彼等は内部の人間は外部の人間、即ち肉體よりも遙に大事なものとして云ふ事を、直に宜く覺ります。又彼等は盲信的の禁慾主

義は愚かなもので有り、又前に述べた Dr. Ladbroke と云ふ人の行、或は自分の身體を残酷に火で焼いたり、苦めたりする印度の難行者の行は、只利己の目的、即ち意思の力を發達させる爲に肉體を苦めるに過ぎないもので有る、然るに之は眞の精神的或は靈智學的の發達を助ける目的には、全く無益で有ると云ふ事を教へられるので有ります。

問 貴君の必要と云ふのは、道德的禁慾主義のみでせう。夫れは或る目的に對する一つの手段で有つて、其の目的は人間の内部の性質を完全に平均せしめて情慾に打ち勝ち、肉體を全然支配する事で有ります。

答 全く左様です。併し之等の手段は濫用してはなりません。即ち之を用ゐるには、大競争の準備に練習をして居る運動家の様にするので有つて、金錢の慾を満さんが爲に食ふ者も食はないで、病氣に成る吝嗇家の様にしてはならないので有ります。

問 貴君の言ふ事は、大體分りました、併し之を如何にして適用するかを知りたいのです。例へば非肉食論の如きは如何思ひますか。

答 獨逸の或る大科學者は、肉類の組織は如何に料理しても、矢張り元の動物の特徵を明かに殘して居つて、之を認める事が出來ると云ふ事を證明して居ります。夫は兎に角、又誰でも自分

の食つて居る肉は味で判断する事が出来ません。吾等は今一步進んで人が動物の肉を食物として同化したならば、生理的に其の動物の特徴が其の人に感染すると云ふ事を證明します。又秘密科學では其の研究者に、肉眼で之を教へ、且つ證明して居ります。而して又人間に及ぼす此の動物化する影響は、大きな動物から受けるものが最大で、鳥類からは少くなく、又魚類或は他の冷血動物からは一層少くなくして、野菜のみを食へば、最も少くなくと云ふ事を示して居ります。

問 夫れでは何も食はないで居る方が宜いでは有りませんか。

答 若し食はないで生きて居る事が出来れば、無論宜いのです。併し實際では生きる爲めに食はなければなりません。夫れ故に、吾々は眞の熱心家には脳や身體をなるべく阻害せず、又直覺や内部の官能及力の發達をなるべく妨げない様な食物を探る様に勸めるので有ります。

問 夫れでは、一般の非肉食論者が、常に唱へる様な議論は皆迄信じませんか。

答 無論信じません。彼等の議論の中には非常に薄弱で、全く誤まつた假説に基づいたものがあります。併し又彼等の言ふ事の中には眞理の事も澤山有ります。例へば近來著しく流行する所の疾病又た殊に人が病氣に罹り易い事は、肉、特に罐詰の肉を食ふ事に大に歸因するもので

有ると吾々は信じて居ります。併し此の非肉食論の問題の價値を詳しく論ずるには餘り長かりますから他の問題に移つて下さい。

問 今一つ質問が有ります、即ち奥義部の會員が病氣に成つた場合には食物は如何しますか。

答 無論なるべく良醫の言ふ事に従はなければなりません。吾等が此の點に就ては、何も嚴しい規則を勵行しないと云ふ事が未だ分りませんか。吾等は其の様な問題に就ては、理論的の解釋をするので有つて、決して狂信的では無いと云ふ事を能く覺へて置いて下さい。若し人が病氣の爲め、或は元からの習慣の爲に、肉がなくては濟ませないと云ふならば、何も食はされないと云ふ譯は無いでは有りませんか。肉を食ふのは、何にも罪ではありません。只だ其の人の進歩を少しく妨げる丈の事で有ります。如何となれば、肉體の働、及官能は、人の思想及感情、或は抱いて居る希望よりも、遙かに重要ではありません。

問 夫れでは酒類を用ひる事に關して、如何思ひますか、多分飲酒は勸めないでせう。

答 酒類は肉類よりも、人間の道徳及精神上の發達には遙かに有害で有ります。如何となれば、酒類は總て人間の精神状態に直接に著しく有害の影響を及ぼすもので有ります。飲酒が人間内部の力の發達に有害なのは、恰も阿片や其の他の麻醉薬と殆んど異りません。

靈智學と結婚

問 今一つ質問をしたいのです、即ち人間は結婚をしなければなりませんか或は一生獨身で暮らなければなりませんか。

答 夫れは人に依ります。若し貴君の云ふ人が此の俗世界に生存せんとする人、又善良で熱心な靈智學者で、吾々の主義の爲に熱誠を以つて、活動する人で有り乍ら、此の世に生き長らへたい人々——即ち一言に言へば、所謂「社會」なるものに最早用事がなく、又眞理を悟つて、他人を助ける爲に、或る一事のみを希望する人——此の様な人に對しては、若し自分で當り闢よりも空闊の方が多し抽籤の危険を厭はないならば、結婚してはならぬと云ふ理由は無いと私は言ひます。まさか、吾々は全然非結婚論を唱へる様な没理的又は狂信的のもので有ると貴君は思はないでせう。却て結婚は實地的秘密教を行ふ少數の人を除けば、道德敗類を防ぐ唯一の方法で有ります。

問 併し何故に、人は結婚して居り乍ら「秘密術」の力を得る事が出来ませんか。

答 夫れは、此所では生理的問題に立ち入る事は出来ません 併し充分明瞭な答をする事は出

来ます。其の答に依つて、吾々が此の問題に對し道德の點から見た理由が明かに成るでせう。例へば、人は二君に仕へる事が出来ずか、無論出来ないのでせう。夫れでは、人は妻帯しては「秘密術」(Occultism)を研究する事が出来ないのでです。若し之をせんとするならば、何れも満足に果す事は決して出来ないのでです。而して又實地的「秘密術」は非常に危険で、輕々しく出さない研究で有るから、人は自分の目的を達する爲めに、非常に熱心で、總ての物、先づ第一に自分を、犠牲にする覺悟でなければ、之を始める事は出来ません。併し此の事は吾々の奥儀部の會員には適用しません。私の言ふのは、彼の最高の目的に達する道を踏まんとする人のみの事です。吾等の奥儀部に這入る人は、大概は此の道を來生に始める爲めに今生に於て準備して居る初學者に過ぎないので有ります。

靈智學と教育

問 西洋に行はるゝ宗教の不完全なる事又現今非常に流行して居るけれども、社會の害毒であると貴君の思ふ唯物論が不完全なる事を烈しく攻撃する一理由は、善悪及不幸が特に西洋の都會に慥に多いからで有ります。併し又慥かに教育の普及に依つて、此の状態を救ふ爲めに、

大いに盡す所が之迄に有り、又現に有ると云ふ事を認めなければなりません。

答 未来の人間は、其の様な教育の普及を、有難く思はないでせう。而して、又現今の教育は憐れむべき庶民には餘り利益を興へないでせう。

問 併し、左様早くは結果が表はれません。庶民の教育を始めたのは近頃の事です。

答 庶民の教育（之こそ耶蘇教即ち耶蘇の教を實行する人々の盡す可き事）が今始まつた計りだと言ふならば、所謂耶蘇教は、十五世紀此の方如何なる事をして居つたのですか。

問 なるほど、貴君の言ふ事は尤でせうが……。

答 いや、此の教育問題を廣義に解釋して御覽なさい。左様すると、貴君の得意の改善には益よりも却て害の方が多分ります。貧民學校は理想には遠いけれども、所謂近世社會が及ぼす有害の影響に比すれば、有益であります。苦しんで居る憐な庶民に對して、實用的の靈智學を少しく應用すれば、此の（無益の）教育を普及するよりも、幾百倍の利益が有ります。

問 併し實際……。

答 まあ、終り迄聞いて下さい、貴君は吾々靈智學者が非常に重要に思つて居る問題を出しました。夫れで、私は言ふ丈の事を言はなければなりません。彼の貧民窟で育てられ、溝板の上で

遊び、卑しい行爲や言語を常に習ふ子供が、繪や花が飾つて有る、美しく明るい教場で毎日教を受けるのは、非常な恩澤で有ると云ふ事を、私は認めます。其の學校で子供は清潔、溫和及び規律の正しい習慣を覚え、又歌や遊戯を習ひ、智識を開發する様な玩具を興へられ、手工を練習し、盛め顔でなく、笑ひ顔を以つて言葉をかけられ、叱られないで柔しく戒めを受けるので有ります。此の様な事は、總て子供に人情を教へ、其の腦髓を發達させ、智徳の感化を受けしむるもので有ります。其の様な學校は理想通りのものでは無いけれども、其の子供等の家庭と比較すれば、天國の様なもので有つて、徐々に其の家庭に影響を及ぼして居ります。併し、之は多くの貧民學校の状態ですけれども、近世の教育法は、甚だ不完全であります。

問 夫れは左様として、續けて下さい。

答 近世教育の眞の目的は、如何なるものですか。其の目的は精神を正しき方向に發達させ、不幸で憐むべき人間に Karma で定められた、生活の重荷を忍耐して負ふ様に教へ、意思を堅固にし、隣人を愛し、互に相助けて、同胞主義を教へ込んで、實際的生活に適する人物を作るのが目的で有りますか。決して左様では有りませう。併し之は眞の教育の目的たる事は疑がなくて、誰も之を否認する人は無いでせう。例の教育家は、之を認めて居つて、此の問題に就ては、大い

に喧ましく言つて居ります。併し彼等の事業の實際の結果は、如何なるもので有りますか。悉く生徒、否、近世の教師は、「現今教育の目的は試験に及第する事有る」と答へるでせう。此の教育法は善良なる奮發心を起させるのでなくて、他人に嫉妬心、否、殆んど、憎悪心を、青年に教へ込むのです。愛の生活でなくて、利己の名譽や利益を争つて奪ひ取る、殘忍な生活を彼等に教へるので有ります。

問 其の點に就ては、貴君の説は尤で有ります。

答 當世の子供や青年が、恐怖する之等の試験は如何なるもので有りますか。其の試験は、學校で習つた事柄を、只だ表に作る分類法に過ぎないので。即ち、其の試験は近世の科學的法則を一種の有智動物と看做して居る人間に、適用して居るので有ります。扱て所謂科學では、理性は腦髓の機械的相互作用の結果で有ると云ふ事を教へて居ります。夫れ故に近世の教育は、殆んど全く機械的即ち自動的智識製造機の様なもの有ると云ふのは當然で有ります。試験は、只だ肉體の記憶を練習するに過ぎないと云ふ事は明かです。而して、早晚貴君の學校は、皆な此の様なつまらないものに成つて仕舞ひます。思考及推理力を、實際健全に發育させる事は、總ての事が競争試験の結果に依つて判断しなければならぬ間は、とても不可能の

事有ります。又學校教育は品性の修養、殊に道德の訓練の爲めに最も肝要です。扱て貴君の近世教育法は徹頭徹尾科學の所謂「生存競争」及「適者生存」の理に基いて居るのです。誰でも皆な子供の時分から、之等の事は直接の教のみならず、實例及經驗に依つて、教へ込まれて居るから、終に自我、即ち下等の動物的自我は、生存の最大要件で有ると云ふ觀念を自分の腦髓から取り去る事は出来ません。之が即ち後年に至つて罪惡及無情の利己心の大根元になるのです。此の事は貴君も認めて居る所でせう。前に幾度も繰り返して述べた通り、利己心は人道の禍因で有つて、此の世で罪惡を多く産み出すもので有ります。而して、近世の學校こそ其の様な利己心を作る温室です。

問 夫れは一般の理論としては、至極結構です、併し實際の事實もなければなりません。又之に對する改良策も聞きたいのです。

答 はい、お聞かせ申ませう。教育機關には三大區別が有ります、即ち貧民學校、中等學校及上流學校の三つてあります。非常に商業的のものから古風文學的のものに階級が有りまして、其の中には折衷したものが澤山有ります。實地商業的のものから近世派が出来、又古風文學的のものは小學校迄にも其の保守的影響を及ぼして居ります。其所で科學及商業派のもの

が、活氣の無い古風文學的のものを壓倒して居ると云ふ事は明かです。其の理由は直ぐに分ります。夫れで此の派の教育の目的は、拜金主義、即ち第十九世紀の最も貴重な黄金で有ります。夫れ故に此の派の人は總ての腦力を只だ一つの目的に集中して居ります。夫れ故に彼等は、無智淺慮の庶民に智力を以つて敵對する様に「教育」訓練したる小軍勢の様なものでも有つて、其の智力を以て彼等の膏血を絞り取り、之を餌食にするので有ります。其の様な教育は非靈智學のみならず又非耶蘇教的です。此の派の教育の直接の結果として、社會に無情で利己、營利的の人間が溢れて居るので有ります。此の人々、否な動物は、自分より弱い同胞の無智に付け込んで、之を餌にする様に宜く訓練されて居ります。

問 併し兎に角、吾々の大きな上流學校は其の様なものでは有りません。

答 幾らか違ひます。併し外形は異つても、中心に活動して居る精神は同様です、即ち Eton や Harrow (上流學校) が科學者を出しても又神學者を出しても、矢張り非靈智學的及非耶蘇教的で有ります。

問 まるか、貴君は Eton や Harrow を例の「商業的」だと言ひますまい。

答 夫れは言ひません。無論古風文學的の教育法は、何は兎もあれ、品が宜くて、現今では幾ら

か益をして居ます。而して現今に至る迄も、大きな貴族學校では此の教育法を用ひて居ます。

其の學校では學術の教育のみならず、社會教育も得られます。夫れ故に、貴族や金満家の子弟は、其の様な學校へ行つて、他の貴族や金満家の青年に交はる事は最も肝要な事です。併し不幸にして、其の様な學校へ這入るのには、入學試験にでさへ非常な競争が有ります。其の譯は金満家が段々増加して、貧乏でも能く出来る生徒は、學力づくで入學し此の状態が大學校迄續くので有ります。

問 此の説に依ると、金持の愚鈍な子弟は、貧乏人の子弟よりも勉強しなければならぬ様です。

答 左様です、併し變な事です、所謂「適者生存」を主張して居る者は、其の主義を實行しません。如何となれば、彼等は全力を盡して、天然の不適當者を適當者に代らしめんとして居ります。夫れ故に、教育に適する生徒を教へて居る良教師を高給で引き寄せ、生れつき不適當の生徒を機械的に教育して、職業を授けて居りますが、此の様な者は溢れる程有つても、何の役にも立ちません。

問 之は何に原因すると思ひますか。

答 之は皆な生徒の生れつきの性質及腦力を考へないで、注文通りに人間を造らうとする間違

つた教育法に依るので。此んな結構な學校へ這入る憐れな少年の志願者は、未だ乳臭い體をして、直ぐに紳士の子弟を教育する豫備學へ入れられるので有ります。此の學校では、生徒は直ちに物質的智識を製造する教師に捕へられ、羅旬語、佛蘭西語及希臘語の初歩、又は歴史の年代表を詰め込まれるので有ります。夫れ故に生徒に少しでも天性の才能が有れば、Celticの所謂「死辭」(dead vocables)の歴し棒で頻りに押し出されるので有ります。

問 併し慥かに其の生徒等は「死辭」も學ぶでせうが、靈智學會に這入る迄でなくとも靈智學を學ぶに必要な智識を得るでせう。

答 餘り得る所は有りません。如何となれば其の學ぶ歴史の智識は、只だ他國民に對して偏見を起すに足る丈に自國の歴史を學ぶに止まり、古來の國民的憎惡及敵意を吹き込まれる丈で有ります。まさるか之を靈智學とは言はないでせう。

問 其の他の異議も聞きませう。

答 其の他の異議は、所謂聖書の事實を、半齧りにして居る事です。而して其の聖書を研究するのには、少しも智力を用ひません。之は只だ記憶の學問で、教師は理由の如何を問ふのでなく、事情の如何のみを問ふので有ります。

問 左様です、併し近頃不可思議論者や、無神論者が段々増加して來るのを、貴君は喜んで居ると聞きました。夫れ故に、貴君が其の様に非難する教育を受けた人々でさへ、自分で思考し推理する事を習ふ様です。

答 左様です、併し夫れは、其の教育法の爲めでなくて、其の反動から起るのです。吾々の會では、宗教的頑迷者よりも、不可思議論者及甚しい無神論者の方を選びます。不可思議論者の心は常に眞理を迎へますが、頑迷者は恰も鼻が日光に目を暗まされる如く、眞理を見る事が出来ません。吾々の會員で、最良の者、即ち最も眞理を愛し、博愛で正直の者は、人格的精神を信じないと云ふ意味から言へば、不可思議論者及無神論者です。併し幼年時代に自由思想を有つて居る人はありません。大概の人は幼年の時代に、無理な訓練を受ければ、後年に至つて心が狭く成り、曲つて仕舞ふもので有ります。眞に健全なる教育法は、盲信でなく、理論的確實な思想の訓練を正しく用ひて最も健全且つ寛大の人間を造るもので有ります。日曜日には聖書の奇蹟を信せしめ、平常には其の様な事は科學的に不可能で有ると云ふ事を教へ、子供の推理力を迷はして置き乍ら、如何して好い結果を得る事が出来ませうか。

問 夫れでは如何したら宜いのですか。

答 若し吾々に資力が有つたならば、教育を受け乍らパンに困る様な人間よりも、何か異つた人間を造るべき學校を建てます。子供は先づ第一に獨立心、博愛心、利他心、相互の慈善心及何よりも先づ自分で思考し、推理する事を教へなければなりません。吾々は全く機械的の記憶法は成る可く減少し、心智、官能及潛みたる力を發達させて訓練するのに其の時間を利用し、子供を各個人的に取扱ひ、其の特質が自然に發達し、其の力が宜く調和平均して、發育する様に教育を施し、又自由、即ち思想及道德の自由を有し、又總ての點に於て偏見の無い、殊に利己心の無い男女を造ります。而して此の事は皆でなくとも大部分は適當に眞正な靈智學の教育を施したならば、爲し遂げらるゝと云ふ事を吾々は信じて居ります。

然らば何故に靈智學會は斯く非難せらるゝか

問 若し靈智學が、貴君の言ふ半分でも、善いものならば、何故に人が其の様に烈しく之を惡むのですか。之こそ一つの問題です。

答 左様です、併し吾等が此の會を組織してから以來、強敵を非常に多く作つたと云ふ事を忘れては成りません。私が既に述べた通り、若し靈智學の運動が、只一時的で、影響を及ぼさない、

例の近世の狂信で有つたならば、只だ嘲哂さるゝ（現に其の眞の主意を未だ解しない者は嘲哂して居る）計りで有つて、人が之に注意しないので有ります。併し靈智學は、其の様なものではありません。實際に於て、靈智學運動は近世で最も眞面目なもので有つて、古來の愚説、迷信及當世の社會罪惡の根本を打破せんとして居るので有ります。其の害惡は、實に富豪や其の眞似をする者の懐を肥すと同時に、慥かに細民を苦しめ、飢饉に迫らしむるもので有ります。之を考へて見たならば、彼の鋭眼を以て靈智學の眞の性質を見貫き爲めに之を恐るゝ所の小數の人々が、非常の迫害を之に加へる理由が宜く分るでせう。

問 其の小數の人々が靈智學の運動を破壊せんとするのは、其の未來を悟つて居るからで有ると言ふのですか。併し若し靈智學が、善いのみ導くもので有るならば、其の小數の人々に對しても、其の様な烈しい非難攻撃を加へる事はまさか出來ないでせう。

答 いや出來ません。靈智學會の創立以後、凡そ十年間に、吾等が敵對しなければならなかつた敵を、有力又は危險な者とは言はないが、最近三四年間に、吾等に反對して起つた敵が、危險で有ると云ふのです。之等の敵は靈智學の攻撃を口にも言はず、筆にも書かないけれども、自分等の手先に働く愚者の黒幕に成つて、活動して居るのです。併し、彼等は大概の靈智學會員の

目には觸れないけれども吾が會の創立者及保護者 (Founders and Protectors) は、彼等の事を能く知つて居ります。併し今の所では、或る理由の爲めに、彼等の名は擧げません。貴會員中に彼等を知つて居る者が多く有るのですか、夫れとも貴君一人が知つて居るのですか。

答 私に彼等を知つて居ると言つた事はありません。私が彼等を知つて居るとも居ないと云ひませんが、兎に角其の様な人が有ると云ふ事は知つて居ります。之を言へば充分です。私は彼等が何んな悪い事でも、せばせよと云ふのです。彼等は非常な悪事をして吾等會員、殊に小心で外見のみを以て判断を下す人を惱ますかも知れませんが、彼等は如何なる事をして、靈智學會を破壊する事は出来ません。之等の眞に危険な敵(併し靈智學者と云ふ價値がなくて、靈智學會内と云ふよりは、會外に居る可き人)のみ危険な敵)の外にも、吾等の敵は随分多いのです。

問 之等の敵に就ても少し精しく説明して下さいませんか。即ち私が人に問はれた時に、返答が出来る様に、其の會の歴史を手短かく、又世間で、夫れを信じて居る理由を教へて下さいませんか。

答 其の理由は、單純なものです。局外者は大概靈智學會其のもの、及其の動機、又は其の目的及信仰の事に就ては、何事も知りません。其の會の始めから世間で知つて居る事は、只或る不思議な現象計りで有つて非亡魂論者の大多數は、之を信じません。間もなく靈智學會は不思議の力(miraculous powers)を有つて居ると言ひ觸らす一つの團體と思はれる様に成つたのです。世間では吾が會は奇蹟(miracle)と云ふものは絶對的に有り得可らざるものである事を教へて居るのを知りません。

問 何故に、又何時から亡魂論者は貴君方を憎んで居るのですか。

答 夫れは靈智學會と云ふものが、出来てからです。死人の靈魂と交通する事は、出来ないもので有つて、彼等の所謂靈魂なるものは、大概肉體を離れた人格や靈魂の脱殻等の靈氣的反影で有ると云ふ事を、吾が會が一つの團體として唱へるや否や、亡魂論者は、吾等殊に會の創立者を烈しく憎み初めたので有ります。此の憎惡の聲は米國の亡魂論者の總ての機關雜誌に出た、而して彼等はあらゆる悪口及人身攻撃を爲し、又靈智學の教に關する馬鹿らしい誤説を傳布しました。そして吾等は數年間迫害、非難、罵詈を受けました。之は一八七五年から始まつて、多少今日迄も續いて居ります。

問 併し靈智學の教の大體の傾向が、現今の總ての宗教の大敵なる唯物論に反對して居るのに、如何なる理由で耶蘇教の牧師が貴君方に對して敵意を抱くのですか。

答 牧師は「余に同意せざる者は余の敵なり」と云ふ一般の主義に依つて吾等に反對したのであります。靈智學は何れの宗派とも一致せず、又何れの宗派も多少間違つて居ると云ふ事を、教へて居るから、總ての宗派の敵と看做されて居るのです。印度に行つて居る耶蘇教宣教師が、吾々を憎んで壓倒せんとしたのは其の國の教育ある青年が自分の教を信じないので吾が靈智學會に這入つたからであります。併し此の様な人を除けば、靈智學會には牧師や又一二の僧正すらも居ます。

問 而して如何なる理由が有つて「心靈研究會」(The Society for Psychological Research)が、貴君方に敵對する様に成つたのですか。此の心靈研究會も靈智學會も、兩方とも或る點に於ては同じ方面の研究をして居つて、心靈研究會員の中に、元は貴會員であつた者も數人有つたでせう。

答 最初に吾々は其の會の首導者と非常に親密で有りました。併し「The Christian College Magazine」と云ふ雜誌に靈智學會長の行つた現象に對する攻撃が其の下男の虚偽的證言に基いて表はれました。其の時に此の「心靈研究會」は、靈智學會に關して、起つた多くの事實を自分の雜誌に

掲げたので、自分等が危険を招いたと云ふ事を悟つたのです。彼等は高尚振つて、全く科學者の風を装はんとしたのです。夫れ故に彼等は靈智學會を壓倒して迄も、自分の位置を保つか、或は大學者連の思ふ様に「輕信」の靈智學者や亡魂論者と同様に看做されるか、何れかの運命に立ち至つたので有ります。之を逃れる道がなくて、二つに一つを選ばなければならなかつたのです。夫れ故に彼等は吾等を壓倒する様に成りました。夫れは、彼等が餘儀なくされたのです。併し、彼等は何故に靈智學會の元祖は、一生を捧げて絶へず熱心に盡粹し、自分には金銭上、或は其の他の利益を少しも計らない動機を説明する必要に迫つたものだから、吾等の敵は此の熱心の理由を設ける爲めに、馬鹿らしい話では有るが、今では有名に成つて居る彼の「露探説」を持ち出さなければならなかつたのです。併し、昔の諺に曰く「殉教者の血は會堂の土地を肥やす」の眞理が又證明されました。初めて、此の攻撃を受けてから、靈智學會員は、非常に殖へました。併し其の時に出た悪評は、今日に至る迄も残つて居ります。或る佛蘭西の學者が「根の無い惡口も千度に一度は花が咲く」と言つたのは眞理です。夫れ故に不正の誤解が布流し靈智學會、殊に其の元祖ブラワツキーに關係した事柄は何でも皆只惡意の流言にのみ基いて、曲解されたのです。

問 併し靈智學會が十四年間存続して居る中（此の書は一八八二年に發刊す）に其會員や會の事業の真相を表すに充分な時と機會とが有つたに違ありません。

答 如何して又何時、吾々に其の様な機會が有りましたか。吾が會の最も重立つた會員は、公然と自分の正義を主張する様な事は非常に嫌つて居ります。彼等の主義は常に「實踐躬行が必要である」又「新聞や世人の批評は何も意とするに足らない」と云ふ事です。吾が會は餘り貧乏で世間へ講演者を出す事が今迄に出来なかつたのです。夫れ故に吾々の意見や教を發表する事は靈智學に關する五六の書物に止めて置いたのです。其の書物は廣く讀まれましたが又往々誤解されたり或は只噂で知られた計りで有りました。吾會で出版する雜誌は今でも排斥せられ又文學的の著書は人が注意しません。而して今日（一八八九年）に至る迄も靈智學者は惡魔崇拜者或は單に「奧義佛教徒」と云ふ事が如何なる意味をしても一層甚しい惡口が又出て來ます。悲し事には人間の性質として、宜い評判は直ぐ忘れて仕舞つて、二度と口にせぬものです。併し之に反して、悪い評判ならば何位馬鹿らしくして、信を置き難い事でも言ひ出さへすれば、無益な事です。如何となれば、一つの惡評がなくなれば、一層甚しい惡口が又出て來ます。悲しい事には人間の性質として、宜い評判は直ぐ忘れて仕舞つて、二度と口にせぬものです。併し之に反して、悪い評判ならば何位馬鹿らしくして、信を置き難い事でも言ひ出さへすれば、

必ず人が信じて、事實と成るのです。出所も分らない風説位でも、直に尾に緒が付いて大く成り、終には大評判と成るものです。就中惡口は恰も微菌の様なもので、人の心に食い込み、其の評判がなくなつても、記憶に其跡を残すものであります。虚言、惡口は人が信じ易いものです。而して、又其の出所、動機の如何を問はず少し曲解する人ならば、高尚の人でも下等の人でも必ず悦んで之を聞きたがるもので有ります。

問 貴君の議論は餘り酷過ぎはしませんか。英國人は、何でも人が言ふ事を信じ易い方ではありません。吾が國民は何事によらず公平を好むと云ふ事は一般に知られて居ります。虚言は決して長持ちするものではありません、而して……

答 英國人が惡評を信じ易いのは、何れの國民にも劣りません。夫れは人間一般の性質で有つて一國民の特性ではありません。虚言は諺に言ふ如く「立つ足が無でも、羽が生へて飛ぶものがある」。而して虚言が遠く飛ぶのは英國も何國も同じです。何時でも無代で得られるものは、虚言や惡口を書いた書物で有ると云ふ事を忘れてはなりません。之れは何時でも試して御覽なさい、靈智學の事に、深い趣味を有つて居つて、吾等の事を多く聞いて居る貴君は、此の評判や風聞に就て、何でも私に質問をして御覽なさい。私は確實な證據に依つて實際の事を申し上げます。

問 他の問題に遷らない中に、此の問題の事實を確かめませう。扱て或る著者は、貴會の教は道徳に背き、有害なもので有ると言ひ、又或る著者は所謂大家や東洋學者が印度の宗教は陰莖崇拜に過ぎないものが多くあると言つて居るからとて、貴會の教も矢張り同様なもので有ると言つて居ります。彼等の言ふ所は、近世の靈智學は東洋思想と非常に密接な關係を有つて居るから、其の臭味が無い筈は無いと言つて居ります。時々彼等は歐羅巴の靈智學者は此の崇拜に關する儀式を復活させて居ると迄言つて居ります。之の説は如何ですか。

答 此の説は私も前に人から聞いたり、又本で讀んだ事があります。之れに對して、私は之れ程根も葉も無い虚偽の悪口は古今に無いと言ひます。露西亞の諺に『馬鹿な人は夢にも馬鹿な事計り見ると』言ふのがあります。無根推測に過ぎない其の様な可怪らん非難を聞くのは、實に慨歎に堪へない次第であります。數年間靈智學會の會員に成つて居る幾百の信用の有る男女に會て不道德又は有害の教を受けた事が有るか如何か問ふて御覽なさい。The Secret Doctrine と云ふ本を開いて見れば、始めから終り迄、彼の自然表號を死文字的に解釋し、又公然教の陰陽兩性を甚しく、物質的に解したのが爲めに、陰莖崇拜を信する人々を、非難して居るのが分ります。吾等の教や、信仰を其の様に絶へず、意地悪く曲解するのは實に慘酷な事です。

問 併し東洋の信仰には、陰莖崇拜の分子が實際に有ると云ふ事は否定し得ないでせう。

答 私は夫れを否定しません。只だ私の主張するのは、西洋の宗教なる耶蘇教にでも、其の分子は矢張り有ると言ふのです。Hargrave Jennings (ト云ふ人) の Rosicrucians と云ふ本を讀んで見れば、夫れが分ります。多分東洋では、兩性表號が、西洋のよりも一層露骨かも知れませんが、夫れは西洋よりも一層純直、真誠で有るからだと云ふのです。併し夫れでも、東洋人の心には、西洋人程に下劣な考へは浮びません。尤も "Mahatma" 或は Vallabacharya 宗派の如き甚しい二の例外は有ります。

問 貴會の攻撃者の一人なる Agnostic Journal (ト云ふ雜誌) の記者は、此の甚しい宗派の信者は、皆靈智學者で有つて、眞の靈智學を知る者であると自稱して居る様に暗に云つて居ります。

答 其の記者は虚偽の事を書いた丈です。吾會員中には、過去に於ても、現在に於ても、一人として Vallabacharya 派の者はありません。彼等が眞の靈智學を知つて居るとか自稱する事は、印度教の事を少しも知らないが爲めに言ふのであつて又例の虚偽です。此の宗派の所謂 "Mahatma" と云ふ宗長は其の宗派の愚昧なる信者の金錢、妻及娘を取る権利が有ると云ふ丈の事です。此の宗派は總ての印度人に輕蔑されて居ります。

併し、此の問題は The Secret Doctrine と云ふ本に詳しく論じて有るから、詳細の説明は其の本で見てください。要するに靈智學は、根本から陰莖崇拜には大反對をして居ります。而して其の秘密及奥義部は、顯部よりも尙更ら反對して居ります。斯の如き非難は虚偽の最も甚しいものであります。今度は何か他の質問をして下さい。

問 私は靈智學會の陰に或る「勢力」が有り、又其の會を創立し之を保護して居ると云ふ大仙人(Mahatmas)が有ると會員から聞きました。

答 貴君は笑ふかも知れないが矢張り夫れは事實です。

問 此の人々は大得道者(Great Adepts)や錬金術者(Alchemists)などであると云ふ事を聞きまして。夫れでは、若し彼等は鉛を金にしたり、好きな程錢を造つたり、又種々の奇術を行ふ事が出来るならば、何故に貴君に錢を拵らへて上げて、貴會や其の創立者を補助して上げませんか。

答 其の譯は彼等は所謂「奇蹟俱樂部」を拵らへなかつたからです。又靈智學會の目的は、人間に潜んで居る力を、自分の努力と價値に依つて發育させる法を教へる事で有るからです。而して又彼等が如何なる不思議の現象を行つても、決して虚偽の事をなさず、又決して其の會員や志望者を誘惑しません。即ち靈智學は金銭で買はれないからです。之迄活動して居る會員に、

一人として大仙人(The Masters)や會から一厘も報酬を受けた者はありません。

問 今度は Mahatmas に就て、貴君が知つて居る丈の事を聞かして下さい。彼等の評に變な事が多いから何を信じていゝか分らず、又世間に様々の恐説が傳はるのです。

答 貴君が其を恐説と言ふのは尤な事で有ります。

第十四章 靈智學の Mahatmas...

Mahatmas は「神」か「惡魔」か

問 夫れでは、貴君の所謂 Masters (仙人)とは如何なる人ですか。或る人は彼等は靈魂(Spirits)或は何か人間以上のもので有ると言ひ又或る人は作り事で有ると言つて居ります。

答 兩方とも違つて居ります。私は或る時人が Mahatmas は男の人魚の様な者で有ると言ふのを聞きました。夫れは如何なるものを云ふのか分りません。併し人が色々言ふ事を聞けば、決して其の真相を知る事は出来ません。第一に彼等は吾々と同様に生れ、又他の人間と同様に死す可き運命を有つて居る生きた人間です。

問 併し Mahatmas の中には、千年も生きる者が有ると言ふ事ですが、實際ですか。

答 實際ではありませんが、人の口には戸が閉てられません。此の様な話を打ち消して、人の誤解を正さうとすればする程作り事は益々大きく成るものです。私は舊約聖書に有る Methuselah と云ふ人が、九百六十九歳迄生きたと云ふ事を聞きましたが、信じなかつたので、夫れを笑つたが爲めに、人に罰當りの異教徒の様に思はれた事があります。

問 併し實際の所、彼等は普通の人間よりも長生きしますか。

答 普通の人間の歳とは、何歳位の事を言ふのですか。The Lancet (と云ふ醫學雜誌)で或る墨西哥人が、百九十歳迄も生きたと云ふ記事を読みました。併し私は之迄に普通の人間でも Adept (仙人)でも Methuselah の半分も、生きたと云ふのを聞いた事はありません。實際或る Adept (仙人)は貴君の所謂、普通の人間よりも、餘程長生きをします。併し之には、何も不思議は無いので有つて、又其の様に長生きをしたいと云ふ Adept はめつたにありません。

問 “Mahatmas” と云ふ語は、實際何んな意味ですか。

答 只だ「大靈」(Great Soul)と云ふ意味です、即ち徳を高め、智識を養つて「偉大」に成る事です。若し「偉大」と云ふ名稱を歴山王の様な酔漢の軍人に與へるならば、彼が戦場で遂げ

たよりも、遙かに大なる勝利を自然の秘密界に於て遂げた人々にも「偉大」と云ふ名稱を付けられない譯は無いでは有りませんか。又 Mahatmas と云ふ語は、印度語で古くから傳つて居ります。

問 何故に、彼等を Masters と云ふのですか。

答 吾等が彼等を Masters と言ふ譯は、彼等は吾等を教へる者で有つて、吾等は彼等から靈智學の眞理を習つたからであります。併し遺憾乍ら吾等の中には、其の眞理を充分に表はす事が出来ない者も有り、又之を充分に理解する事が出来ない者も有ります。彼等は博識で又非常に神聖な人間で有ります。彼等は西洋社會の苦難、奮争からは儘かに遠かつて居るけれども普通の意味で云ふ禁慾主義者ではありません。

問 併し其の様に社會から遠かるのは、利己的では有りませんか。

答 利己的の所が何所に有りますか。靈智學會の今日の運命を見ても、世間では彼等を認めず、又彼等の教に依つてまだ利益を得ないと云ふ事が充分に證明されはしませんか。Clark Maxwell の様な數學の大家が、乗算の九々を子供に教へなくても宜いでは有りませんか。又 Mahatmas は、西洋社會から遠ざかる計りで有つて、彼等の自國に於ては、人から遠ざかりません。

問 貴君は Mahatmas には自然以上の力が有ると信じませんか。

答 前に言った通り、自然以上の事は何も無いと信じて居ります。若し Edison が二百年前に生れて居つて、蓄音器を發明したならば、彼は其の機械と共に焼き殺されて、其の様な事は皆な悪魔の仕業だと言はれたでせう。Mahatmas が有つて居る力は只人間に潜んで居る能力が發達したものに過ぎません。而して其の様な能力が、人に潜んで居ると云ふ事は普通の科學でも認め始めたので有ります。

問 Mahatmas が靈智學の著者を靈感し、其の著書は皆でなくとも、大概は彼等の言ふ通りに書いたもので有ると云ふ事は實際ですか。

答 左様したのも有ります。中には Mahatmas の言葉通りに書き取つた場所も有ります。併し大概の場合では、彼等は只だ思想を與へた丈で、文章は著者の任意に書きます。

問 併し此の事丈でも、奇蹟の様です。否、實際奇蹟で有ります。其んな事は如何して出來ますか。

答 夫れは貴君の考が餘程間違つて居ります。科學でも、遠からず貴君の議論を打ち破る様になります。何故に夫れが奇蹟と言はれますか。奇蹟と云ふものは、何か自然以上の業でありま

す。然るに實際自然、即ち自然の法則以外には、何ものも無いのです。近世科學が認めて居る所謂種々の奇蹟の中に、催眠術(註2)も加はつて居ります。而して其の力の一部は「暗示」即ち一種の傳心と言はれて居ります。之を或る特殊の肉體の病氣等を治療するに用ひて、成功して居ります。何の位遠く離れて居ても、甲と乙との心には恰も相接近して居る人の肉體に於ける如く、相互の反應が有ると云ふ事を科學界が認めなければならぬ様に遠からず成ります。二つの心が同情的に相關係して居つて、其の心の通ふ概關が磁氣や電氣の如く相應する様に調子が整つて居るならば、任意に相通ふ事が出來ないと云ふ譯はありません。如何となれば心の性質は其の思つて居るものから、距離に依つて遠げらるゝ様な固形體では無いから、二つの心の間に有る差異は只状態の差異のみで有ると云ふ事に成ります。夫れ故に、若し此の状態の差異がなくなれば、何の位離れて居ても、所謂以心傳心が起るのは決して「奇蹟」ではありません。

〔註2〕 H. P. Blavatsky は催眠術を行ふ事は危険で、有害の結果が伴ふと云ふ事を、何時も言つて居つたので有る。靈智學を忠實に研究する者は皆 Blavatsky や其の後繼者の言ふ事を信じて、催眠術を教へたり又之を行ひもしない。

問 併し催眠術では夫れ程不思議な事は何もしないでせう。

答 否、します。催眠術者は、被術者の脳髓を支配して自分の思つて居る事を爲さしめ、又自分の言ふ事も其の人に言はせる事が出来るのは、人が宜く知つて居る處で有ります。而して此の實際の以心傳心に關する現象は、今迄に澤山は無いけれども、之を生せしむる法則が、一層科學的に研究されたならば、其の働が之から何の位發達するか誰も豫言する事は出来ないと、私は思ひます。夫れ故に、若し催眠術の初歩を知つて居ても、其の様な結果を生せしむる事が出来るならば、精靈の力を有つて居る、Adepts (仙人) が不思議な結果を現はせない譯はありません。貴君が其の結果を奇蹟の様に言ふのは、之等の法則を宜く知らないからで有ります。

問 夫れでは何故に、近世の醫者が其の様な事を實驗して見ないのでですか。(註83)

〔註83〕例へば以下の様な專門家 Professor Bernheim 及 Dr. C. Lloyd Tuckey of England; Professors Beaunis 及 Liégeois, of Nancy; Delbeuf, of Liège; Burot 及 Bourru, of Rochefort; Fontain 及 Sigard, of Bordenax; Forel, of Zürich; 及 Drs. Despine, of Marseilles; Van Renterghem 及 Van Eeden, of Amsterdam; Weyterstrand of Stockholm; Schrenck-Notzing, of Leipzig; 及其の他有名の醫士の著者。

答 其の譯は、第一に彼等は精靈界の秘密や法則を能く知つて居る Adepts (仙人) ではなくて、物質の狭い範圍を脱する事が出来ない、唯物論者で有るからです。第二に彼等は現今の狀態に

於ては、決して成功する事が出来ず、又實際其の様な力が得られると云ふ事を、認める様に成る迄は、之を行ふ事が出来ないのです。

問 而して、彼等は其の力を得る法を學ぶ事が出来ますか。

答 彼等は之を學ぶ準備として先づ第一に、今迄に脳髓中に溜つて居る唯物論の糟を殘らず掃き去らなければなりません。

問 之は中々面白い事です。Adepts (仙人) は、多くの靈智學者を靈感し、又自分の言ふ事を書き取らせただのですか。

答 左様では有りません。極少數の者丈けにさせたのです。其の様な事をするのには、特別の條件がなければ出来ません。併し非道でも熟練した悪魔法使(即ち "Brothers of the Shadow" 或は Dugas) の Adepts は無法に之を行ひます。如何となれば其の様な悪魔法使は、自分の働を拘束する精神的束縛が無い爲めに、遠慮なく誰の心にでも乗り移つて、全く自分の悪魔力で之を自由にします。併し、吾々の師は決して其んな事はしません。如何となれば人の不死の自我を全く支配する事は即ち悪魔法でありませぬ。彼等は人の肉體及心靈性のみに影響を與へる事が出来ます。之が爲めに其の人の意思の自由は、少しも影響を受けませぬ。夫れ故に信仰と獻身の力

なくして師と心霊の關係を結んだ人に「大仙人」(Masters)が自分の心を移す時には何時も其の人の曇つた氣を透き通す事は甚だ困難です。併し、此所は其の様な問題を論ず可き所でありません。兎に角其の力が有るならば之を支配する所の「智識」(肉體の内外を問はず)及其の靈感を受けて働く者が、有ると言ふ事丈にして置きませう。吾等の用心すべきものは、悪魔術(Black Magic) 丈で有ります。

問 悪魔術とは實際如何なるものですか。

答 只だ心霊の力、或は自然の秘密を悪用する事に過ぎないものです。言ひ代ふれば、秘密教の力を、利己及不正の目的に用ゆる事です。「暗示」(Suggestion)の力を利用して、被術者に窃盜や殺人を犯さしむる催眠術者を、吾々は悪魔術師と稱します。巴里の醫師 Brown-Seguard が忌はしい動物の精液を人間に注射して行ふ彼の有名なる回春法(此の発見は歐羅巴の醫學者社會で現今研究して居る)が若し事實とすれば、無意識の悪魔術で有ります。

問 併し之は、中世に於ける妖術の信仰で有ります。現今では法律すらも、其の様なものは認めなく成りました。

答 夫れでは現今の法律に缺點が有ります。如何となれば、法律は其の様な魔術の有る事を知ら

ないが爲めに、間違つた裁判を爲し、自ら罪を犯した事もあります。魔術と云ふ語は、迷信の様子に聞へるから、人が嫌ひますが法律は、私が今述べた様な、催眠術の力を悪用する事を罰しませんか。否、既に佛蘭西や獨逸では之を罰して居ります。併し、明かに妖術(Sorcery)を罰したと言はないでせう。貴君は醫者や催眠術者の(註64)暗示力の効能及事實を信じて置き乍ら、悪用された場合には其の様な力が無いと云ふ事は出来ないでせう。而して此の悪用を認めて居るならば、即ち妖術(Sorcery)を信じて居るのです。善が有れば悪も有り、又正金が有れば偽金もあると思はなければなりません。如何なるものでも、對照の無いものはありません。即ち對照す可き、夜も闇も悪も無いならば、晝も光も善も人の心に顯はれる事は出来ません。

〔註64〕 大概無意識の惡魔術。

問 貴君の所謂心霊或は法術(Magic)の力を全く認めて居り乍ら、邪術或は妖術の事を聞いた計りで冷笑する人が多く有ります。

答 夫れは如何なる事を證明して居りますか。只其の様な人の矛盾及び間違を證明する計りで。吾等は、善良、神聖な Adepts の存在を知つて居るけれども、又一方には不善不神聖の Adepts、即ち Dupas が有ると云ふ事も宜く知つて居ります。

問 併し、若し大仙人(Masters)が在るものならば、何故に世間に出て Blavatsky や 靈智學會が被つて居る多くの非難を打ち消さないのですか。

答 何の非難ですか。

問 即ち大仙人(Master)は存在しないもので有つて、Blavatsky が造つたもので、中が空の薬人形だと云ふ事です。其の様な事を言はれては、ブラヴツキーの名譽を傷けませんか。

答 其の様な非難が如何して、Blavatsky の名譽を實際に傷けませうか。彼女は Masters が在ると云ふ事を言ひ觸らして、金を儲け、或は之が爲めに、利益又は名譽を得た事が有りますか。彼女は只之が爲めに、侮辱、非難を被つた計りです。若しブラヴツキーが、其の様な非難を受けなくても、少しも氣にしない様に、前から成つて居らなかつたならば、非常に苦痛を感じる所でも有りました。併し其の様な非難に、一體如何なる意味が有りますか。即ち意味の深い稱讃になります、其の様な事は、若しブラヴツキーの恐な敵が憎惡の爲めに目を晦まされて居なかつたならば、容易に口にする事ではありません。彼女が Masters を造つたと云ふ事は、次ぎの事を意味します、即ちブラヴツキーは、是れ迄に靈智學の著書で、公にした哲學を悉く、自分で作り出したと云ふ事に成ります。彼女は始めの著書の材料なる手紙を、自分で書いたに違ひ無い、

而して The Secret Doctrine と云ふ本に書いて有る教は、悉く自分で作り出したと云ふ事に成ります。其の教は若し世間が公平で有つたならば、科學の缺點を補ふものであると認めます。

之は今から百年経てば、必ず認められるに違ありません。彼等の言ふ事は、又實際ブラヴツキーは、自分の教を信する幾百の人(多くの學者及科學者)よりも、遙かに博學で有ると云ふ事を證する事に成ります。如何となれば、ブラヴツキーは、彼等學者を皆瞞着した事に當るので、若し彼等の言ふ事が事實で有るならば、ブラヴツキーは、重箱の様に五六の Mahatmas を一つに重ねたものに違ひ無いのです。其の譯は Mahatmas から受けた手紙の中には、全然文體の違つたものが多く有つて、夫れは皆ブラヴツキーが書いたもので有ると敵は斷言して居ります。

問 夫れは丁度彼等の言ふ通りです。併し「心靈研究會」の報告に出た様に「當代最も巧な詐欺師で有つて、其の名は後世に傳へるに足るもので有る」と公然非難されるのは、ブラヴツキーに取つては甚だ苦しい事では有りませんか。

答 若し其の事が、事實で有るか或は非唯物論者及公平なる人の口から出た事ならば、實に苦しい事であるかも知れません。併し實際、自分では其んな事は全然取るに足らない事として居り、又 Mahatmas は、只だ之を笑ふのみで有ります。實際を言へば、其の非難はブラヴツキーに對

する最高の賛辭で有ると私は重ねて言ひます。

問 併しブラヴツキーの敵は勝利を得たと言つて居ります。

答 其の様な勝利を得るのは、自分勝手の裁判をしたならば、容易な事です、併し乍ら、其の非難を信する者は、吾等の敵以外に誰が有りますか。

問 併し彼等は、事實を取り調べる爲めに、印度へ人を遣つたでは有りませんか。

答 遣りました、而して彼等の終結の判断は此の年若い取調べ人の出放題の言及不確實の證據に全然依つて居るのです。此の報告を讀んだ或る辯護士は、其の様な馬鹿らしい矛盾な記事を見たり事は無いと私の友人に言ひました。其の記事は假定や假設計りで互に矛盾して居りました。之でも大變な攻撃ですか。

問 併し夫れでも、靈智學會には、大害を及ぼしたでせう。何故にブラヴツキーは兎に角法廷に出て、冤罪を雪がなかつたのですか。

答 夫れは、第一に靈智學者として、個人の侮辱は總て打棄つて置くのが、自分の義務で有つたからです。第二に靈智學會も、ブラヴツキーも、其の様な訴訟事に、費す金が無かつたからです。而して最後の理由は、此の様な物好の青年に煽動されたる愚者から攻撃を受けたからとて、

靈智學會やブラヴツキーが自分の主義に背いたならば、實に馬鹿らしい事で有つたのです。

問 併し若しブラヴツキーが其の事を全然否定して仕舞つたならば、靈智學の爲めに實際の利益に成つたと思ひませんか。

答 成つたかも知れませんが、併し心靈の現象が、例へ前から誤解されて居なかつたとしても、英國の法廷では、其の現象の實在を認めただでせうか。而して、此の露探問題や、無神論及不信仰の攻撃、又其の他吾等に對する悪口非難等が出たが爲めに法廷が既に吾等を疑つて居たのを考へて見たならば、法廷で正邪を争ふ事は到底無益で有つたのは明かな事です。此の事は、心靈研究會員が、宜く知つて居つたのです。夫れ故に、吾等を壓倒し、踏臺にして自分等の利益を得んが爲めに、下劣にも自分の位置を利用したので有ります。

問 心靈研究會は現今では、Mahatmasの存在を全然否認して居つて、Mahatmasは、全くブラヴツキーが自分で作つた一つの小説の様なもので有ると言つて居ります。

答 なるほど夫れではブラヴツキーは中々巧妙な事をしました。兎に角吾等は此の説に少しも反對しません。彼女は今でも、常に言つて居る通り、自分では、人がMahatmasの存在を信じ無いのを寧ろ好んで居ります。又ブラヴツキーはMahatmasの名や、其の高大なる神聖の理想を、

現今の様に汚るるよりも、Mahatmas は自分のみの脳中に在る、即ち自分の考で作り出したので有ると、實際に思はれる方が宜いと公然言つて居ります。始はブラヴツキーは Mahatmas の存在を疑ふ者が有れば、嚴しく抗辯したけれども、今では、決して之を態々證明しないで、人には各々自分勝手の考をさせて置きます。

問 併し、無論此の Mahatmas は存在するでせう。

答 吾等は、Mahatmas は、存在して居ると断言します。併し存在すると只言つた計りでは人が満足しません。普通の多くの人、或は靈智學者でも、Mahatmas の存在して居る證據を見た事が無いと言つて居ります。之に對してブラヴツキーは次ぎの様に言つて居ります、即ち、若し彼女が Mahatmas を作り出したとすれば、其の哲學及少數の人が覺へて居る實用の智識をも、自分で作り出した事になります。而して、若し左様とすれば、自分は此の世に居つて、自分の存在は兎に角否認する事が出来ない以上は、其の Mahatmas が存在して居ても、居なくても、構はないでは有りませんか。其の Mahatmas が授けたと言ふ智識が、真正に善で有つて、普通以上の智解力の有る人が多く之を真正と信じて居るならば、其の問題に就いて其の様に喧しく騒ぐ必要は無いでせう。ブラヴツキーが詐欺者で有ると云ふ事は、決して證明されて居ません。

又何時迄も、證明されません。併し大仙人(Masters)が教へた哲學は、誰が作り出したにせよ、宜く理解しなへすれば、最も立派で有益な哲學で有ると云ふ事は、慥な事實です。夫れで、ブラヴツキーの敵は、下劣の感情、即ち憎悪、復讐、悪意、及び無理な野心等に依つて、左右せられて、彼女の智力に對し最高の稱讚を捧げて居ると云ふ事を、全く知らない様です。其様な愚説を敢て立てるならば、左様して置いても宜しいのです。實際ブラヴツキーは三重の Adepts のみならず、Mahatmas と其の敵に言はれて、少しも異存はありません。只彼女は、孔雀の羽を飾つて、威張つて居る鳥の眞似をするのが嫌で有るから、今日に至る迄も、飽く迄此の眞理を主張しなければならぬのです。

問 併し、其の様な賢良な人が、靈智學會を指導して居るのに、其の様に多くの間違が出来るのは如何なる譯ですか。

答 大仙人(Masters)は靈智學會も、創立者も指導しません。又彼等が指導したと云ふ人は一人も無いのです。彼等は只其の會を監視し、保護する丈です。此の事は、如何なる間違をしても、其の會を破壊もせず、内部から醜惡か起つても、外部から幾ら恐しい攻撃を受けても、決して其の會が滅亡しなかつたと云ふ事實に依つて、充分に證明されて居ります。大仙人(Masters)

は、現在を見ないで、未來を見て居ます。夫れ故に、間違をする度毎に、未來に經驗を積むので有ります。新約全書に有る「五金」を僕に與へた主人は其の金を倍にする方法も教へず、又其の恐かな僕が、其の金を地中に埋めるのも止めなかつたのです。人は各自分の經驗と實力とに依つて、智慧を得なければならぬのです。之よりも遙かに高尚の Master 即ち聖靈其のものを有つて居ると言ふ耶穌教會は、昔から間違のみならず、幾多の恐しい罪を犯して居ります。併し、夫れにも拘はらず、耶穌教信者に、Mathias よりも遙かに存在の假設的なる、其の Master を認めない者は、一人もありません。誰も聖靈を見た事が無いのは事實で有るのみならず耶穌教の歴史を見れば、聖靈は教會を保護した事が無いと云ふ事が明かです。兎角人間は間違をするものです。之から本論に歸りませう。

神聖なる名及語の濫用

問 夫れでは、私の聞いた事、即ち靈智學の著者に此の Masters の靈感を受け、或は Masters に會つて話をした者が多く有ると云ふ事は事實では有りませんか。

答 樹の善悪は其の果で分るのです。而して靈智學者は、皆其の書く事、又は言ふ事に依らない

で、其の行ふ事に依つて判断しなければならぬ如く、總て靈智學の著者は、其の實際の價値に依つて信じなければならぬので有つて、其の唱へる説は出所の如何に拘はらないのです。

問 併し、ブラヴツキーは、自分の著書、例へば 'The Secret Doctrine' に、此の主義を適用して居ますか。

答 無論して居ます。ブラヴツキーは其書の序文に、自分は「師」(即ち大仙人)から、習つた教を公にするけれども、此の頃自分で書いたものには、靈感等を受けたとは云つて居りません。最良の靈智學者も、此の場合には「師」の名が、吾等の著書に出て居ないのを寧ろ好むのです。例外も有るが、其の著書の多くは、不完全で有るのみならず、全く間違つたものも有つて、人を誤まらすものも有ります。二人の「師」(Teachers) の名が濫用されたのは甚しい事で有ります。降魂術媒介者は誰でも彼等二人を見た事が有ると云つて居ります。詐欺を働く會は、何れも皆營利の目的に、吾々の Masters よりも遙かに高尚と稱する Masters に依つて、指導されて居ると、今でも言つて居ります。利慾、虛榮心、無責任の媒介者等の爲めに、此の様な事を言ひ觸らす人々の罪こそ重くあります。其の様な會に依つて金を騙し取られた人々は、甚だ多くあります。其の會は、金錢の爲めに力、智識、及び精神的真理の秘密を賣らんとして居ります。最も甚

しい事は、秘密教の神聖の名及之を守る神聖の人間は、卑しい目的及不道德の行に汚されて、此の汚ない泥溝に引き込まれて居り、又幾千と云ふ多くの人は、其の様な詐偽、瞞着の爲めに、靈智學が被つた不信用、悪評を聞いて、真理の光明から、踏み迷はされて居るのです。私は重さねて言ひますが、真面目な靈智學者は、悉く今は之等神聖の名や事實を公衆の面前で荷しくも口にしたらと云ふ事を心底から悔いて居り、又其の名や事實は信用の有る少數の熱心な會員丈の中に秘して置いたならば宜かつたので有ると残念に思つて居ります。

問 近頃 Masters の名は度々聞く様ですが其の様な人が有ると云ふ事は、以前に聞いた事はありませんか。

答 左様です。而して、若し吾等が無言主義を取つて、知つて居る事を皆公表しなかつたならば、此の様な聖物濫用は、起らなかつたのです。僅か十四年前、未だ靈智學會が出来なかつた頃の話は只「亡魂」(“Spirits”)の事丈で有りました。此の事は到る所で、人が唱へて居りましたが誰も生きて居る“Adepts”や“Mahatmas”又は“Masters”(此の三の名稱は何れ)の事を唱へるなどは夢にも思はなかつたのです。鍊金方士(Rosicrucians)の名は聞いた事も殆んどなく、又秘密教(Oculturism)の様なものがあると思ふ者も、極めて少數で有りました。併し今では、夫れが

全く變つて來たのです。靈智學者は不幸にして、東洋に“Adepts”や“Masters”及秘密智識があると云ふ事實を、世間に知らしめんが爲めに、此の事を一番先に言ひ出したのです。之は今では一般に知られて居ります。夫れで其の Karma 即ち神聖の名や事柄を汚した結果を受けて居るのは吾々です。當世の文學に其の様な事柄は、随分少なく無いのですが、夫れは皆靈智學會や、其の創立者が此の方面に興へた動機に歸因するのです。而して吾等の敵は、今日に至る迄も、之に依つて利益を得て居ります。吾々の教に、反對説を唱へて居る最近の著書は二十年間 Adept であつた人が書いたと云ふ事ですが、之は明かな偽で有ります。吾等は筆記者及所謂「靈感者」を知つて居ります。如何となれば、其の筆記者は智識が無いから、其の様な事を書く事は出来ません。之等の靈感者は、生きた人間で、其の智力相應に怨深く、且つ大膽不敵です。而して、然も此の偽 Adept は、一人に止まらず、數人有るのです。靈智學を破壊する道具に用ひられた Adept の系統は十二年前に Art Magic and Ghost-Land といふ本に Emma Hardinge Britten 夫人が書いた“Louis”と云ふ人物から始まり、The Light of Egypt と云ふ本を書いた、所謂“Adept”なる著者に終つて居ります。此の本は亡魂論者が靈智學及其の教を攻撃する爲めに、書いたもので有ります。併し、過ぎた事を悔いても、無益です。只だ吾等の

望む所は、吾等が彼等の名を公にしたが爲に人が之等の Masters を幾分か易く知る事が出来たならば、幸と思ふ計りです。併し其の Masters の名は、今では到る所で濫用せられ、其の名の下に幾多の罪惡が、既に犯されて居るのです。

問 貴君は Louis は Adept で無いと思ひますか。

答 吾等は誰の非難もしません。此の非難役は吾等の敵に任して置きます。Art Magic 等の亡魂論者の著者は、此の様な Adept を知つて居るか居ないか分りません。夫れは、吾々の知つた事ではありません。斯く言ふても、其の著者が、最近五六年間に、吾等及靈智學に就て、言つたり書いたりした事よりも、私の言ふ事は、遙に控へ目で有ります。所謂 Adept が英國の Greenwich の天文臺で、愛蘭(註55)の Parsonsdown に据へ付けて在つて、何所へも動かした事の無い、Ross 卿の望遠鏡から覗いて、不思議の幻影に靈魂を見ると云ふ場合にこそ、其の Adept は科學の方面に掛てはまるで無智だと言ふても差支無いと思ひます。此の事は、吾等の「師」の弟子(Chelas)が時として犯す間違よりも甚だしいのです。而して、吾々の Masters の教を、今破壊しやうとするのは此の Adept であらう。

〔註55〕 Ghost Land と云ふ本の第一編の一三三頁を見よ。

問 貴君が此の事に就て、如何に感じて居るかは、私の宜く知る所で有つて、無理の無い事と思ひます。貴君が私に説明した事柄に關して、少し質問したい事が一つ有ります。

答 若し返答の出来る事ならば、質問に應じます。其の問題は何ですか。

結 論

靈智學會の將來

問 靈智學は未來に何う成ると思ひますか。

答 靈智學と云ふものは無限の過去から今日迄存在し來たつた如く、未來にも無限無窮に存続すると私は答へます。如何となれば靈智學は無窮の眞理と云ふ意味で有ります。

問 否、私は寧ろ靈智學會の前途を聞く積りでした。

答 其の前途は創立者の死後靈智學會の事業を行ひ、之を指導する人々の利他心、熱心、信仰及智識の程度に全然依ります。

問 其の人々には利他心や熱心もなければならぬ事は私にも宜く分りますが、何故に彼等の智

識は他の徳性程に主要なもので有るかが宜く分りません。今既に存在し又續々増加しつゝ有る靈智學の著書で充分な筈で有りませんか。

答 秘密教の専門の智識は最も必要では有りますが此の事は言ひません。私は靈智學會の後継者が之を指導するに要する公平明確の判断が最も必要で有ると言つたのです。今迄に企てた靈智學會の様なものは皆な失敗に終りました。如何となれば其の會が段々墮落して宗派と成り、自分獨特の教を作つたが爲め、生きた真理でなければ與へる事の出来ない活力を知らず識ずの中に失つて仕舞つたので有ります。吾が會員は皆何か宗派か宗教かの教育を受けた者で有り、又何れも肉體的及精神的に己れの生れた時代の影響を受けて居り、夫れが爲めに彼等の判断は多少曲偏せられ居るのを忘れてはなりません。夫れ故に若し會員が其の様な先天的の偏見を脱し少くとも之を自認し又此の偏見の爲めに道を迷はない様にする事が出来なければ、終に靈智學會は何所か思潮の淵に漂つて死骸と成り、朽ち果てゝ仕舞ふので有ります。

問 併し此の危険に罹らなければ如何ですか。

答 若し罹らなければ靈智學會は第二十世紀の後迄も廢れないで、宗教、義務、博愛に就て其の寛大高尚なる觀念が智慮有る人々に歓迎せられて、到る所に弘まる様に成ります。而して徐

徐に宗派、教義又は社會階級的偏見の拘柵を打ち破り、人種又は國民的嫌忌を取り除いて人間全體の同胞主義を實際に行ふ様に成ります。靈智學の教に依り、又靈智學が近世の人間にも分る様にした哲學に依つて、西洋の人は東洋の人を了解し、其の眞價を知る様に成ります。又亞米利加では既に前徴の顯れ居る心靈力の發達は健全且つ平穩に進む様に成ります。現今の如き利己心及情慾の温室なる社會に此の心靈力が發達すれば必然起るべき恐しい心身の危険は人類が避け得る様になります。人間の精神及心靈的發達は其の道德的進歩に伴つて進む様に成り、而して今では到る所にある不調和、奮闘がなく成つて平和及同胞的好意は人間の心に滿ち互り、其の物質的周圍に表はれ出ます。

問 夫れは美しい想像です。併し其の様な事が只一世紀の短い間に遂げられると思ひますか。

答 六ヶしいです。併し私が言つた「師」が毎世紀の終り二十五年間に特別の努力を以て人間の精神的發達を計ります。而して毎世紀の終りに成ると必ず靈性 (Spirituality) 或は神秘教 (Mysticism) と云ふ可きものが勃興します。其の「師」の代表者として誰か一二の人が世界に現れ出て、秘密の智識及教を多少弘めます。而して歴史の記録が有る限りは其の運動の跡を一世紀宛迎る事が出来します。

問 併し此の事が如何して靈智學會の將來に關係しますか。

答 若し吾が靈智學會の現今の企圖が前よりも一層の成功を見るならば、第二十二世紀の努力の時期には、其の會は組織が調つて生きて居る健全な團體として存在する様に成ります。人間精神及情の狀態は其の教の傳播に依つて一般に進歩し又純化し、而して既に述べた如く、人間の偏見や專斷的誤解は幾分なくなり成る様になります。夫れのみならず又何人でも手にする事の出来る多くの著書が現はれ、夫れから又真理の新昌道者を迎へ待つ多くの團體が出来る様になります。其の昌道者は人心の傾向は自分の使命を容れるに適し、自分の昌へる真理を表す可き言語は出来、又自分の顯出を待つて居る團體が有つて、自分の進路から只機械的物質の障害を取り去る様に成つて居るのを見ます。其の様な機會に遭遇する人が何れ丈の事を爲し遂げ得るか考へて御覽なさい。そして其の事業を、靈智學會が最近十四年間に此様な機會は少しもなく、又此の新昌道者の遭遇しない多くの障害物が有つたにも拘はらず實際爲し遂げた事業と比較して御覽なさい。此の様な事を宜く考へて見て、而して若し靈智學會が來世紀後迄も生き残つて、其の使命及本來の目的を全ふするならば、其の事が實現すると私が言ふのは餘り希望が過大でせうか。又第二十二世紀に成つて此の世が今の狀態に比ぶれば天國に成ると云ふのは餘り樂

天的でありませうか。終

註 解

A の 部

(I) ABSOLUTENESS = 「絶対」。宇宙本因に附する時には抽象の物を意味す。之は屬性も制限も無いものに「絶対的」と云ふ形容詞を附けるよりも正しく合理的である。

(II) ADAM KADMON (希伯來語)。原形の人間、即ち罪に落ちない「天國の人間」を云ふ。之を加抜刺者學者 (Kabalists) は人間知覺の狀態に於ける、十の Sephiroth と言つて居る。加抜刺者で云へば、Adam Kadmon は、吾々の云ふ第三の Logos に相當する發現したる Logos である。而して發現したる Logos は、第一の原形の理想の人間で有つて、隠れたる宇宙、即ちアリス・トートの言ふ「privation」の狀態を示す。第一の Logos は「世界の光」で有つて、第二及び第三の Logos は段々濃く成る其の蔭で有る。

(III) ADEPT (羅句語の Adeptus) 秘密教 (Oculism) では奧義に達したる秘密教哲學の得道者の事を言ふ。

(四) AETHER (希臘語)。昔の人が言ふ、全世界に満ち亘つて居る、靈性光輝を有するもの、又は最高の神、即ち Zeus 或は Jupiter の「衣」で有つて、近世の學者の言ふ精氣(Ether)で有る。物理學や化學で言ふ此の語の意味は Weibster 或は他の字書について見よ。秘密教では Aether は、宇宙七本因中の第三本因で有る。物質(土)は最下等のもので有つて、Akasha は最高のもので有る。

(五) AGATHON(希臘語)はプラートの言ふ、最高の神、即ち「善」であつて、吾々の云ふ Alaya 即ち「世界の靈」である。

(六) AGNOSTIC = 「不可思議論者」は五官に依つて證明する事の出来ないものは、何も信じないと云ふ人を示す爲めに、ハックスレーが作つた語で有る。

(七) AHANKĀRA(梵語)は自我、自知覺、或は「我は我なり」の觀念、即ち眞を悟らない人が言ふ自我、即ち人間の自己的及幻影的本因で有る。宇宙單一自我から、吾々の云ふ自我を分離するのは眞を知らないからである。之は人格及自己(Egoism)の意味で有る。

(八) AIN SUPH(希伯來語)は發現及び伸張する無極無限の神を云ふ。Ain Suph は En Soph & Ain Soph とも綴る。猶太教の僧侶でも、其の綴りは慥かに知らない。昔の希伯來の哲學者が唱へ

た宗教の形而上學では單一本因は Parabrahman の如き抽象のもので有つた。併し近世の加拔刺教の哲學者は、巧辯奇論を用ひいて、終に之を「最高の神」にして、之より高いものは無いと云つて居る。併し昔のカルデイヤ加拔刺教徒の云ふ Ain Suph は、「形も存在(being)も無く、比ぶるものも何も無いもので有つた」(Frank 氏の Die Kabbala と云ふ本の一二六頁を見よ)。

Ain Suph が「造物者」と思はれて居ない事は、Philo の如き正教徒の猶太人でも、「造物者」と云ふ名を Logos に附けて居ると云ふ事實に依つて明かである。其の Logos は、「無限單一」の次ぎで、即ち第二の神で有る。第二の神は Ain Suph の智慧に在ると、Philo は言つて居る。神(Daity)とは「無物」(No-Thing)で有つて、名が無いから Ain Suph と云ふ。Ain と云ふ語は「無」の意味で有る(又同書の一五三頁を見よ)。

(九) ALCHEMY(亞刺比亞語の Ul-Khemi) = 錬金術は名が示す如く、自然の化學で有る。併し乍ら Ul-Khemi 或は Al Kimia と云ふ語は、植物から取つた「液」と云ふ意味の希臘語から出て實際亞刺比亞語に成つた言葉で有る。錬金術は、自然の精微の力及其の力が中で働く物質の種々の状態を論ずるもので有る。多少飾り有る言葉を用ひて、利己的の世人に授けても、危険無き限りの秘術を教へやうとして、錬金術者は、原素が出た同性の物質中に、或る一種遍通

の「溶解力」が有ると云ふ事を、自分の第一原理として主張して居る。此の物質の事を、彼は「純金」或は「大物質」と言つて居る。一名 Menstruum Universale とも云ふ此の溶解力は、人體から病の種を取り去り、回春及長命の力を有つて居る。仙丹 (Philosopher's stone) とは、其の様なもので有る。錬金術は耶蘇紀元第八世紀に、亞刺比亞の大聖人で哲學者の Geber と云ふ人に依つて、始めて歐羅巴に傳へられたので有る。併し夫れより幾世紀も前に、錬金術は、支那や埃及で行はれて居つたのである。錬金術に就て多くの書類が出で、又錬金術は王や僧侶が好んで研究したと云ふ他の證據が表はれて、Hermetic 論と云ふ一般の名目の下に保存されて居る。錬金術は、三つの異なる方面、即ち宇宙、人間、地球の方面から研究されて居る。之は種々の解釋が出来る。此の三つの方法は、硫黄、水銀、鹽の三つの錬金術の特性に分つて、表はして有る。著者に依つては、其の方法が三、七、或は十二も有ると、各言ふ所が異つて居る。併し此の錬金術には、下等の金屬を純金に變化すると云ふ、唯一の目的の有る事は何れも一致して居る。併し「金」なるものは實際何を云ふので有るか、正確に知つて居る者は少ない。儘かに下等の金屬を、貴金屬に變化すると云ふ如き事は、「自然」の力に有るもので有る。併し、之は錬金術の只一の方面、即ち浮世的、或は物質的のものに過ぎないので有る。如何となれば、

夫と同じ方法は、地球の中にも行はれて居る。併し此の解釋以外に、錬金術には、全然心靈及精神的の表號的の意味が有る。加拔刺教の錬金術者は、前者を實際に行はんとすれども秘密教錬金術者は、此の金を捨てて、人間の下の四本因を、高尚神聖なる三本因に變化する事を努め、之にのみ精力を注いで居るので有る。此の神聖の三本因は、最後に合すれば一つに成る。人間存在の精神的、知覺的、心靈的及物質的の狀態は錬金術では火、空氣、水、土の四原素に譬へて有る。而して其原素は各固定、不定及び揮發の三重の組成分子を有つて居る。此の古い派の哲學に就て、世の中に知られて居る所は、殆んど無い。併し此の哲學は、未だ何れの獸帶 (Zodiac) も出来ない前から存在し、又恐らくは「自然」の力を擬人的に論じたのは、世界の何れの神學よりも先であるとして云ふ事は儘かである。又物質變化の眞の秘密は、昔知られて居て、所謂歴史時代以前に、失はれたと云ふ事も疑無いのである。近世化學の第一の根本的發見は、錬金術の御陰で有る。併し錬金術の所謂宇宙には原素は只だ一つしか無いと云ふ動かす可からざる自明の理が有るにも拘はらず、化學では金屬を原素の部類に入れて、今では夫は大なる間違であるとして云ふ事を漸く悟り始めたので有る。百科學者でも、此の錬金術の話には或は詐偽又は妄想が多いかも知れぬが、又實際の處も有る事は自認しなければならぬ。ガルヴァニ電池に依つ

て、アルカリですらも金属の分子の基礎が有ると云ふ事を発見せられたので有る。金属の分子を
含んで居る他の物質から金属を探り、又或る金属を他の金属に変化する事が出来ると云ふ問題
は、夫故に未定にして置かなければならない。又錬金術者は、必ずしも詐僞者と云ふ事も出来な
い。不屈の忍耐と誠實の心を以つて、自分の目的を果さうと云ふ決心で、苦心した者が多く有
る。之は錬金術者が其の勞力をして徒勞に歸せしめざる主要の條件として勧めて居る。

(10) ALEXANDRIAN PHILOSOPHERS = アレキサンドリア派の哲學者。此の有名な學派は、
埃及のアレキザンドリアと云ふ市で起つた。其の市は幾世紀も以前から學問や哲學の中心で有
つて Ptolemy Soter (耶蘇紀元前二八三年に死亡)が、王位に就いてから間もなく、建設せられ
たる圖書館を以て有名で有る。此の圖書館には、曾て七十萬の巻物や、書籍が有つた。又其の市
は世界で一番先に出来た科學及美術の大學校なる博物館、又科學的幾何學の元祖なる Euclid 及
今でも残つて居る圓錐曲線論の著者なる Apollonius of Perga、數學家の Nicomachus の如き
世界に有名の學者、又天文學者、博物學者及 Herophilus や Erasistratus の如き解剖學者、醫學者、
音樂家、美術家等が住んで居た所で有る。併し耶蘇紀元一七三年に Ammonius Saccas が開いた
折衷學派、即ち新プラト學派が出来た爲めに、尙更有名に成つたので有る。Ammonius Saccas

の弟子には Origen, & Plotinus & 今では歴史に有名な人々が他に多く有つた。ノスタック教の最
も有名の學者は、又アレキザンドリア市で起つたので有る。Philo Judaeus, Josephus, Talmicus,
Porphyry, Clement of Alexandria, 天文學者の Eratosthenes、處女哲學家の Hypatia、及第二流の
他の無数の學者等が、皆な、各其の時代に此の學派に屬して居て此の市を世界未曾有の最大學
府の一にしたので有る。

(11) ALTRUISM = 利他主義は羅句語の Alter 即ち「他」と云ふ語から出来たので有つて、利己
主義に反對の性質を言ふ、即ち自己を顧みないで、他人に益を爲さんとする行爲を云ふ。

(12) AMMONIUS SACCAS は耶蘇紀元第二世紀と第三世紀との間にアレキザンドリア市に居
た偉い善人の哲學者で有つて、Philaletheus 即ち「眞理を愛する者」の新プラト派の元祖で
有る。彼は貧家に生れ、父母は耶蘇教信者で有つた。併し彼の性は非常に善で、殆んど神の様で
有つたから、Theodidaktos 即ち「神の教を受けた者」と言はれて居た。彼は耶蘇教の善い所を
尊敬して居たけれども、昔の宗教よりも勝る所が耶蘇教に無いのを知つて若い時教會を脱した。

(13) ANALOGICISTS = 比喩論者とは Ammonius Saccas の弟子を言ふ。其の名を付けた譯は
總て神的傳説、神話、神秘を類似、比喩の理に依つて、解釋したからで有る。此の法則は隱秘

釋義法(Kabalah)又殊に東洋の奥義哲學派に今も用ひられて居る (Five Years of Theosophy 本に F. Subba Rao と云ふ人が書いた "The Twelve Signs of the Zodiac" を見よ)

(一四) ANANDA(梵語)は「天福」「喜」「幸福」と云ふ意味で有る。又釋迦の弟子の名で有る。

(一五) ANAXAGORAS は耶蘇紀元五百年前に居た有名の Ionian 哲學者で有つて、Miletus と云ふ所の Anaximenes と云ふ人に就て、哲學を研究し Pericles の時代に、アゼンヌ市に居た。

彼の弟子の中には Socrates, Euripides, Archelaus 及他の有名の人や哲學者が有つた。彼は非常な偉い天文學者で有つて、Pythagoras が秘密に教へた事、即ち遊星の運行及日蝕、月蝕を始めて公然と昌へた人で有る。彼の「無より起るものは無い」と云ふ原理に依つて Chaos の理を教へ、原素(Atoms)は總て物體の基礎及實質で有り、又原素が組織して居る物體と同性質で有ると云ふ理を教へたのは彼で有る。彼は之等の原素は始めに Nous(即ち宇宙的の智、或は印度教徒の言で Mahat) に依つて活動させられたもので有ると云つて居る。此の Nous は、無形、無窮及靈的のもので有る。此の結合に依つて、世界は出来、下等の物質的物體は下に沈み、精氣的原素、即ち火性の精氣は上空に上り擴つたので有る。近世科學よりも、二千年以前に彼は星は地球と同物質で太陽は熱灼せる塊體で有り、月は闇黒で有つて光を太陽から借り、人の住まはれない球體で有ると云ふ事を教へた。又此の外に彼は吾々の五官で感識する物の眞の存在は、實驗的に證明する事は出来ないといふ事を、自ら確信して居た。彼は七十二歳の時 Lampscous と云ふ所で、追放の身と成つて死んだ。

(一六) ANIMA MUNDI (羅句語)は「世界の靈魂」と云ふ意味で、北國佛教徒が言ふ Aiyaa と同意義で有る。之は又物質の最小分子より人間及び神に至る迄も、總ての物に遍在し、生及び魂を與へる所の靈精で有る。又或る意味に於て The Secret Doctrine と云ふ本に云つてある「七皮の母」で有る。即ち感情、知覺精神及び物質的の區別の七状態の精で有る。最高の状態に於ては、涅槃で有り、最下等の状態に於ては靈氣光(The astral light)で有る。ノスチック教、昔の耶蘇教及び Nazarene 教では、女性で有つて、他の宗派では男女兩性で有る。其の宗派では之を形體の物質界に於ける、四つの下等の状態、即ち火成的及び精氣的の性質及び其の三つの高尚の状態に於ける、靈性及び精神的の性質として考へたので有る。悉く人間の靈魂が Anima Mundi から分離して、生れたと云ふのは、吾々の高尚の自我が、其れと同一の性で有つて、Mahat は不知の宇宙的絶對の發現で有ると云ふ奥義的の意味で有る。

(一七) ANOIA(希臘語)は「智識の缺乏」、即ち「愚」の意味で有る。下等の Manas が無智識(Anoia)

の特徴を有つて居る Kama に餘り密接して結合した時に、プレートや他の人が之に附けた名稱で有る。希臘語の Anoa 或は Agiana は、明かに梵語の Agñāna (Agnyaana と發音する) 即ち「無智」及「智識の缺乏」から出來た語で有る。

(一八) ANTHROPOMORPHISM = 「人神同形説」は希臘語の Anthropos 即ち「人間」と云ふ語から出來て、神に人間の形、屬性、性質を附ける事を言ふ。

(一九) ANUGITA (梵語)は廣い意味に於て、Dpanishad と云ふ、即ち Mahabharata と云ふ印度の有名なる本に有る一つの哲學論で有つて非常に奧義的で有る。「東洋の秘密書」 ("The Sacred Books of the East") と云ふ本の續編に譯して有る。

(二〇) APOLLO BELVEDERE, Apollo 即ち Jupiter と Latona の子で Phoebus, Helios, the Radiant (光輝) 又は「太陽」と云ふ神の像が種々在る中で、最も宜く出來て完全なのは、Apollo Belvedere と云ふ像で有る。此の像は、羅馬の Vatican の Belvedere 美術館に有つて、Pythian Apollo と云ふ。其譯は此の神が Python と云ふ蛇を退治した時の姿を表して有るからで有る。此の像は一五〇三年に Antium の竈蹟で發見されたもので有る。

(二一) APOLLONIUS OF TYANA は耶穌紀元第一世紀の始めの頃、Cappadocia と云ふ所で

生れた不思議の哲學者で、熱心な Pythagoras 派の人で有る。彼は Euthydemus と云ふ人に就て、Phoenicia の科學を研究し、Heracles と云ふ所の、Euxenus と云ふ人に就て、Pythagoras 派の哲學や、他の學問を研究した人で有る。Pythagoras 派の教に従つて、彼は生涯非肉食論を唱へ、果實及草根を食ひ、酒を飲まず、木の皮の衣服を着し、跣足で歩き、毛髮を切らなかつた。此れは昔からの得道者が皆したので有る。彼は Heges と云ふ所で、Asclepius (Asklepios) と云ふ寺院の僧侶に就て奧義を究め、「醫の神」が行ふ病者平癒の「奇蹟」を學んだ。五年間無言の行をなし、Antioch, Ephesus, Pamphylia 及其他諸國を經廻つて旅行をなし、尙進んで奧義を學ばんとし、Babylon を經て、印度に行つた。其の印度に行くのは「魔國」に行くので有ると言つて彼の弟子は皆彼を見捨てた。夫れ故に彼は單獨で行つたので有る。併し途中で偶然に出來た Dammis と云ふ弟子は、彼の旅行に同伴した。其の弟子の話に依ると、彼は Babylon と Chaldees や Magi から奧義を學んだと云ふ事である。此の話は、百年後に Philostratus と云ふ人に依つて傳へられたので有る。印度から歸へつた後ちに、彼が豫言した疫病、地震、王の死及他の出來事は其の豫言通りに起つたので、彼は眞の Initiate (得道者) の名を爲した。彼が Lesbos と云ふ所に行つた時、Orpheus の僧侶は彼を妬んで、自分特有の秘密を彼に授けな

かつた。併し五六年後に至つて終に之を授けた。彼は Athens や他の國の人々に最も純粹で高尚な倫理學を教へ、彼の表はした現象は驚く可きもので、數多く又立派な證據が有つた。Justin Martyr が驚いて、問ふて曰く「Apolloniusの護符は何う云ふ譯で力が有るか、其の護符は怒濤、暴風及野獸の襲撃を避ける事が出来るが、耶蘇の奇蹟は只傳説に依つて傳はつて居るのみである。然るに Apollonius の奇蹟は、非常に數が多く、現在の事實に實際表れて居る (Quest, xxiv.) 併し、之に對する答は容易に出来る、即ち彼が Hindu-Kush を越して後に、或る王に依つて仙人の住家に案内せられた。其の仙人は、彼に其の大智識を授け、今日に至る迄も、其所に居るかも知れない。彼が Corinth の Menippus とした問答は、眞に奧義教の問答で有つて、之を解釋すれば、自然の大事の秘密が多く分る。Apollonius は、王や女王の友人、通信者及客人で有つた、而して彼の法術程充分に證據の有る法術は無い。彼の長い不思議の生涯の末年に至つて、彼は Ephesus と云ふ所で、奧義教の學校を開き、百年も長生して死んだ。

(III) ARCHANGEL = 「最高の天使」或は「大天使」は Arch 「大」及 Angelos 「使」と云ふ希臘語から出來た語で有る。

(III) ARHAT (梵語) は又 Arhat, Arhan, Rahat 等とも讀み又書く。「善人」又は「完全の Arya」

即ち生れ變りの厄を逃れ、神聖の名を以て稱するに足る人を云ふ。之の名は始めて Jain 教の人に附け、後に奧義教の秘密を學んだ佛敎の聖人に附けた名で有る。Arhat は最後、最高の状態に入り、生れ變りを免れた人で有る。

(II) ARIANS とは第四世紀に於ける Alexandria 市の教會の長老なる Arius の弟子を云ふ。此の派の人は耶蘇は「父なる神」(God the Father) よりも劣り、造られたもので人間で有るけれども、高尚な人間で神聖の秘密を皆知つて居る眞の仙人(Adept)で有ると思つて居る。

(II) ARISTOBULEUS はアレキザンドリアの文學者で無名の哲學者で有つた。此の猶太人は Aristotorenus Moses の奧義の教を説明したと唱へた人である。

(II) ARYAN の文字通りの意味は「神聖なるもの」で「高尚の眞理」(Arya-Satyani)を學ぶ、涅槃或は Moksha 即ち「四重の高尚な道」(Arya Margu)に這入つた人々を云ふ。此の人々は元は Rishis と言はれて居た。併し其の名は、今では人種の名と成り、吾が東洋學者は Hindu Brahmins の權利を奪ひ取つて、總ての歐羅巴人を Aryan 人として仕舞つたので有る。奧義教に於て、其の四つの状態は、精神的の大發達及靈性の増進に依らざれば、這入る事が出来ないのであるから Arya-Marga と言はれて居る。Arhat の階級は、各 Srotapatti, Sakridagamin,

Angamin 及び Arhat 即ち Aryas の四階級と云つて、其の四状態及び真理に一致する。
 (二六) ASPECT = 「見地」或は「状態」とは七本因の人間、或は自然の何れの本因にでも、發現する所の形状 (Rupa) は靈智學に於て、其の本因の「状態」(Aspect) と云ふ。

(二七) ASTRAL BODY = 靈氣體とは物質體の精氣的複體で、獨逸語の Doppelgänger で有る。

(二八) ASTROLOGY = 占星學とは此の世に現る、天體の運動を論じ、星座より判斷して未來の出來事を豫言し得ると云ふ學問を言ふ。此の學問は、太古から傳つて居るので、人間の學問中最も古いものの中に數へられて居る。東洋では幾世紀間も、之を秘密の學問として有つた。又今日に至る迄も其の奧義は矢張り秘密に成つて居る。其の公然の適用は今より凡そ千四百年前に Varaha Mihira と云ふ人が占星學の書を著してから以來、今日に至る迄に西洋に於て少しでも發達すればしたるので有る。Claudius Ptolemy と云ふ名の天文學を發見した有名の地理學者や數學家が耶蘇紀元一三五年に Tetrabiblos と云ふ本を著した。其の本は今でも占星學の基礎に成つて居る。占星學は現今に於て、重もに四つの題目に分たれて研究されて居る、即ち「第一」氣象學、地震學、農學に適用したる地球上星學、「第二」國民及び王の未來に關する國家的星學、「第三」如何なる問題に就ても、心に起る疑惑の解決に關する、一時的星學、「第四」

生れてから死ぬる迄の個人の未來に關したる占の星學である。埃及人や Chaldee 人の星の讀み方は、近世の讀み方と大いに異つて居るけれども、彼等は占星術を最も古くから信じて居た。彼等の占星術では Belus 即ち Chaldee 人の Bel 或は Eni 即ち神代、即ち王神の御代の裔は Khemi の國に屬して居つて、Euphrates 川の邊に埃及人の殖民地を開く爲めに、其の國を去つたので有つて、其の邊には「星の神」に仕へて居る僧侶が守るべき寺を建てたので有ると言つて居る。此の占星術の起原に就ては、一方では Hebes 人が之を發明したと言つて居るけれども、又一方では Chaldee 人が、之を他國の人に教へたと云ふ事は、一般に信じられて居る。併し Hebes は Chaldee 人の Dr と云ふ所のみならず、又 Bel が始めて祭られた所の Nipur よりも遙かに前から存在して居たので有る。Bel の子(月)なる Sin は Dr 即ち Sabea 人の占星學者なる Terai 及び聖書に有る大占星學者なる彼の子の Abiam が生れた國の Dr と云ふ所の鎮守の神で有る。斯の如く總ての説は埃及人が之を發明したと云ふ説に傾いて居る。若し其の後に至つて、占星術者の名が、羅馬及其他の國に於て、擯斥される様になつたとすれば、夫れは秘密の神聖科學の一部分を金儲の種にしやうとした人々の詐偽の爲め有る。其の人々は其の秘密の神聖科學は、如何なるもので有るかを知らないで、彼の物質的天體を、Dadmi 或は